医歯学総合研究科
医歯理工学専攻
修士課程履修要項

平 成 24 年 度

東京医科歯科大学大学院

目　　次

1．医歯学総合研究科医歯理工学専攻修士課程の概要…… 1
2．修了要件及び履修方法…… 5
3．平成24年度医歯理工学専攻修士課程授業時間割…… 11
4．授業科目の講義内容…… 15
（1）医歯学総合概論 …… 16
（2）初期研究研修 …… 18
（3）医歯理工学先端研究特論 …… 20
（4）課題研究 …… 24
（5）医科学演習 …… 26
（6）医科学実習 …… 27
（7）歯科学演習 …… 28
（8）歯科学実習 …… 29
（9）口腔保健学演習 …… 30
(10) 口腔保健学実習 …… 31
(11) 理工学演習 …… 32
(12) 理工学実習 …… 33
(13) 人体形態学
(14) 口腔形態学 …… 34
(15) 人体機能学 …… 36
(16) 病理病態学 …… 38
(17) 環境社会医歯学 …… 40
(18) 口腔保健臨地実習 …… 42
(19) 病院実習 …… 44
(20) 生化学 …… 46
(21) 薬理学 …… 48
(22) 免疫学 …… 50
(23) 発生・再生科学 …… 52
(24) 細胞生物学特論 …… 54
(25) 神経疾患特論 …… 56
(26) 遺伝医学特論 …… 58
(27) 口腔保健福祉学 …… 62
(28) バイオインフォマティクス …… 64
(29) 疾患オミックス情報学特論 …… 66

(30) 機能分子化学 …… 68
(31) ケミカルバイオロジー特論 …… 70
(32) ケミカルバイオロジー技術特論 …… 72
(33) 分子構造学特論 …… 74
(34) 生体材料学 …… 76
(35) バイオメディカル理工学 …… 78
(36) 人間環境医療工学 …… 80
(37) 医歯薬産業技術特論 …… 82
(38) 英語交渉・ディベート特論 …… 84
(39) 研究倫理・医療倫理学 …… 86
(40) トランスレーショナルリサーチ特論 …… 88
(41) クリニカルインフォマティクス特論 …… 90
(42) 産学リンケージ特論 …… 92
5．医療管理政策学（MMA）コース授業科目 …… 95
平成24年度医療管理政策学（MMA）コース授業時間割 …… 96
系名：1．医療政策
（1）医療提供政策論 …… 97
（2）医療社会政策論 …… 98
（3）世界の医療制度 …… 99
（4）医療保険論 …… 100
（5）医療保険制度改革論 …… 101
（6）医療計画制度 …… 102
（7）医療産業論 …… 103
（8）医療経済論 …… 104
系名：2．医療の質確保とリスク管理
（1）医療と社会の安全管理 …… 105
（2）医療機関リスク管理 …… 106
（3）医療のＴＱＭ …… 107
（4）医療機能評価 …… 108
系名：3．医療関連法規と医の倫理
（1）医療制度と法 …… 109
（2）医事紛争と法 …… 110
（3）生命倫理と法 …… 111
系名：4．病院情報とセキュリティー
（1）病院情報管理学 …… 112

（2）診断情報管理学 …… 113
（3）ＩＴ時代の医療診断システムとセキュリティー …… 114
系名：5．医療の国際文化論
（1）医療思想史 …… 115
（2）世界の文化と医療 …… 116
（3）世界の宗教と死生観 …… 117
系名：6．施設設備と衛生管理
（1）病院設計病院設備 …… 118
（2）衛生工学汚染管理 …… 119
系名：7．経営戦略と組織管理
（1）戦略と組織 …… 120
（2）財務・会計 …… 121
（3）ロジスティクス …… 122
系名：8．人的資源管理と人材開発
（1）人的資源管理 …… 123
（2）人材の開発と活用 …… 124
（3）医療におけるリーダーシップ論 …… 125
系名：9．医療における情報発信
（1）医療とコミュニケーション …… 126
（2）ヘルスリテラシーと啓発論 …… 128
（3）医学概論 …… 129
系名：10．臨床疫学
（1）臨床研究・治験 …… 130
（2）健康情報データベースと統計分析 …… 131
6．諸規則…… 133
◯東京医科歯科大学大学院学則…… 134
◯東京医科歯科大学大学院履修規則…… 145
◯東京医科歯科大学学位規則…… 148
◯東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科委員会修士（医科学・歯科学・…… 153
口腔保健学・理学・工学）に係る学位論文審査及び試験内規
◯東京医科歯科大学大学院ＧＰＡ制度に関する要項…… 155
7．学生周知事項…… 157
8．諸手続き…… 160
9．学内主要施設…… 163
10．校内案内図…… 163

１．医歯学総合研究科医歯理工学専攻修士課程の概要

人材育成目標

医学、歯学、生命理工学を中心とする多分野融合を実現した体系的な教育課程を基に、生命科学領域の相互連携を図り、人類の健康と福祉に関する幅広い知識および高い倫理観を有する医学、歯学、生命理工学分野の教育者、研究者、技術者等を育成する。

なお、医療管理政策学コースにおいては医療サービスに関わる社会的ニーズに応えるため、指導的立場で活躍する人材養成課程を基に医療管理ならびに医療政策の分野において、患者中心のより良い医療を効率的に提供できる社会システムの構築に寄与する人材を育成する。

アドミッションポリシー

本専攻が掲げる人材育成目標に鑑みて、本専攻では協調性に富み、自分の考えを的確に表現し伝えるとことができ、入学後の修学に必要な英語力を有している者で、下記の項目のいずれかに該当する者を求める。

・ 医科学を学習するのに必要な基礎知識を有し、専門知識を体系的、集中的に学びとる意欲を有している。

・ 歯科学を学習するのに必要な基礎知識を有し、専門知識を体系的、集中的に学びとる意欲を有している。

・ 生命理学を学習するのに必要な基礎知識を有し、専門知識を体系的、集中的に学びとる意欲を有している。

・ 生体工学を学習するのに必要な基礎知識を有し、専門知識を体系的、集中的に学びとる意欲を有している。

・ 口腔保健学を学習するのに必要な基礎知識を有し、専門知識を体系的、集中的に学びとる意欲を有している。

・ 医療管理政策学を学習するのに必要な基礎知識又は実務経験を有し、医療管理政策の展望について自らの考えを論理的に表現することができ、さらなる専門知識を体系的・集中的に学びとる意欲を有している。

カリキュラムポリシー

医歯理工学専攻においては、人類の健康と福祉に関する幅広い知識および高い倫理観を有する教育者、研究者、技術者等を育成するため、専門分野だけでなく、医学、歯学、生命理工学を中心とした多分野融合教育を推進する。

1. 早期に研究能力が修得できるカリキュラム編成としている。

2. １年次初期において医歯科学および疾病における広範な基礎的知識を修得するための科目を設置している。

3. 医療倫理、安全管理を含めた、病院実習、臨地実習科目を設置している。

4. 学生の進路希望に対応した学位取得を可能とするために、各々の希望に沿った履修モデルを設定している。

5. 医学領域、歯学領域、口腔保健学の教育、研究、実務に従事する人材を育成するため、専門知識の修得に必要な関連科目を設置している。

6. 生命理学、生体工学の教育、研究、実務に従事する人材を育成するため、専門知識の修得に必要な関連科目を設置している。

7. 所属専攻分野を超えた生命科学領域の高度な専門知識の修得のため、専門の異なる複数教員による医歯工連携科目を基礎科目として設置している。

8. 所属専攻分野を超えた生命科学領域の高度な専門知識の修得のため、充実した専門発展科目を選択科目として設置している。

9. 所属専攻分野における高度な知識および実務能力の修得のために、演習・実習科目を設定し複数教員による指導を行う。

10. 博士課程進学希望者に対して、研究を自ら立案・遂行できる能力を修得させるカリキュラム構成としている。

ディプロマポリシー

所定の期間在学し、医歯理工学専攻の開設科目や本専攻が認めた他大学の授業科目を履修して修了要件単位数を修得し、本専攻が行う修士論文又は課題研究報告の審査および最終試験に合格した以下のいずれかの学識および実務能力を修得した者に、対応する名称の学位を授与する。

1. 修士（医科学）

医学領域の教育、研究、実務に従事できる人材となっており、高度な学識および実務能力を修得している。

2. 修士（歯科学）

歯学領域の教育、研究、実務に従事できる人材となっており、高度な学識および実務能力を修得している。

3. 修士（理学）

生命理学領域の教育、研究、実務に従事できる人材となっており、高度な学識および実務能力を修得している。

4. 修士（工学）

生体工学領域の教育、研究、実務に従事できる人材となっており、高度な学識および実務能力を修得している。

5. 修士（口腔保健学）

口腔保健領域の教育、研究、実務に従事できる人材となっており、高度な学識および実務能力を修得している。

標準修業年限

標準修業年限　２年

２．修了要件及び履修方法

１．修了要件

医歯理工学専攻に２年以上在学し、授業科目を３０単位以上修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

２．履修方法

履修登録は、指導教員と相談のうえ、履修する科目を決定し、所定の期間内に登録の手続きを行わなければならない。履修登録の受付は学務部教務課大学院室にて行う。

※取得する学位により、履修科目が異なるため、履修登録にあたっては事前に指導教員と授業の履修方法等について、相談のうえ行うこと。

１）履修科目について

本専攻において修得すべき３０単位の履修方法は、次のとおりとする。
取得学位の必修科目を履修し、選択科目と合わせて３０単位以上を履修すること。なお、「医歯学総合概論」「初期研究研修」「医歯理工学先端研究特論」「課題研究」の８単位はすべての学位に共通する必修科目のため、必ず履修すること。なお、次ページの「開設科目及び修得単位一覧表」は、５つの取得学位別の必修科目と選択科目、及びその単位数を示している。◎は必修科目、斜線が入っているものは受講できない科目である。また選択科目の中から、必要単位数に達するように科目登録を行うこと。

２）履修科目の追加について

履修科目を追加する場合は、各年度当初に履修登録を受け付ける。追加履修をする場合も、所定の期間内に学務部教務課大学院室に申し出ること。

３）医療管理政策学（MMA）コースの講義について

次ページに記載されている選択科目のほかに、医療管理政策学（MMA）コースの科目を<u>年間１０単位</u>まで、受講することができる。取得した単位は修了要件単位及びGPAにも算入されるものとする。なお、医療管理政策学（MMA）コースの開設科目については、９５ページ以降を参照すること。

４）履修に関する注意事項

履修科目の選択に際してはシラバスを熟読し、指導教員と相談のうえ、履修の手続きを行うこと。

開設科目及び修得単位一覧表

	科目名	科目コード	単位数	取得学位					科目責任者
				医科学	歯科学	口腔保健学	理　学	工　学	
1	医歯学総合概論	3001	2	◎	◎	◎	◎	◎	研究科長
2	初期研究研修	3002	1	◎	◎	◎	◎	◎	教育委員長
3	医歯理工学先端研究特論	3003	1	◎	◎	◎	◎	◎	教育委員長
4	課題研究	3004	4	◎	◎	◎	◎	◎	指導教員
5	医科学演習	3005	4	◎					指導教員
6	医科学実習	3006	4	◎					指導教員
7	歯科学演習	3007	4		◎				指導教員
8	歯科学実習	3008	4		◎				指導教員
9	口腔保健学演習	3009	4			◎			指導教員
10	口腔保健学実習	3010	4			◎			指導教員
11	理工学演習	3011	4				◎	◎	指導教員
12	理工学実習	3012	4				◎	◎	指導教員
13	人体形態学	3013	1	◎			いずれか1科目履修可能※1	いずれか1科目履修可能※1	寺田
14	口腔形態学	3014	1		◎	◎			高野
15	人体機能学	3015	1	◎	◎	◎	選択科目	選択科目	水島
16	病理病態学	3016	1	◎	◎	◎			岡澤
17	環境社会医歯学	3017	1	◎	◎	◎			河原
18	口腔保健臨地実習	3018	2	選択科目	選択科目	◎			品田
19	病院実習	3019	1			選択科目			教育委員長
20	生化学	3020	2						北嶋
21	薬理学	3021	2						黒川
22	免疫学	3022	2						鍔田
23	発生・再生科学	3023	2						浅原
24	細胞生物学特論	3024	1						澁谷
25	神経疾患特論	3025	2						田中
26	遺伝医学特論	3026	2						稲澤
27	口腔保健福祉学	3027	2						品田
28	バイオインフォマティクス	3028	2						田中博
29	疾患オミックス情報学特論	3029	2						田中博
30	機能分子化学	3030	2						玉村
31	ケミカルバイオロジー特論	3031	2						影近
32	ケミカルバイオロジー技術特論	3032	2						細谷
33	分子構造学特論	3033	2						伊藤
34	生体材料学	3034	2						由井
35	バイオメディカル理工学	3035	1						三林
36	人間環境医療工学	3036	2						岸田
37	医歯薬産業技術特論	3037	1						岸田
38	英語交渉・ディベート特論	3038	2						村松
39	研究倫理・医療倫理学	3039	1						吉田
40	トランスレーショナルリサーチ特論	3040	2						村松
41	クリニカル・インフォマティクス特論	3041	2						村松
42	産学リンケージ特論	3042	2						玉村

◎　：　必修科目　　※1　：　人体形態学・口腔形態学は同時間帯に同教室で行われるのでどちらか一方のみ選択可能

医療管理政策学（MMA）コース科目

系名		科目名	科目コード	単位数	取得学位				
					医科学	歯科学	口腔保健学	理　学	工　学
1．医療政策	1	医療提供政策論	4011	1					
	2	医療社会政策論	4012	1					
	3	世界の医療制度	4013	1					
	4	医療保険論	4014	1					
	5	医療保険制度改革論	4015	1					
	6	医療計画制度	4016	1					
	7	医療産業論	4017	1					
	8	医療経済論	4018	1					
2．医療の質確保とリスク管理	1	医療と社会の安全管理	4021	1					
	2	医療機関リスク管理	4022	1					
	3	医療のＴＱＭ	4023	1					
	4	医療機能評価	4024	1					
3．医療関連法規と医の倫理	1	医療制度と法	4031	1					
	2	医事紛争と法	4032	1					
	3	生命倫理と法	4033	1					
4．病院情報とセキュリティー	1	病院情報管理学	4041	1					
	2	診断情報管理学	4042	1					
	3	ＩＴ時代の医療診断システムとセキュリティー	4043	1					
5．医療の国際文化論	1	医療思想史	4051	1					
	2	世界の文化と医療	4052	1					
	3	世界の宗教と死生観	4053	1					
6．施設設備と衛生管理	1	病院設計・病院設備	4061	1					
	2	衛生工学・汚染管理	4062	1					
7．経営戦略と組織管理	1	戦略と組織	4071	1					
	2	財務・会計	4072	1					
	3	ロジスティクス	4073	1					
8．人的資源管理と人材開発	1	人的資源管理	4081	1					
	2	人材の開発と活用	4082	1					
	3	医療におけるリーダーシップ論	4083	1					
9．医療における情報発信	1	医療とコミュニケーション	4091	1					
	2	ヘルスリテラシーと啓発論	4092	1					
	3	医学概論	4093	1					
10．臨床疫学	1	臨床研究・治験	4101	1					
	2	健康情報データベースと統計分析	4102	1					

１０単位まで選択可能

ＭＭＡの講義は大学院講義室（３号館６階）で次の時間に行われる。

時限	ＭＭＡ １時限目	ＭＭＡ ２時限目
授業時間	１８：００～１９：３０	１９：４０～２１：１０

時間割は９６ページ参照

5）取得学位別履修例について

以下は、取得学位別の履修例を示している。必修科目はもれなく受講すること。なお、選択科目についてはあくまで例なので、受講する科目は指導教員と相談のうえ、決めること。

学位別履修例

Ⅰ．医科学

必修科目		選択科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
医歯学総合概論	2	病院実習	1
初期研究研修	1	研究倫理・医療倫理学	1
医歯理工学先端研究特論	1	生化学	2
課題研究	4	遺伝医学特論	2
医科学演習	4	神経疾患特論	2
医科学実習	4	薬理学	2
人体形態学	1		
人体機能学	1		
病理病態学	1		
環境社会医歯学	1		
（必修科目単位合計）	２０	（選択科目単位数合計）	１０
合計単位数　　３０単位			

Ⅱ．歯科学

必修科目		選択科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
医歯学総合概論	2	細胞生物学特論	1
初期研究研修	1	医歯薬産業技術特論	1
医歯理工学先端研究特論	1	免疫学	2
課題研究	4	発生・再生科学	2
歯科学演習	4	神経疾患特論	2
歯科学実習	4	機能分子化学	2
口腔形態学	1		
人体機能学	1		
病理病態学	1		
環境社会医歯学	1		
（必修科目単位合計）	２０	（選択科目単位数合計）	１０
合計単位数　　３０単位			

Ⅲ．口腔保健学

必修科目		選択科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
医歯学総合概論	2	研究倫理・医療倫理学	1
初期研究研修	1	細胞生物学特論	1
医歯理工学先端研究特論	1	口腔保健福祉学	2
課題研究	4	ｹﾐｶﾙﾊﾞｲｵﾛｼﾞｰ特論	2
口腔保健演習	4	生体材料学	2
口腔保健実習	4		
口腔形態学	1		
人体機能学	1		
病理病態学	1		
環境社会医歯学	1		
口腔保健臨地実習	2		
（必修科目単位合計）	２２	（選択科目単位数合計）	8
合計単位数　　３０単位			

Ⅳ．理学

必修科目		選択科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
医歯学総合概論	2	ﾊﾞｲｵﾒﾃﾞｨｶﾙ理工学	1
初期研究研修	1	病院実習	1
医歯理工学先端研究特論	1	疾患ｵﾐｯｸｽ情報学特論	2
課題研究	4	産学ﾘﾝｹﾞｰｼﾞ特論	2
理工学演習	4	人間環境医療工学	2
理工学実習	4	機能分子化学	2
		ﾄﾗﾝｽﾚｰｼｮﾅﾙﾘｻｰﾁ特論	2
		ｸﾘﾆｶﾙ・ｲﾝﾌｫﾏﾃｨｸｽ特論	2
（必修科目単位合計）	１６	（選択科目単位数合計）	１４
合計単位数　　３０単位			

Ⅴ．工学

必修科目		選択科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
医歯学総合概論	2	人体形態学	1
初期研究研修	1	医歯薬産業技術特論	1
医歯理工学先端研究特論	1	生化学	2
課題研究	4	発生・再生科学	2
理工学演習	4	分子構造学特論	2
理工学実習	4	ﾊﾞｲｵｲﾝﾌｫﾏﾃｨｸｽ	2
		産学ﾘﾝｹﾞｰｼﾞ特論	2
		ｸﾘﾆｶﾙ・ｲﾝﾌｫﾏﾃｨｸｽ特論	2
（必修科目単位合計）	１６	（選択科目単位数合計）	１４
合計単位数　　３０単位			

３．成績

１）成績評価について

授業科目の成績は、以下の基準に従い、秀・優・良・可を合格、不可を不合格とする。

評価			GP※2
合格	秀	９０～１００点	4
	優	８０～８９点	3
	良	７０～７９点	2
	可	６０～６９点	1
不合格	不可	０～５９点	0

※2　２）GPA について　参照

２）GPA について

GPA とは、履修した各科目の成績評価に対して、それぞれポイント（GP）を定め、成績の平均値を示す成績評価結果の表示方法のひとつである。GPA は当該年度のものと累積のものを算出するが、成績証明書には累積 GPA を表示するものとする。

Ⅰ．GPA 算出方法

$$\frac{\text{「秀」取得単位数}\times 4+\text{「優」取得単位数}\times 3+\text{「良」取得単位数}\times 2+\text{「可」取得単位数}\times 1+\text{「不可」取得単位数}\times 0}{\text{履修登録単位数}}$$

※小数点第３位以下は切り捨て

Ⅱ．履修取消について

履修取消とは、一旦履修登録した科目を大学の定める一定期間※3に本人からの請求により、履修を取り消すことをいう。履修取消を行った科目に関しては、GPA には算入されず、成績証明書にも記載されない。
履修取消の手続きは、所定の様式（履修登録科目の取消願）により学務部教務課大学院室に提出する。なお、期間内に履修取消の手続きを行わず、自ら履修を放棄した場合は「不可」評価（GP＝０）とする。

※3　履修取消の期間は、各授業科目の第５回目（MMAは３日目）の講義が開始されるまでとする。なお、夏期休業期間中等に行われる集中講義については、当該科目の履修確定日の翌日から授業開始日の前日までとする。

４．講義時間

講義は次の時間帯に行う。

時　　限	1	2	3	4	5	6	7
授業時間	８：５０ 〜 １０：２０	１０：３０ 〜 １２：００	１３：００ 〜 １４：３０	１４：４０ 〜 １６：１０	１６：２０ 〜 １７：５０	１８：００ 〜 １９：３０	１９：４０ 〜 ２１：１０

５．講義室、実習室

講義は主に下記の講義室で行われるので、講義室の場所を把握しておくこと。なお、科目によっては下記以外の講義室で行う場合もあるので、その都度確認すること。
また､講義室､実習室に個人の所有物などを放置しないように注意すること。
時間外使用を希望する場合は、教務課大学院室（内線：4534）に申し出て許可を得る必要がある。

湯島地区	3号館6階	大学院講義室
	M&Dタワー2階	共用講義室2
	M&Dタワー4階	図書館情報検索室
	M&Dタワー11階	大学院講義室3
	M&Dタワー21階	大学院講義室1
	M&Dタワー23階	共用セミナー室3
駿河台地区	難治疾患研究所1階	会議室
	生体材料工学研究所	実習室･他

3. 平成24年度医歯理工学専攻修士課程授業時間割

平成24年度

月日	曜日	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～17:50	18:00～21:10	
4月1日	日						
4月2日	月						
4月3日	火						
4月4日	水						
4月5日	木						
4月6日	金	14：00　ガイダンス					↑履修登録受付期間↓
4月7日	土						
4月8日	日						
4月9日	月						
4月10日	火	13：00　入学式					
4月11日	水	医歯学総合概論1	人体/口腔形態学1				
4月12日	木	医歯学総合概論2	人体/口腔形態学2			英語交渉・ディベート特論1/2	
4月13日	金	医歯学総合概論3	人体/口腔形態学3	研究倫理・医療倫理学1			
4月14日	土						
4月15日	日						
4月16日	月	（ＲＩ取扱者に対する安全取り扱い講習会）					
4月17日	火	初期研究研修(10:00～17:00)					
4月18日	水						
4月19日	木					英語交渉・ディベート特論3/4	↑履修登録修正期間↓
4月20日	金						
4月21日	土						
4月22日	日						
4月23日	月	医歯学総合概論4	人体/口腔形態学4 ケミカルバイオロジー特論1	研究倫理・医療倫理学2			
4月24日	火	医歯学総合概論5	人間環境医療工学1	研究倫理・医療倫理学3	人体/口腔形態学5 (14:40～16:10)		
4月25日	水	医歯学総合概論6	人体/口腔形態学6	研究倫理・医療倫理学4			
4月26日	木	医歯学総合概論7	人体/口腔形態学7	研究倫理・医療倫理学5		英語交渉・ディベート特論5/6	
4月27日	金	医歯学総合概論8	人体/口腔形態学8	研究倫理・医療倫理学6			
4月28日	土						
4月29日	日						
4月30日	月						
5月1日	火						
5月2日	水						
5月3日	木						
5月4日	金						
5月5日	土						
5月6日	日						
5月7日	月	医歯学総合概論9	病理病態学1 ケミカルバイオロジー特論2	研究倫理・医療倫理学7			
5月8日	火	医歯学総合概論10	病理病態学2 人間環境医療工学2	研究倫理・医療倫理学8		トランスレーショナルリサーチ特論1/2	
5月9日	水	医歯学総合概論11	バイオインフォマティクス1	生化学1			
5月10日	木	医歯学総合概論12	病理病態学3 生体材料学1	生化学2		英語交渉・ディベート特論7/8	
5月11日	金	医歯学総合概論13	病理病態学4	生化学3			
5月12日	土						
5月13日	日						
5月14日	月	医歯学総合概論14	病理病態学5 ケミカルバイオロジー特論3	生化学4			
5月15日	火	医歯学総合概論15	病理病態学6 人間環境医療工学3	生化学5			
5月16日	水	バイオインフォマティクス2	バイオインフォマティクス3	生化学6		トランスレーショナルリサーチ特論3/4	
5月17日	木	人体機能学1 生体材料学2	病理病態学7 生体材料学3	生化学7		英語交渉・ディベート特論9/10	
5月18日	金	人体機能学2	病理病態学8	生化学8			
5月19日	土						
5月20日	日						
5月21日	月	人体機能学3 ケミカルバイオロジー特論4	環境社会医歯学1 ケミカルバイオロジー特論5	生化学9			
5月22日	火	人体機能学4 人間環境医療工学4	環境社会医歯学2 人間環境医療工学5	生化学10			
5月23日	水	バイオインフォマティクス4	バイオインフォマティクス5	生化学11		トランスレーショナルリサーチ特論5/6	
5月24日	木	人体機能学5 生体材料学4	環境社会医歯学3 生体材料学5	生化学12		英語交渉・ディベート特論11/12	
5月25日	金	人体機能学6	環境社会医歯学4	生化学13			
5月26日	土						
5月27日	日						

3. 平成24年度医歯理工学専攻修士課程授業時間割

月日	曜日	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～17:50	18:00～21:10
5月28日	月	人体機能学7 ケミカルバイオロジー特論6	環境社会医歯学5 ケミカルバイオロジー特論7	生化学14		
5月29日	火	人体機能学8 人間環境医療工学6	環境社会医歯学6 人間環境医療工学7	生化学15		
5月30日	水	バイオインフォマティクス6	バイオインフォマティクス7	薬理学1		トランスレーショナルリサーチ特論7/8
5月31日	木	遺伝医学特論1 生体材料学6	環境社会医歯学7 生体材料学7	薬理学2		英語交渉・ディベート特論13/14
6月1日	金	遺伝医学特論2	環境社会医歯学8	薬理学3		
6月2日	土					
6月3日	日					
6月4日	月	遺伝医学特論3 ケミカルバイオロジー特論8	遺伝医学特論4 ケミカルバイオロジー特論9	薬理学4		
6月5日	火	遺伝医学特論5 人間環境医療工学8	遺伝医学特論6 人間環境医療工学9	薬理学5		
6月6日	水	バイオインフォマティクス8	バイオインフォマティクス9	薬理学6		トランスレーショナルリサーチ特論9/10
6月7日	木	遺伝医学特論7 生体材料学8	遺伝医学特論8 生体材料学9	薬理学7		英語交渉・ディベート特論15
6月8日	金	遺伝医学特論9	遺伝医学特論10	薬理学8		
6月9日	土					
6月10日	日					
6月11日	月	遺伝医学特論11 ケミカルバイオロジー特論10	遺伝医学特論12 ケミカルバイオロジー特論11	薬理学9		
6月12日	火	遺伝医学特論13 人間環境医療工学10	遺伝医学特論14 人間環境医療工学11	薬理学10		
6月13日	水	バイオインフォマティクス10	バイオインフォマティクス11	薬理学11		トランスレーショナルリサーチ特論11/12
6月14日	木	遺伝医学特論15 生体材料学10	神経疾患特論1 生体材料学11	薬理学12		
6月15日	金	神経疾患特論2	神経疾患特論3	薬理学13		
6月16日	土					
6月17日	日					
6月18日	月	神経疾患特論4 ケミカルバイオロジー特論12	神経疾患特論5 ケミカルバイオロジー特論13	薬理学14		
6月19日	火	神経疾患特論6 人間環境医療工学12	神経疾患特論7 人間環境医療工学13	薬理学15		
6月20日	水	バイオインフォマティクス12	バイオインフォマティクス13	細胞生物学特論1 バイオメデイカル理工学1		トランスレーショナルリサーチ特論13/14
6月21日	木	神経疾患特論8 生体材料学12	神経疾患特論9 生体材料学13	細胞生物学特論2 バイオメデイカル理工学2		
6月22日	金	神経疾患特論10	神経疾患特論11	細胞生物学特論3 バイオメデイカル理工学3		
6月23日	土					
6月24日	日					
6月25日	月	神経疾患特論12 ケミカルバイオロジー特論14	神経疾患特論13 ケミカルバイオロジー特論15	細胞生物学特論4 バイオメデイカル理工学4		
6月26日	火	神経疾患特論14 人間環境医療工学14	神経疾患特論15 人間環境医療工学15	細胞生物学特論5 バイオメデイカル理工学5		
6月27日	水	バイオインフォマティクス14	バイオインフォマティクス15	細胞生物学特論6 バイオメデイカル理工学6		トランスレーショナルリサーチ特論15
6月28日	木	生体材料学14	生体材料学15	細胞生物学特論7 バイオメデイカル理工学7		
6月29日	金			細胞生物学特論8 バイオメデイカル理工学8		
6月30日	土					
7月1日	日					
7月2日	月	病院実習			ケミカルバイオロジー技術特論（14:40～19:30）①-1	
7月3日	火				ケミカルバイオロジー技術特論（14:40～19:30）①-2	
7月4日	水				ケミカルバイオロジー技術特論（14:40～19:30）①-3	
7月5日	木				ケミカルバイオロジー技術特論（14:40～19:30）①-4	
7月6日	金				ケミカルバイオロジー技術特論（14:40～19:30）①-5	
7月7日	土					
7月8日	日					
7月9日	月	病院実習			ケミカルバイオロジー技術特論（14:40～19:30）②-1	
7月10日	火				ケミカルバイオロジー技術特論（14:40～19:30）②-2	
7月11日	水				ケミカルバイオロジー技術特論（14:40～19:30）②-3	
7月12日	木				ケミカルバイオロジー技術特論（14:40～19:30）②-4	
7月13日	金				ケミカルバイオロジー技術特論（14:40～19:30）②-5	
7月14日	土					
7月15日	日					
7月16日	月					
7月17日	火	試験期間				
7月18日	水					
7月19日	木					
7月20日	金					
7月21日	土					
7月22日	日					

3. 平成24年度医歯理工学専攻修士課程授業時間割

月日	曜日	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～17:50	18:00～21:10
8－9月		口腔保健臨地実習（8:50～17:50）				
9月30日	日					
10月1日	月	機能分子化学1 口腔保健福祉学1	機能分子化学2 口腔保健福祉学2			
10月2日	火	発生・再生科学1	発生・再生科学2			
10月3日	水	分子構造学特論1	分子構造学特論2			
10月4日	木	疾患オミックス情報学特論1	疾患オミックス情報学特論2			
10月5日	金	免疫学1	免疫学2			
10月6日	土					
10月7日	日					
10月8日	月					
10月9日	火	発生・再生科学3	発生・再生科学4			
10月10日	水	分子構造学特論3	分子構造学特論4			
10月11日	木	疾患オミックス情報学特論3	疾患オミックス情報学特論4			
10月12日	金	免疫学3	免疫学4			
10月13日	土					
10月14日	日					
10月15日	月	機能分子化学3 口腔保健福祉学3	機能分子化学4 口腔保健福祉学4			
10月16日	火	発生・再生科学5	発生・再生科学6			医歯薬産業技術特論1/2
10月17日	水	分子構造学特論5	分子構造学特論6			
10月18日	木	疾患オミックス情報学特論5	疾患オミックス情報学特論6			
10月19日	金	免疫学5	免疫学6			
10月20日	土					
10月21日	日					
10月22日	月	機能分子化学5 口腔保健福祉学5	機能分子化学6 口腔保健福祉学6			
10月23日	火	発生・再生科学7	発生・再生科学8			医歯薬産業技術特論3/4
10月24日	水	分子構造学特論7	分子構造学特論8			
10月25日	木	疾患オミックス情報学特論7	疾患オミックス情報学特論8			
10月26日	金	免疫学7	免疫学8			
10月27日	土					
10月28日	日					
10月29日	月	機能分子化学7 口腔保健福祉学7	機能分子化学8 口腔保健福祉学8			
10月30日	火	発生・再生科学9	発生・再生科学10			医歯薬産業技術特論5/6
10月31日	水	分子構造学特論9	分子構造学特論10			
11月1日	木	疾患オミックス情報学特論9	疾患オミックス情報学特論10			
11月2日	金	免疫学9	免疫学10			
11月3日	土					
11月4日	日					
11月5日	月	機能分子化学9 口腔保健福祉学9	機能分子化学10 口腔保健福祉学10			
11月6日	火	発生・再生科学11	発生・再生科学12			医歯薬産業技術特論7/8
11月7日	水	分子構造学特論11	分子構造学特論12			
11月8日	木	疾患オミックス情報学特論11	疾患オミックス情報学特論12			
11月9日	金	免疫学11	免疫学12			
11月10日	土					
11月11日	日					

3. 平成24年度医歯理工学専攻修士課程授業時間割

月日	曜日	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～17:50	18:00～21:10
11月12日	月	機能分子化学11 口腔保健福祉学11	機能分子化学12 口腔保健福祉学12			
11月13日	火	発生・再生科学13	発生・再生科学14			
11月14日	水	分子構造学特論13	分子構造学特論14			
11月15日	木	疾患オミックス情報学特論13	疾患オミックス情報学特論14			
11月16日	金	免疫学13	免疫学14			
11月17日	土					
11月18日	日					
11月19日	月	機能分子化学13 口腔保健福祉学13	機能分子化学14 口腔保健福祉学14			
11月20日	火	発生・再生科学15	機能分子化学15 口腔保健福祉学15			
11月21日	水	分子構造学特論15				
11月22日	木	疾患オミックス情報学特論15	免疫学15			
11月23日	金					
11月24日	土					
11月25日	日					
11月26日	月	試験期間				
11月27日	火					
11月28日	水					
11月29日	木					
11月30日	金					

・産学リンケージ特論およびクリニカル・インフォマティクス特論は時間割から除く。

４．授業科目の講義内容

医歯学総合概論

Philosophy of Medicine and Dentistry

科目コード：３００１　１年次　２単位

１．担当教員

科目責任者：　修士課程教育委員長

連絡先：　学務部教務課大学院室

TEL:03-5803-4534、Email: grad.bio.adm@cmn.tmd.ac.jp

	名前	分野・職名
科目担当者	水谷　修紀	発生発達病態学・教授
	磯部　光章	循環制御内科学・教授
	西川　徹	精神行動医科学・教授
	久保田　俊郎	生殖機能協関学・教授
	横関　博雄	皮膚科学・教授
	稲瀬　直彦	統合呼吸器病学・教授
	小川　佳宏	分子内分泌代謝学・教授
	上阪　等	膠原病・リウマチ内科学・准教授
	小林　宏寿	腫瘍外科学・低侵襲医学研究センター・准教授
	岡田　大蔵	摂食機能保存学・講師
	鵜澤　成一	顎顔面外科学・講師
	池田　英治	歯髄生物学・講師
	新井　文子	血液内科学・講師
	榎本　光裕	整形外科学・高気圧治療部・特任講師
	伊藤　真以	臨床検査医学・助教

２．科目の教育方針

現代の医歯学の学問大系の全体像を理解するとともに、各臨床医歯学分野におけるトピックスを中心にして、疾患の診断、治療、予防及び疫学の基本的戦略を教授し、臨床医学・歯学の基本的方法を取得する。

さらに、医学・歯学における研究にとって最も重要な生命倫理とリスクマネージメントについて教授する。

３．教育目標

現代の医歯学の学問体系について概要を述べることができるとともに、その臨床分野における医療活動の中で予防が果たす役割の重要性を理解し、あわせて主要な疾患に関する疫学、診断、治療、およびリハビリテーションの基礎的知識を習得する。さらに、社会に貢献する医歯学研究のあり方と進め方について、基本的な知識と態度を培う。

４．　授業の概要

現代の医歯学の学問体系の全体像を理解するとともに、医歯学を支える学際的な学問分野領域の重要性と可能性及び生命倫理とリスクマネージメントについて教授する。また、疾病の診断、治療、予防及び疫学の基本的戦略を理解し、臨床医学・歯学の基礎的方法について知識を与えるとともに、診断、治療における基本的原理について教授する。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり

６．成績評価方法

成績は、レポート、出席状況を勘案のうえ総合的に評価する。

７．学習相談

教務課へ問い合わせること。

８．参考書

教科書・参考書等は授業中に指示される場合がある。

９．その他

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	4 月 11 日（水） 8：50～10：20	摂食機能保存学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	岡田　大蔵
２	4 月 12 日（木） 8：50～10：20	歯髄生物学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	池田　英治
３	4 月 13 日（金） 8：50～10：20	顎顔面外科学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	鵜澤　成一
４	4 月 23 日（月） 8：50～10：20	発生発達病態学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	水谷　修紀
５	4 月 24 日（火） 8：50～10：20	統合呼吸器病学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	稲瀬　直彦
６	4 月 25 日（水） 8：50～10：20	精神行動医科学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	西川　徹
７	4 月 26 日（木） 8：50～10：20	内分泌・代謝内科学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	小川　佳宏
８	4 月 27 日（金） 8：50～10：20	生殖機能協関学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	久保田　俊郎
９	5 月 7 日（月） 8：50～10：20	臨床検査医学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	伊藤　真以
１０	5 月 8 日（火） 8：50～10：20	循環制御内科学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	磯部　光章
１１	5 月 9 日（水） 8：50～10：20	皮膚科学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	横関　博雄
１２	5 月 10 日（木） 8：50～10：20	腫瘍外科学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	小林　宏寿
１３	5 月 11 日（金） 8：50～10：20	整形外科学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	榎本　光裕
１４	5 月 14 日（月） 8：50～10：20	血液内科学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	新井　文子
１５	5 月 15 日（火） 8：50～10：20	膠原病・リウマチ内科学 (M&D タワー2 階　共用講義室２)	上阪　等

初期研究研修

Initial Research Training

科目コード：３００２　１年次　１単位

１．科目責任者　修士課程教育委員長
　　担当教員　　別表のとおり。

２．科目の教育方針
　研究開始に当たり，種々の研究分野における基本的な研究概念や具体的な研究方法の必要知識および研究実施上の注意事項を学習する。

３．授業計画・授業内容
　別表のとおり。

４．成績評価方法
　授業の参加（出席）状況に基づいて総合的に評価を行う。

別表

平成24年度大学院医歯学総合研究科
初期研究研修プログラム

日　時：平成２４年４月１７日（火）～４月２０日（金）

場　所：５号館４階講堂

挨　拶：４月１７日（火）９：５０から　　研究科長

講義スケジュール：

月　日 （曜）	１　時　限 （10:00～11:00）	２　時　限 （11:15～12:15）	３　時　限 （13:30～14:30）	４　時　限 （14:45～15:45）	５　時　限 （16:00～17：00）
4月17日 （火）	生命倫理 Bioethics 講師:吉田　教授 （生命倫理研究センター）	産学連携 Industry-University Cooperation 講師:飯田　准教授 （産学連携推進本部）	研究における統計 Statistical method in designing medical research 講師：佐々木 准教授 （う蝕制御学分野）	生命科学における機器分析 Instrumental analysis for life science 講師：笠間　准教授 （医歯学研究支援ｾﾝﾀｰ機器分析部門）	遺伝情報処理入門 Introduction to Bioinformatics 講師：田中（博）教授 （システム情報生物学分野）
4月18日 （水）	発生学研究法 Methods for studying the development 講師:仁科　教授 （発生再生生物学分野）	神経科学研究法 Methods for studying the brain 講師:田中(光）教授 （分子神経科学分野）	RI及び放射線の利用と取扱い Use and Handling of Radioisotopes and Radiations 講師：原　准教授 （医歯学研究支援ｾﾝﾀｰｱｲｿﾄｰﾌﾟ部門）	診療活動における感染制御の理論と実際 Theory and practice of infection control 講師:小池　准教授 （臨床試験管理センター）	文献検索・図書館の利用 Literature search・Utilization of library 講師：木下　教授 （図書館情報メディア機構） ※M&Dタワー４Ｆ情報検索室
4月19日 （木）	遺伝子研究法 Study of Functional gene and genome 講師:中村　教授 （医歯学研究支援ｾﾝﾀｰ疾患遺伝子部門）	研究発表・論文作成 Thesis Writing and Presenting Research 講師：Kevin Cleary 准教授 （国際交流センター）	MRIを用いた画像処理 Imaging Analysis Using MRI 講師:大橋　准教授 （画像・核医学開発学分野）	研究者の倫理 Ethics of Resercher 講師：森田　教授 （分子細胞機能学分野）	科学研究における倫理 Ethics for scientific research 講師：森田　教授 （分子細胞機能学分野）
4月20日 （金）	免疫学研究法 Immunology in Medical Research 講師:神奈木　教授 （免疫治療学分野）	信頼ある研究の進め方 How to make scientific researches reliable 講師：水島　教授 （細胞生理学分野）	バイオセーフティーと微生物実験法の基本 Biosafety and basic microbiological techniques 講師:山岡　教授 （ウイルス制御学分野）	動物実験の進め方 The Design of Animal Experiments 講師：金井　教授 （実験動物センター）	病理学研究法 Methods in Pathology 講師:北川　教授 （包括病理学分野）

医歯理工学先端研究特論

Special Lectures for Advanced Research on Life Science and Technology

科目コード：３００３　１年次　１単位

１．担当教員　　修士課程教育委員長
　問合せ先　　教務課大学院室　TEL　5803-4534

２．科目の教育方針

学内外のトップサイエンティストによる専門的な内容を含む講演やセミナーに積極的に参加し最先端の研究領域についての見識を広める。

３．授業科目の教育内容および講義日時

本特論は、医歯学総合研究科医歯理工学専攻の全ての学生に対する共通必修科目である。医歯理工学研究における専門的かつ最新の知見を含む講演やセミナーに参加することによって、最先端の研究領域についての見識を広めることを目的とする。本特論の講義として該当するセミナー等は以下のとおりとする。

１）学内で開催されるセミナー等

大学院特別講義、難研セミナー、生材研セミナー、医歯学総合研究科大学院セミナー等、本専攻が指定するセミナー。

２）指導教員から推薦を受けたセミナー等（指導教員が教務課へ事前に照会すること。）

※上記のセミナー等は、参加制限なし（誰でも参加可能）、事前登録不要、無料のセミナーであることを原則とする。

今年度の大学院特別講義は次ページ一覧表のとおりとするが、日程、会場等の詳細は決定次第、掲示板及びblackboard等で随時お知らせする。

４．評価方法

８回以上の出席者が対象になる。

５．受講上の注意

所定の出席票を必ず使用して、１年次末までに聴講をすませること。自らが専攻しようとする専門分野ばかりでなく広範な研究領域のセミナーに参加することが望ましい。

出席票は１年次の３月末までに教務課へ提出すること。

平成２４年度大学院特別講義

◎特別講義（医学系分野主催）

No.	講義題目	講師	所属	主催分野	講義時間
1	高齢者頭頸部がんの治療ー今後の課題	菅澤　正	埼玉医科大学国際医療センター 頭頸部腫瘍科　教授	頭頸部外科学 （岸本教授）	4H
2	幹細胞研究から新しい医療へ	中内　啓光	東京大学 医科学研究所 幹細胞治療研究センター 幹細胞治療分野	運動器外科学 （宗田教授）	4H
3	医療の質の評価研究	今中　雄一	京都大学大学院　教授	健康推進医学 （高野教授）	4H
4	臨床医の資質と倫理	森岡　恭彦	日赤医療センター名誉院長	先進倫理医科学 （吉田教授）	4H
5	がん医療におけるコミュニケーション	藤森　麻衣子	国立がんセンター東病院臨床開発センター 精神腫瘍学開発部　心理士	診療・緩和医療学 （松島教授）	4H
6	医療におけるリーダーシップ論	小松本　悟	足利赤十字病院　院長	臨床医学教育開発学 （田中教授）	4H
7	新しい粥状動脈硬化のモデル動物：世界最小ミニブタモデルの開発（仮称）	谷本　昭英	鹿児島大学大学院 分子細胞病理学分野　教授	人体病理学 （江石教授）	4H
8	血管恒常性維持のバイオメカニクス	大島　まり	東京大学生体技術研究所　教授	分子細胞循環器学 （古川教授）	4H
9	消化器癌幹細胞の臨床的意義	森　正樹	大阪大学医学系研究科　教授	幹細胞制御 （田賀教授）	4H
10	in vivoイメージングの新展開	浦野　泰照	東京大学生命情報学　教授	消化器病態学 （渡辺教授）	4H
11	塩分感受性高血圧症の分子機序	岩本　隆宏	福岡大学医学部薬理学　教授	腎臓内科学 （佐々木教授）	4H
12	産婦人科領域におけるアロマターゼの基礎的研究	生水　真紀夫	千葉大学大学院生殖機能病態学 教授	生殖機能協関学 （久保田教授）	4H
13	不整脈の理解に必要な心臓解剖学	井川　修	日本医科大学多摩永山病院 教授	循環制御内科学分野 （磯部教授）	4H
14	自然免疫による病原体認識とシグナル伝達	審良　静男	大阪大学免疫学フロンティア研究 センター拠点長	免疫アレルギー学分野 （鳥山教授）	4H
15	質量顕微鏡法とその応用	瀬藤　光利	浜松医科大学解剖学　教授	病態細胞生物学 （清水教授）	4H
16	がんゲノムにおけるゲノム異常の網羅的解析	小川　誠司	東京大学医学部がんゲノムプロジェクト	包括病理学 （北川教授）	4H
17 ※	知的文章の書き方とプレゼンテーション法	黒木　登志夫	岐阜大学　名誉学長 日本学術振興会学術システム研究センター 副所長	分子腫瘍医学 （湯浅教授） 分子細胞遺伝学 （稲澤教授）	4H
18	膜と相互作用する機能性ペプチド	二木　史朗	京都大学化学研究所　教授	医薬品化学 （玉村教授）	4H
19	糖尿病の分子病態	春日　雅人	国立国際医療研究センター研究所　所長	分子内分泌代謝学 （小川教授）	4H
20	脊柱靭帯骨化症の内軟骨性骨化における細胞分化制御	内田　研造	福井大学整形外科学　准教授	整形外科学 （大川教授）	4H
21	タイトル未定	市村　幸一	国立がん研究センター研究所 脳腫瘍連携研究分野	脳神経機能外科学 （大野教授）	4H
22	Wntシグナル伝達系	菊池　章	大阪大学分子生態生化学分野　教授	病態代謝解析学 （畑教授）	4H
23	光学的手法によるイオンチャネルの解析	久保　義弘	生理学研究所神経機能素子研究部門 教授	耳鼻咽喉科学 （喜多村教授）	4H
24	小脳皮質のシナプス制御機構	小西　史郎	徳島文理大香川薬学部　教授	システム神経生理学 （杉原教授）	4H
25	精神神疾患の遺伝子解析	松本　直道	横浜市立大学医学部遺伝学教室　教授	分子神経科学 （田中教授）	4H
26	QUIC法による異常プリオン蛋白の測定	西田　教行	長崎大乾癖分子解析学　教授	脳神経病態科学 （水澤教授）	4H
27	細胞極性の形成・維持機構と生命システムの動作原理	岡田　康志	理研QBiCチームリーダー	神経機能形態学 （寺田教授）	4H
28	小脳皮質の形成機構	宮田　卓樹	名古屋大学大学院 医学系研究科　教授	細胞生物学 （中田教授）	4H
29	精神疾患の病態に関与する網羅的rare variantsの探索	糸川　昌成	東京都精神医学総合研究所　部門長	神経病理学 （岡澤教授）	4H
30	TTRアミロイドーシスの発症機序と治療	関島　良樹	信州大学第三内科　准教授	精神行動医科学 （西川教授）	4H
31	神経変性疾患に於ける異常蛋白の伝播	長谷川　成人	東京都医学総合研究所　室長	細胞薬理学 （田邊教授）	4H

※は共同開催

◎特別講義（歯学系分野主催）

No.	講義題目	講師	所属	主催分野
1	Th2型の自然免疫反応	小安　重夫	慶応義塾大学医学部 微生物学・免疫学教室	分子免疫学
2	動物モデルを用いた金属アレルギーの病態解析	小笠原　康悦	東北大学　加齢医学研究所 生体防御学分野	分子免疫学
3	HIF-1αイメージングによる放射線抵抗性機構解析	原田　浩	京都大学生命科学系キャリアパス形成ユニット 放射線腫瘍生物学	口腔放射線腫瘍学
4	口腔癌におけるセンチネルリンパ節について	上山　吉哉	山口大学大学院医学系研究科 上皮情報解析医科学　歯科口腔外科	顎口腔外科学
5	Gorlin症候群研究の最新知見	宮下　俊之	北里大学医学部　分子遺伝学	顎口腔外科学
6	感染症をめぐる最近の話題	舘田　一博	東邦大学医学部　微生物・感染症学講座	顎口腔外科学
7	歯科における侵襲制御学	宮脇　卓也	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	疼痛制御学
8	歯科領域の難治性疼痛対処法	水間　謙三	岩手医科大学医学部	疼痛制御学
9	Cell to cell communication in oral biofilm（仮題）	泉福　英信	国立感染症研究所	う蝕制御学
10	Fluoride and Caries prevention（仮題）	福田　康	ライオン株式会社	う蝕制御学
11	Development of Preventive GIOMER based on PRG Technology（仮題）	信野　和也	株式会社松風	う蝕制御学
12	Carious dentin characterization and conventional assessments for cavity preparation will be discussed to avoid adhesive failures in CR restorations（仮題）	常川　勝由	日本歯科薬品株式会社	う蝕制御学
13	咬合学を発展させるために	坂東　永一	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 生体システム栄養科学部門摂食機能制御学講座 咬合管理学	摂食機能保存学
14	咬合学と歯科臨床	中野　雅徳	徳島大学歯学部口腔保健学科 口腔保健福祉学講座	摂食機能保存学
15	未定	嶋倉　道郎	奥羽大学 歯学部歯科補綴学講座	摂食機能保存学
16	異分野融合研究と補綴歯科学・補綴歯科臨床	佐々木　恵一	東北大学大学院歯学研究科口腔機能形態学講座 口腔システム補綴学分野	摂食機能保存学
17	咬合時の下顎位とその記録（第2報）	福島　俊士	鶴見大学歯学部 歯科補綴学第二講座	摂食機能保存学
18	CAD/CAMを中心とした審美修復関係	末瀬　一彦	大阪歯科大学 歯科技工専門学校	摂食機能保存学
19	未定	山下　靖雄	本学名誉教授	摂食機能保存学
20	咬合についての考え方 ー顎関節症からの考察ー	古屋　良一	昭和大学歯科補綴学	摂食機能保存学
21	歯髄の抗原提示細胞	大島　勇人	新潟大学大学院	歯髄生物学
22	歯内治療用材料	蒲原　敬	株式会社ジーシー	歯髄生物学
23	根管治療薬の動向	木瀬　俊彦	株式会社ネオ製薬工業	歯髄生物学
24	短縮歯列処置の適応と限界	山下　秀一郎	東京歯科大学水道橋病院総合診療科	部分床義歯補綴学
25	睡眠時ブラキシズムと歯科補綴学的意義	馬場　一美	昭和大学歯学部歯科補綴学教室	部分床義歯補綴学
26	嚥下のコンピューターシミュレーションと嚥下ロボット	道脇　幸博	武蔵野赤十字病院	認知神経生物学
27	社会行動の神経機構	西条　寿夫	富山大学　医学部 医学科　システム情動科学	認知神経生物学
28	高次脳による運動制御	稲瀬　正彦	近畿大学　医学部　生理学講座	認知神経生物学
29	大脳皮質―大脳基底核ループと大脳基底核疾患	南部　篤	自然科学研究機構 生理学研究所　生体システム	認知神経生物学
30	心臓形成におけるHesr遺伝子群の役割	小久保　博樹	国立遺伝学研究所（発生工学研究室）	分子発生学
31	眼の初期発生と網膜細胞分化	大内　淑代	徳島大学大学院（ソシオテクノサイエンス研究部）	分子発生学
32	硬組織形成のサーカンディアリズム	篠田　壽	東北大学大学院（歯科医薬品創生学寄附講座）	分子発生学
33	未定	上田　実	名古屋大学	顎顔面外科学
34	ライフコースアプローチと成人病胎児起源説	藤原　武男	（独）成育医療研究センター研究所 成育社会医学研究部	顎顔面矯正学

No.	講義題目	講師	所属	主催分野
35	メタボローム解析技術を用いた唾液の疾患診断の可能性（仮）	杉本　昌弘	京都大学大学院医学研究科	顎顔面補綴学
36	目で見る音響音声学入門（仮）	荒井　隆行	上智大学理工学部 情報理工学科	顎顔面補綴学
37	声の福祉工学（仮）	伊福部　達	東京大学 高齢社会総合研究機構	顎顔面補綴学
38	音声認識技術（仮）	木村　晋太	株式会社アニモ	顎顔面補綴学
39	三次元微細構造解析の最先端	牛木　辰男	新潟大学大学院顕微解剖学	硬組織構造生物学
40	破骨細胞分化のライブイメージング	工藤　　明	東京工業大学生命情報	硬組織構造生物学
41	新規骨形成促進薬のオステオネットワークへの作用	網塚　憲正	北海道大学大学院歯学研究科 硬組織発生生物学分野	硬組織薬理学
42	医薬価値に優れた機能性人工蛋白質の創出	堤　康央	大阪大学大学院薬学研究科 毒性学分野	硬組織薬理学
43	ペプチド化合物開発におけるグローバルスタンダードを目指して	千葉　一裕	JITSUBO株式会社	硬組織薬理学
44	インターフェロンγによる細胞内寄生性病原体排除機構について	山本　雅裕	大阪大学　微生物病研究所	分子情報伝達学
45	ASC/pycardを介した生体防御機構	肥田　重明	信州大学大学院医学系研究科 加齢適応医科学系専攻分子腫瘍学分野	分子情報伝達学
46	歯周組織再生治療	山本　松男	昭和大学歯学部歯周病学教室	歯周病学
47	歯周病と骨免疫	長澤　敏行	北海道医療大学歯学部歯周歯内治療学分野	歯周病学
48	重度歯周炎に対する治療法	二階堂　雅彦	二階堂歯科医院　歯周病・インプラントクリニック	歯周病学
49	歯周病と炎症メディエーター	野口　和行	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 歯周病学分野	歯周病学
50	医科・歯科連携による 摂食・嚥下機能支援の取組み	矢澤　正人	多摩立川保健所	健康推進歯学
51	地域での保健福祉活動の現状と将来	北原　稔	神奈川県厚木保健福祉事務所	健康推進歯学
52	地域におけるヘルスプロモーション活動	佐々木　勝忠	奥州市国保衣川歯科診療所	健康推進歯学
53	予防歯科臨床とヘルスプロモーション	築山　雄次	つきやま歯科医院	健康推進歯学
54	咬合・咀嚼機能と全身との関連について	越野　寿	北海道医療大学	スポーツ医歯学
55	細胞の増殖・分化機構と組織再生について	石崎　明	岩手医科大学	スポーツ医歯学
56	続・統計学の基礎1	小林　航	千葉商科大学政策情報学部	医療経済学
57	続・統計学の基礎2	小林　航	千葉商科大学政策情報学部	医療経済学
58	Case-mix Analysis and Etponses of Life-style Disease	伊藤　由希子	東京学芸大学人文社会科学系経済学分野	医療経済学
59	How to Review a Research Article	近藤　暁子	中部大学生命健康科学部 保健看護学科成人看護学	医療経済学
60	歯科医学教育を取り巻く環境変化－医療政策の現状と今後の展望	村上　正泰	山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座	歯学教育開発学
61	歯科医学教育を取り巻く歯科界の現状-開業歯科医師の目からみた歯科医学教育-	白土　清司	白土歯科医院	歯学教育開発学
62	発話と摂食・嚥下機能を含む地域高齢者への統合的口腔機能評価	三浦　宏子	国立保健医療科学院	高齢者歯科学
63	歯科臨床に役立つ精神医学概論	本村　春彦	川添記念病院精神科	歯科心身医学
64	多次元生体情報記録手法による社会脳の神経機構の解明	藤井 直敬	理化学研究所　脳科学総合研究センター 適応知性研究チーム	歯科心身医学
65	リエゾンコンサルテーションの理論：阻害因子と促進因子	中嶋 義文	三井記念病院精神科	歯科心身医学
66	コンピューター支援治療CAD/CAMの現状と未来	草間　幸夫	西新宿歯科クリニック	歯科医療行動科学
67	臨床家のCAD/CAM、3DCTコンピューター支援治療の今後	矢野　章	矢野歯科医院	歯科医療行動科学
68	接着から考えるう蝕治療と修復処置―「むし歯は治らない」から始めよう！ ―	安田　登	NPO法人「歯と口の健康を守ろう会」	歯科医療行動科学
69	長期経過症例（15～30年）から部分床義歯を再考する	豊間　均	日本大学歯学部歯科補綴学Ⅱ	歯科医療行動科学
70	歯科医療グループにおける教育・研修のあり方(仮題)	中村　幸生	先端歯科医療研究所	歯学教育システム評価学
71	歯科治療は何で評価されるか(仮題)	片岡　博樹	片岡歯科医院	歯学教育システム評価学

課題研究

Research for Thesis

科目コード：３００４　1-2年次　4単位

１．科目の教育方針

教員の指導（理学・工学は複数教員の指導）のもとに研究課題を設定し，これについての研究計画を立案し，研究成果をまとめて考察を加え修士論文の作成を行なう。

２．成績評価方法

成績評価は、修士論文などから総合的に評価を行う。

３．その他

医科学演習

Seminar of Medical Science

科目コード：３００５　１年次　４単位

１．科目の教育方針

指導教員の所属する研究室や関連分野のセミナーに参加し，医科学研究の最新知識や技術情報を学び，研究背景・方法および実験技術の基本を理解する。

２．成績評価方法

成績評価は、出席状況、レポートなどから総合的に評価を行う。

３．その他

医科学実習

Practice of Medical Science

科目コード：３００６　１年次　４単位

１．科目の教育方針

立案した研究課題に対し必要な情報を収集し，習得した実験手技およびデータ解析方法を用いて実験を行い，研究遂行のための問題解決能力を培う。

２．成績評価方法

成績評価は、出席状況、レポートなどから総合的に評価を行う。

３．その他

歯科学演習

Seminar of Dental Science

科目コード：３００７　１年次　４単位

１．科目の教育方針

指導教員の所属する研究室や関連分野のセミナーに参加し，歯科学研究の最新知識や技術情報を学び，研究背景・方法および実験技術の基本を理解する。

２．成績評価方法

成績評価は、出席状況、レポートなどから総合的に評価を行う。

３．その他

歯科学実習

Practice of Dental Science

科目コード：３００８　１年次　４単位

１．科目の教育方針

立案した研究課題に対し必要な情報を収集し，習得した実験手技およびデータ解析方法を用いて実験を行い，研究遂行のための問題解決能力を培う。

２．成績評価方法

成績評価は、出席状況、レポートなどから総合的に評価を行う。

３．その他

口腔保健学演習

Seminar of Oral Health Science

科目コード：３００９　１年次　４単位

１．科目の教育方針

指導教員の所属する研究室や関連分野のセミナーに参加し，口腔保健学研究の最新知識や技術情報を学び，研究背景・方法および実験技術の基本を理解する。

２．成績評価方法

成績評価は、出席状況、レポートなどから総合的に評価を行う。

３．その他

口腔保健学実習

Practice of Oral Health Science

科目コード：３０１０　１年次　４単位

１．科目の教育方針

立案した研究課題に対し必要な情報を収集し，習得した実験手技およびデータ解析方法を用いて実験を行い，研究遂行のための問題解決能力を培う。

２．成績評価方法

成績評価は、出席状況、レポートなどから総合的に評価を行う。

３．その他

理工学演習

Seminar of Science and Engineering

科目コード：３０１１　１年次　４単位

１．科目の教育方針

指導教員の所属する研究室や関連分野のセミナーに参加し，理工学研究の最新知識や技術情報を学び，研究背景・方法および実験技術の基本を理解する。

２．成績評価方法

成績評価は、出席状況、レポートなどから総合的に評価を行う。

３．その他

理工学実習

Practice of Science and Engineering

科目コード：３０１２　１年次　４単位

１．科目の教育方針

立案した研究課題に対し必要な情報を収集し，習得した実験手技およびデータ解析方法を用いて実験を行い，研究遂行のための問題解決能力を培う。

２．成績評価方法

成績評価は、出席状況、レポートなどから総合的に評価を行う。

３．その他

人体形態学・口腔形態学

Human Anatomy・Oral Anatomy, Histology and Embryology

科目コード：３０１３・３０１４　１年次　１単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	寺田　純雄	神経機能形態学分野・教授	Email:terada.nana@tmd.ac.jp
	髙野　吉郎	硬組織構造生物学分野・教授	Email:takanoy.bss@tmd.ac.jp
科目担当者	中田　隆夫	細胞生物学分野・教授	Email:nakata.cbio@tmd.ac.jp
	井上　明宏	細胞生物学分野・准教授	Email:inoue.cbio@tmd.ac.jp
	秋田　恵一	臨床解剖学分野・教授	Email:akita.fana@tmd.ac.jp
	柴田　俊一	顎顔面解剖学分野・教授	Email:sshibata.mfa@tmd.ac.jp
	寺島　達夫	顎顔面解剖学分野・准教授	Email:t.terashima.mfa@tmd.ac.jp
	田畑　純	硬組織構造生物学分野・准教授	Email:tabatamj.bss@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

生命科学の研究は、構造と物質と機能の三つの側面から生命現象を理解することによって進んできた。人体の構造を理解する為に、解剖学が生まれ、それは最も古典的な医歯学研究の手法として現在まで生き続けている。一方で最先端の生命科学研究では、単分子構造の解析や分子複合体の解析などにおいて、形態学は必須の研究手法となっている。このような多様な形態学の研究手法、形態学独自のものの見方を学生諸君に伝えることを目指す。

３．教育目標

医歯学研究者として必要となる、人体の形態学的な研究方法についての基礎的な知識を与えること。

４．授業の概要

中田教授、井上准教授：ヒト組織の構造と機能
秋田教授：人体構造とその機能
寺田教授：神経系の解剖・組織学
柴田教授、寺島准教授：歯学領域における解剖・組織学
髙野教授、田畑准教授：硬組織の起源と進化・構造と機能

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

筆記試験に基づいて評価を行う。

７．学習相談

授業期間の午後５時から午後７時：科目責任者教授室

８．参考書

細胞生物学・組織学関連

（１）　細胞生物学・組織学の要点整理　Gartner et al. 山内訳　メディカルサイエンスインターナショナル

（２）　最新カラー組織学　Gartner et al. 石村、井上監訳　西村書店

（３）　Molecular Cell Biology Lodish et al. Freeman and Co.

（４）　Molecular Biology of the Cell, Alberts et al. Garland

生物顕微鏡関連

（１）　顕微鏡の使い方ノート　羊土社

（２）　顕微鏡フル活用イラストレイテッド　秀潤社

（３）　Protein Localization by Fluorescence Microscopy Allan edit. Oxford Univ. Press

肉眼解剖学関連

（１）　ラングマン　人体発生学 Sadler　安田、沢野訳　メディカルサイエンスインターナショナル

（２）　トートラ 人体の構造と機能 Tortora, Grabowski 大野他訳　丸善

（３）　岩波講座　現代医学の基礎３「人体のなりたち」坂井, 佐藤編　岩波書店

（４）　人体解剖学　藤田　南江堂

神経解剖学関連

（１）　分冊解剖学アトラス３神経系と感覚器　文光堂

（２）　図説中枢神経系　医学書院

（３）　The Human Brain and Spinal Cord, Heimer, Springer-Verlag

硬組織・歯学領域関連

（１）　歯の比較解剖学　後藤、大泰司編　医歯薬出版

（２）　Bones and Cartilage, Hall, Springer-Elsevier

（３）　カラーエッセンシャル口腔組織・発生学　Avery　高野監訳　西村書店

（４）　Ten Cate’s Oral Histology Nanci, Mosby

（５）　新骨の科学　須田、小澤ら　医歯薬出版

９．その他

形態学は生命体のマクロから単分子構造までを対象とする幅広い学問分野であり、生命科学を探求する上での基盤として位置づけられる。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	4月11日（水） 10：30～12：00	人体構造とその機能 （３号館６階　大学院講義室）	秋田　恵一
2	4月12日（木） 10：30～12：00	歯学領域における解剖・組織学（１） （３号館６階　大学院講義室）	柴田　俊一
3	4月13日（金） 10：30～12：00	歯学領域における解剖・組織学（２） （３号館６階　大学院講義室）	寺島　達夫
4	4月23日（月） 10：30～12：00	ヒト組織の構造と機能（１） （３号館６階　大学院講義室）	中田　隆夫
5	4月24日（火） 14：40～16：10	ヒト組織の構造と機能（２） （３号館６階　大学院講義室）	井上　明宏
6	4月25日（水） 10：30～12：00	硬組織の起源と進化 （３号館６階　大学院講義室）	田畑　　純
7	4月26日（木） 10：30～12：00	硬組織の構造と形成機構 （３号館６階　大学院講義室）	髙野　吉郎
8	4月27日（金） 10：30～12：00	神経系の解剖・組織学 （３号館６階　大学院講義室）	寺田　純雄

人体機能学

Functional Organization of the Human Body

科目コード：３０１５　１年次　１単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	水島　昇	細胞生理学分野・教授	Email:nmizu.phy2@tmd.ac.jp
科目担当者	黒川　洵子	生体情報薬理学分野・准教授	Email:junkokuro.bip@mri.tmd.ac.jp
	田中　光一	分子神経科学分野・教授	Email:tanaka.aud@mri.tmd.ac.jp
	小川　佳宏	分子内分泌代謝学分野・教授	Email:ogawa.mem@tmd.ac.jp
	杉内　友理子	システム神経生理学分野・准教授	Email:ysugiuchi.phy1@tmd.ac.jp
	野田　裕美	腎臓内科学分野・准教授	Email:ynodmed2@tmd.ac.jp
	渡邉　守	消化器病態学分野・教授	Email:mamoru.gast@tmd.ac.jp
	稲瀬　直彦	統合呼吸器病学分野・教授	Email:ninase.pulm@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

医歯科学研究者を目指す者は、人体各器官・臓器・組織の生理学的機能の基礎的知識とその解析方法・基本理念を理解していることが必要とされる。生命活動を維持するために果たす人体各器官の機能とその発現機序、ならびにそれらについての機能解析の方法論などを体系的に教授する。

３．教育目標

人体の各器官は生命活動を円滑に維持するために、それぞれの臓器・組織に特有な機能を発揮している。各々に特有な機能とその発現機構に関する知識を獲得、機能解析の方法論や機能破綻による障害や疾患の発症につながる基本事項を理解して、医学研究の進め方の基礎知識を習得する。

４．授業の概要

各々の専門分野の教員が分担して、各器官系の機能的特徴、機能発現の機序、機能発現のための構造的基盤、機能破綻と障害・疾患の発症との関連、などについて講義する。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の参加（出席）状況、及びレポート（課題は別表の下に記載）に基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

内容が多岐にわたるので各授業内容の担当教員に直接相談すること。

８．参考書

内容が多岐にわたるので各授業内容の担当教員に直接相談すること。

９．その他

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5 月 17 日（木） 8：50～10：20	「イオンチャネル、トランスポーター、受容体」：膜興奮性の機能分子であるイオンチャネル、トランスポーター、受容体の生理的機能と構造について、基礎から最新の知見まで概説する。（イオンチャネル、曽我部編、共立出版） （３号館 6 階　大学院講義室）	田中　光一
2	5 月 18 日（金） 8：50～10：20	「前庭系の機能」：回転や上下の動きを感じるメカニズムと、体のバランスを保ち視線を固定するためのしくみについて解説する。（標準生理学, 小澤瀞司, 福田康一郎編集, 医学書院） （３号館 6 階　大学院講義室）	杉内　友理子
3	5 月 21 日（月） 8：50～10：20	「心臓のリズム形成機能」　心臓がポンプとして有効に機能するためには，心臓全体が電気的に統御され，収縮 - 弛緩をリズミカルに繰り返すリズム形成機能が必要である．今回の授業では，リズム形成機能とその破綻としての不整脈について解説する． （３号館 6 階　大学院講義室）	黒川　洵子
4	5 月 22 日（火） 8：50～10：20	「腎臓」：腎臓は体液の質と量の恒常性維持の中心に位置する臓器である。その機能を担う物質輸送について臓器レベルから分子レベルまでを解説する。（腎臓学：病態生理からのアプローチ、南江堂） （３号館 6 階　大学院講義室）	野田　裕美
5	5 月 24 日（木） 8：50～10：20	「脂肪組織の多面性とメタボリックシンドローム」内臓脂肪型肥満を背景として糖脂質代謝障害、高血圧症を重積して発症するメタボリックシンドロームの病態生理を理解するためには、脂肪組織の多面性を知ることが欠かせない。メタボリックシンドロームにおける脂肪組織の機能的意義について概説する。 （３号館 6 階　大学院講義室）	小川　佳宏
6	5 月 25 日（金） 8：50～10：20	「タンパク質代謝生理学」：生命維持に不可欠なタンパク質の代謝回転について、栄養学、細胞内品質管理、神経変性、発生、老化、抗原提示などの多角的な視点で解説する。 （３号館 6 階　大学院講義室）	水島　昇
7	5 月 28 日（月） 8：50～10：20	「消化管の働き」：食道から大腸までの消化管は皮膚の 200 倍以上も外界に接し、どんな下等動物にも存在する古い器官である。消化管を保つために血管系・神経系・免疫系・内分泌系等全てが発達してきたとも考えられ、人体機能のプロトタイプとしての複雑な消化管の働きを解説する。 （３号館 6 階　大学院講義室）	渡邉　守
8	5 月 29 日（火） 8：50～10：20	「肺の機能」：肺の重要な働きの一つにガス交換が挙げられる。呼吸運動とそれに伴う酸素と炭酸ガスの交換のメカニズムについて解説する。 （３号館 6 階　大学院講義室）	稲瀬　直彦

【レポート課題】

人体機能学の講義のなかから２つ（※）の講義を選び、その講義から学んだことが各自の計画している修士課程の研究課題にどのようなヒントや着想を与えたか、またはそれぞれの研究領域にどのように応用しうるかについてＡ４用紙２枚程度で論じてください。

（※所属研究室の教員による講義がある場合は、それを除いた講義から２つ選ぶこと）

提出期限：６月２９日（金）

提出場所：学務部教務課大学院室　5803-4534

病理病態学

Pathology

科目コード：３０１６　１年次　１単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	岡澤　均	神経病理学分野・教授	Email:okazawa.npat@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	北川　昌伸	包括病理学分野・教授	Email:masa.pth2@tmd.ac.jp
	江石　義信	人体病理学分野・教授	Email:eishi.path@tmd.ac.jp
	山口　朗	口腔病理学分野・教授	Email:akira.mpa@tmd.ac.jp
	明石　巧	診断病理学分野・准教授	Email:akashi.path@tmd.ac.jp
	小林　大輔	人体病理学分野・助教	Email:d-koba.pth1@tmd.ac.jp
	熊谷　二朗	保健衛生学研究科・准教授	Email:j.kuma.pth1@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

特に病理学を専攻する者でなくても、研究する過程で細胞や組織の顕微鏡的或いは超微細形態学的変化の有無や性状を調べる必要が出てくると思われる。その際に、何が異常な病変なのか、その原因は何か、その原因がどのようなメカニズムで変化を引き起こしたのか、という点を判断できる基礎的能力を体系的に育てる。

３．教育目標

病変を形態学的に検出するための基礎的検索方法を先ず習得する。更に、色々の疾患で認められる病変の病因・発生機序を分析するための基礎となる病理学総論を理解させる。

４．授業の概要

江石　教　授：　病変検出の基礎的方法・病理学概論
北川　教　授：　病理診断学の求める医学研究
明石　准教授：　環境と疾患
岡澤　教　授：　細胞の損傷・細胞死　細胞の老化
江石　教　授：　免疫系の異常
小林　助　教：　循環障害とショック及び奇形
山口　教　授：　良性および悪性腫瘍
熊谷　准教授：　急性及び慢性炎症

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

成績評価は、提出レポート内容(50点)と出席状況(50点)を総合して評価する。

７．学習相談

授業終了後に科目担当者と個別に相談のこと。あるいは科目責任者にメールでコンタクトすることは可。

８．参考書

ロビンス基礎病理学　第７版　廣川書店　（第１部　病理学総論）
標準病理学　第４版　医学書院
Robbins Pathologic Basis of Disease 6th Edition Saunders

９．その他

他科目との関連性
神経疾患特論とは深い関係を持つ。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	５月７日（月） 10：30～12：00	１．病理学的方法の基礎 ２．病理学概論 （３号館６階　大学院講義室）	江石　義信
２	５月８日（火） 10：30～12：00	１．病理診断学の求める医学研究 ２．感染症の病理学 （３号館６階　大学院講義室）	北川　昌伸
３	５月10日（木） 10：30～12：00	１．環境汚染と化学物質による傷害 ２．物理的因子による傷害 ３．栄養障害の病理学 （３号館６階　大学院講義室）	明石　巧
４	５月11日（金） 10：30～12：00	１．細胞の損傷・細胞死の病理 ２．生体の老化の病理 （３号館６階　大学院講義室）	岡澤　均
５	５月14日（月） 10：30～12：00	１．免疫の概論 ２．組織傷害の免疫学的機構 ３．自己免疫疾患 ４．生体の修復機構 （３号館６階　大学院講義室）	江石　義信
６	５月15日（火） 10：30～12：00	１．循環障害の病理学 ２．ショックの機序と病態 ３．奇形の概論 （３号館６階　大学院講義室）	小林　大輔
７	５月17日（木） 10：30～12：00	１．良性及び悪性腫瘍の特徴 ２．腫瘍の疫学 ３．腫瘍の原因因子と発癌 （３号館６階　大学院講義室）	勝部　憲一
８	５月18日（金） 10：30～12：00	１．急性炎症の病理学 ２．慢性炎症の病理学 （３号館６階　大学院講義室）	熊谷　二朗

環境社会医歯学

Environmental/Social Health

科目コード：３０１７　１年次　１単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	河原　和夫	政策科学分野・教授	Email:kk.hcm@tmd.ac.jp
科目担当者	高野　健人	健康推進医学分野・教授	Email:secretary1@tmd.ac.jp
	太田　伸生	国際環境寄生虫病学分野・教授	Email:matata.vip@tmd.ac.jp
	上村　公一	法医学分野・教授	Email:kuemura.legm@tmd.ac.jp
	中村　桂子	国際保健医療協力学分野・准教授	Email:nakamura.ith@tmd.ac.jp
	村松　正明	分子疫学分野・教授	Email:muramatsu.epi@tmd.ac.jp
	高瀬　浩造	研究開発学分野・教授	Email:ktakase.rdev@tmd.ac.jp
	伏見　清秀	医療政策情報学分野・准教授	Email:kfushimi.hci@tmd.ac.jp
	吉田　雅幸	先進倫理医科学開発学分野・教授	Email:masa.vasc@tmd.ac.jp
	川渕　孝一	医療経済学分野・教授	Email:kawabuchi.hce@tmd.ac.jp
	森尾　郁子	歯学教育開発学分野・教授	Email:imorio.edev@tmd.ac.jp
	川口　陽子	健康推進歯学分野・教授	Email:yoko.ohp@tmd.ac.jp
	上野　俊明	スポーツ医歯学分野・准教授	Email:t.ueno.spmd@tmd.ac.jp
	荒木　孝二	歯学教育システム評価学分野・教授	Email:k.araki.gend@tmd.ac.jp
	木下　淳博	教育メディア開発学分野・教授	Email:kinoshita@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

特に環境社会医歯学を専攻する者でなくとも、医歯理工学研究者を目指す諸君に、社会と医歯理工学との接点となる内容を体系的に教授する。

３．教育目標

社会における医歯理工学の役割と相互関係を理解する。

４．授業の概要

高野教授　：健康推進医学・ヘルスプロモーションの基礎的知識と現実社会における展開
太田教授　：熱帯感染症対策、新興・再興感染症の社会的発生要因
上村教授　：法医学の役割、死因究明制度
中村准教授　：世界のさまざまな地域の健康課題に関わる基礎知識と分析の基礎技法
河原教授　：保健医療福祉分野のデータ分析、政策形成過程の解明とその評価
村松教授　：ヒトゲノムの解析とその医療、福祉、ヘルスケアの応用
高瀬教授　：生命科学におけるデータマネジメント
伏見准教授　：大規模医療機関における医療の質評価と経営的分析の方法論とデータ解析の実際
診療情報の保管・参照・研究利用の法的問題と情報技術との関連
吉田教授　：医歯理工学研究に必要な生命倫理と研究倫理
川渕教授　：わが国で展開されている医療政策の概念的骨子

森尾教授　　：医学・歯学教育カリキュラムの開発
川口教授　　：口腔疾患の予防およびオーラルヘルスプロモーションの進め方
上野准教授　：顎口腔領域に発生するスポーツ外傷の種類と成因、口腔防護装置マウスガードの効果と製作法、顎口腔機能とスポーツパフォーマンスの関連性
荒木教授　　：医学・歯学教育カリキュラムにおける評価
木下教授　　：医療系教育におけるＩＣＴ活用教育の実際

５．授業計画・授業内容
別表のとおり。

６．成績評価方法
授業の参加（出席）状況、課題研究レポートに基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談
毎日午前１１：００から１２：００　　科目責任者　政策科学分野　河原教授室

８．参考書
社会医学事典.　高野健人、河原和夫、他編.　朝倉書店.
医療訴訟と専門情報.　福田剛久、高瀬浩造編.　判例タイムズ.
医学教育の理論と実践. 監訳：鈴木康人、錦織宏. 篠原出版
テスト・スタンダード. 日本テスト学会編.　金子書房
その他、各教員が指示する。

９．その他
特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月21日（月） 10：30～12：00	大規模医療機関における医療の質評価と経営分析の方法論とデータ解析の実際について解説する。診療情報の保管・参照・研究利用の法的問題と情報技術との関連を開設する。 （３号館６階　大学院講義室）	伏見　清秀
2	5月22日（火） 10：30～12：00	額口腔領域に発生するスポーツ外傷の種類と成因、口腔防護装置マウスガード（マウスピース）の効果と製作法、ならびに額口腔機能とスポーツパフォーマンスの関連性について解説する。 （３号館６階　大学院講義室）	上野　俊明
3	5月24日（木） 10：30～12：00	健康推進医学、ヘルスプロモーションの基礎知識と実現における展開について解説する。 （３号館６階　大学院講義室）	高野　健人
4	5月25日（金） 10：30～12：00	医療系教育におけるＩＣＴ活用教育の実際について解説する。 （M&D タワー4 階　図書館情報検索室）	木下　淳博
5	5月28日（月） 10：30～12：00	熱帯感染症が国際環境変化によって如何に流行を変えるか、及び社会要因変動による Neglected diseases の問題を解説する。 （３号館６階　大学院講義室）	太田　伸生
6	5月29日（火） 10：30～12：00	ゲノム疫学の最新の研究成果を概説し、医療・ヘルスケアへの応用について考える。 （３号館６階　大学院講義室）	村松　正明
7	5月31日（木） 10：30～12：00	教育カリキュラムにおける評価方法の解説、および我が国の医学・歯学教育カリキュラムへの導入について解説する。 （３号館６階　大学院講義室）	荒木　孝二
8	6月1日（金） 10：30～12：00	保健医療福祉分野のデータ分析および政策形成過程の解明とその評価を行うことにより問題を明らかにし、解決方策を検討する。 （３号館６階　大学院講義室）	河原　和夫

口腔保健臨地実習

Oral Health Care Clinical Training

科目コード：３０１８　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	品田　佳世子	口腔疾患予防学分野・教授	Email:shinada.pvoh@tmd.ac.jp
科目担当者	白田　千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野・教授	Email:hakuta.gohc@tmd.ac.jp
	遠藤　圭子	口腔疾患予防学分野・准教授	Email:usagi.aohc@tmd.ac.jp
	小野寺　光江	健康支援口腔保健衛生学分野・講師	Email:m.onodera.cohc@tmd.ac.jp
	近藤　圭子	生涯口腔保健衛生学・講師	Email:solan.pvoh@tmd.ac.jp
	坪井　真	地域・福祉口腔保健衛生学分野・講師	Email:tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

歯学部附属病院、医学部附属病院における臨床実習および地域における臨地実習を行い、口腔保健に関する問題・課題を発見し、それらを解決するための臨床口腔保健活動および地域口腔保健活動を効果的に展開するために必要な知識・技術・実践能力・評価方法等を、実習を通して習得する。

３．教育目標

患者の口腔内状況、生活背景、基礎疾患等および地域の状況を把握し、口腔保健に関する問題・課題を発見する。また、それらを解決するための臨床口腔保健活動および地域口腔保健活動を効果的に展開するために必要な知識・技術・実践能力・評価方法等を、実習を通して習得する。

４．授業の概要

１）病院の患者について歯科衛生診断・計画を立案し、口腔疾患予防や保健指導などの実践を行う。
２）基礎疾患を有する患者や地域住民の生活上の特徴をふまえ、口腔保健に関する問題・課題およびニーズを解決するため効果的な活動方法を、実践する。
３）口腔保健事業の具体的な展開方法と口腔保健サービスの実践力と方法論および施策化の方法を習得するために、行政機関での実習を行う。
４）地域口腔保健活動に関連する業種との連携を推進し、地域住民との協働活動、他職種連携、活動の施策化、地域住民活動の基盤づくりの方法を検討し、発表する。
５）その他

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

臨床、臨地実習の出席状況および指導教員の評価、レポートなど基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

随時（事前にメールにて問い合わせください）　科目責任者　品田教授室（口腔疾患予防学分野）

８．参考書

担当教員が指示する。

９．その他

遅刻および休む場合は、実習指導教員および科目責任者に連絡する（メールまたは電話）。

事前に実習内容を担当教員に確認し、予習しておくこと。

別表

具体的な日程、診療科、施設名は、実習前までに決定し、連絡する。

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	8 月	病院患者を対象とした口腔ケア等の臨床実習（歯学部、医学部附属病院）	白田千代子、遠藤圭子、近藤圭子、小野寺光江、品田佳世子
２		病院患者を対象とした口腔ケア等の臨床実習（歯学部、医学部附属病院）	白田千代子、遠藤圭子、近藤圭子、小野寺光江、品田佳世子
３		病院患者を対象とした口腔ケア等の臨床実習（歯学部、医学部附属病院）	白田千代子、遠藤圭子、近藤圭子、小野寺光江、品田佳世子
４		病院患者を対象とした口腔ケア等の臨床実習（歯学部、医学部附属病院）	白田千代子、遠藤圭子、近藤圭子、小野寺光江、品田佳世子
５		病院患者を対象とした口腔ケア等の臨床実習（歯学部、医学部附属病院）	白田千代子、遠藤圭子、近藤圭子、小野寺光江、品田佳世子
６		病院患者を対象とした口腔ケア等の臨床実習（歯学部、医学部附属病院）	白田千代子、遠藤圭子、近藤圭子、小野寺光江、品田佳世子
７		病院患者を対象とした口腔ケア等の臨床実習（歯学部、医学部附属病院）	白田千代子、遠藤圭子、近藤圭子、小野寺光江、品田佳世子
８		病院患者を対象とした口腔ケア等の臨床実習（歯学部、医学部附属病院）	白田千代子、遠藤圭子、近藤圭子、小野寺光江、品田佳世子
９		病院患者を対象とした口腔ケア等の臨床実習（歯学部、医学部附属病院）	白田千代子、遠藤圭子、近藤圭子、小野寺光江、品田佳世子
１０	9 月	地域の施設における口腔保健の臨地実習（地域の施設）	白田千代子、遠藤圭子、小野寺光江、坪井真、品田佳世子
１１		地域の施設における口腔保健の臨地実習（地域の施設）	白田千代子、遠藤圭子、小野寺光江、坪井真、品田佳世子
１２		地域の施設における口腔保健の臨地実習（地域の施設）	白田千代子、遠藤圭子、小野寺光江、坪井真、品田佳世子
１３		地域の施設における口腔保健の臨地実習（地域の施設）	白田千代子、遠藤圭子、小野寺光江、坪井真、品田佳世子
１４		地域の施設における口腔保健の臨地実習（地域の施設）	白田千代子、遠藤圭子、小野寺光江、坪井真、品田佳世子
１５		地域の施設における口腔保健の臨地実習（地域の施設）	白田千代子、遠藤圭子、小野寺光江、坪井真、品田佳世子

病院実習

Visit Experience and Practice at Hospital Departments

科目コード：３０１９　１年次　１単位

１．担当教員

科目責任者：　修士課程教育委員長

連絡先：　神奈木真理（免疫治療学分野・教授）

TEL: 03-5803-5798、Email: kann.impt＠tmd.ac.jp

	名前	分野・職名
科目担当者	小田　茂	歯科総合診療部・准教授
	秀島　雅之	回復系診療科・講師
	河野　辰幸	光学医療診療部・部長・教授
	森田　定雄	リハビリテーション部・部長・准教授
	賴　　建光	血液浄化療法部・部長・准教授
	大橋　勇	放射線部・副部長・准教授
	明石　巧	病理部・副部長・准教授
	東田　修二	検査部・副部長・准教授
	梶原　道子	輸血部・部長・講師

２．科目の教育方針

本学附属病院の最先端の医療現場を体験し、医療従事者との交流を通じて、医歯学研究者としての心構えを体得するとともに、事実に基づく医療の評価方法を教授する。

３．教育目標

人々が心身ともに健康な状態を維持するために、医療従事者が果たす役割及び実際の医療活動を理解することを目的として、医療現場を体験訪問する。このことにより、病と健康、ならびに病める人についての理解を深め、あわせて最先端の医療についての基本的知識を修得する。

５．授業計画・授業内容

実習期間中に学生１人あたり５つの診療科を廻り、各診療科で見学実習を行なう。本科目の履修学生総数が判明した後に教務課で学生の班分けと診療科の割当を行なう。実習前にオリエンテーションを行い、ローテーション表を含む実習要項を配布し説明する。

６．成績評価方法

各実習の出席、実習態度及びレポート等の結果を集計し評価する。

７．学習相談

教務課または科目責任者へ問い合わせること。

８．参考書

教科書・参考書等は授業中に指示される場合がある。

９．その他

（１） 病院実習は、実際の医療現場を使用して行うので、事前に当該実習に係る実習要項をよく読み、医療人としての自覚を持ち、責任ある行動をとること。

（２） 欠席するときは教務科に欠席届けを提出し、各実習の責任者もしくは担当教員に事前に必ず連絡をすること。（病気その他特別な事由以外の欠席は認めない。）

（３） 守秘義務を守ること（事前に誓約書に署名のこと）

（４） 実習上の注意事項

①白衣を着用のこと。

②医療人として常識ある服装・態度で参加すること。（スリッパ・T シャツ・茶髪等禁止）

③香水等強い臭いの出るものは控えること。

④私語を慎むこと。

⑤ネームプレート（学生証）を着用のこと。

⑥集合時間を守ること。

⑦指導教員の指示に従うこと。

⑧携帯電話の持ち込み禁止、または電源を OFF とすること。

⑨その他（各実習先の指示に従う）

（５）履修は１年次に限る。なお、履修希望者が多数の場合は、履修者を制限することがある。

生化学

Molecular and Cellular Biology

科目コード：３０２０　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	北嶋　繁孝	遺伝生化分野・教授	Email:kita.bgen@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	寺岡　弘文	医歯学総合研究科・非常勤講師	Email:hteraoka.pbc@mri.tmd.ac.jp
	幸田　尚	エピジェネティクス分野・准教授	Email:tkohda.epgn@mri.tmd.ac.jp
	稲澤　譲治	分子細胞遺伝学分野・教授	Email: johinaz.cgen@mri.tmd.ac.jp
	小崎　健一	分子細胞遺伝学分野・准教授	Email:ken-1.cgen@mri.tmd.ac.jp
	畑　裕	病態代謝解析学分野・教授	Email:yuhammch@tmd.ac.jp
	柳下　正樹	硬組織病態生化学分野・教授	Email:m.yanagishita.bch@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

特に生化学を専攻する者でなくても、種々の研究の過程において分子生物学的・細胞生物学的手法や考え方が必要になると思われる。医歯科学研究者を目指す諸君に、生命の基盤である細胞とゲノムに関する知識と解析方法を体系的に教授する。

３．教育目標

生命の基本単位である細胞とその基盤であるゲノムについて理解する。また、ゲノムの維持と情報発現の乱れが細胞や生体にいかなる病態となって現れるのか、基本的な原理を理解すると共に、医歯科学研究の進め方の基礎知識を修得する。

４．授業の概要

寺岡講師：ゲノムの複製・修復・組換えとゲノム維持機構
幸田准教授：ゲノムのエピジェネクス制御、ジェネティクスとエピジェネティクス
北嶋教授：ゲノム情報の転写と時空間的発現制御、および翻訳過程の制御
稲澤教授：ゲノムの変異と疾患、ヒトゲノムプロジェクト、ポストゲノム
小崎准教授：ゲノムの変異と疾患、ヒトゲノムプロジェクト、ポストゲノム
畑　教授：細胞極性の形成と、シグナル伝達の場としての細胞膜ドメイン形成の分子機構
柳下教授：細胞外マトリックスの分子細胞生物学

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

成績評価は、試験結果および出席状況を勘案のうえ、総合的に判定する。

７．学習相談

授業期間中と前後一週間。あらかじめメールにて連絡を乞う。

８．参考書

「分子生物学」（田沼靖一編、丸善）、「生化学分子生物学」（Elliott WH、東京化学同人）、
「ストライヤ―生化学」、「細胞の分子生物学」（Molecular Biology of the Cell、Newton Press）
「ゲノムサイエンスの新たなる挑戦」蛋白質核酸酵素 12 月増刊号 2001 年（共立出版）
「遺伝子医療革命」ゲノム科学が私たちを変える　フランシス・S・コリンズ著、矢野真千子訳、2011（NHK 出版）

９．その他

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	5 月 9 日（水） 13：00～14：30	１．遺伝子構造（エクソン、イントロ）と転写ユニット、プロモーターについて解説する。 ２．転写開始、伸長、終結の転写サイクルとその装置、転写制御因子の構造と作用機構を解説する。 ３．転写因子異常による疾患と転写症候群について解説する。 ４．転写後の mRNA 成熟プロセシング機構と制御について解説する。 ５．リボゾームにおける翻訳制御の機構について解説する。 （３号館６階　大学院講義室）	北嶋　繁孝
２	5 月 10 日（木） 13：00～14：30		
３	5 月 14 日（月） 13：00～14：30		
４	5 月 11 日(金) 13：00～14：30	１．核酸(DNA, RNA)の構造と機能を解説し、分子生物学のセントラルドグマについて説明する。 ２．DNA 複製機構と Okazaki fragment の意義を説明する。 ３．染色体の構造を理解し、染色体末端の複製問題を解説する。 ４．DNA 損傷の多様さ、および修復の概略を解説し、疾患との対応を説明する。 ５．体細胞組換えと生殖細胞組換えの生物学的意義を解説する。 （３号館６階　大学院講義室）	寺岡　弘文
５	5 月 15 日（火） 13：00～14：30		
６	5 月 16 日（水） 13：00～14：30		
７	5 月 17 日（木） 13：00～14：30	１．生物に存在する２種類の遺伝情報について解析を行うジェネティクスとエピジェネティクスという２つの学問体系を説明する。 ２．ゲノムのエピジェネティクス制御の基盤について解説する。 ３．哺乳動物におけるエピジェネティクス１（ゲノムインプリンティング） ４．哺乳動物におけるエピジェネティクス２（クローン動物における遺伝子発現） （３号館６階　大学院講義室）	幸田　尚
８	5 月 18 日（金） 13：00～14：30		
９	5 月 21 日（月） 13：00～14：30	１．遺伝性疾患の種類と発症機構について解説する。 ２．染色体異常の生成機構と疾患に関する知識を修得する。 ３．遺伝病の染色体・遺伝子解析技術の基礎知識と技術を理解し修得する。 （３号館６階　大学院講義室）	稲澤　譲治
１０	5 月 22 日（火） 13：00～14：30	１．疾患の遺伝子診断、分子標的治療、遺伝子治療に関する基礎知識を解析する。 ２．ヒトゲノムプロジェクト、トランスクリプトミクス、プロテオミクスを解説する。 （３号館６階　大学院講義室）	小崎　健一
１１	5 月 23 日（水） 13：00～14：30	１．多細胞生物における細胞極性形成の重要性を理解する。 ２．細胞極性に関わる細胞接着の分子機構を理解する。 ３．細胞極性を支える分子機構の異常に伴う疾患を理解する。 ４．細胞間シグナル伝達において細胞膜ドメインが果たす役割を理解する。 ５．神経シナプスの形成の分子機構を理解する。 （３号館６階　大学院講義室）	畑　裕
１２	5 月 24 日（木） 13：00～14：30		
１３	5 月 25 日（金） 13：00～14：30	１．多細胞生物における細胞外マトリックスの役割について解説する。 ２．細胞外マトリックスを構成する分子の構造を理解する。 ３．細胞外マトリックス分子の代謝とその調節を理解する。 ４．細胞外マトリックス分子の研究方法について解説する。 （３号館６階　大学院講義室）	柳下　正樹
１４	5 月 28 日（月） 13：00～14：30		
１５	5 月 29 日（火） 13：00～14：30	細胞増殖と老化 （３号館６階　大学院講義室）	北嶋　繁孝

薬理学

Pharmacology

科目コード：３０２１　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	黒川　洵子	生体情報薬理学分野・准教授	Email:junkokuro.bip@ri.tmd.ac.jp
科目担当者	永田　将司	薬物動態学分野・准教授	Email:mna-mpha@tmd.ac.jp
	安原　眞人	薬物動態学分野・教授	Email:yasuhara.mpha@tmd.ac.jp
	田邊　勉	細胞薬理学分野・教授	Email:t-tanabe.mphm@tmd.ac.jp
	福田　哲也	血液内科学分野・助教	Email:fuku.hema@tmd.ac.jp
	玉村　啓和	医薬品化学分野・教授	Email:tamamura.mr@tmd.ac.jp
	大谷　啓一	硬組織薬理学分野・教授	Email:kohya.hpha@tmd.ac.jp
	森田　育男	分子細胞機能学分野・教授	Email:morita.cell@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

薬理学とは，薬物と生体との相互作用を研究する科学である。薬物作用を薬物と標的生体高分子（蛋白質および核酸）の分子相互作用として捕らえ、構造化学的側面から理解する。更に薬物の体内挙動を薬物動態学的立場から講述し、薬物を生体内の標的分子に送達させるためのデリバリーシステムについて理解する。最後に医学歯学の臨床薬理学講義から薬物治療の基本概念を理解する。

３．教育目標

薬物と標的高分子を、化学分子として認識させ、薬理作用を化合物間の相互作用として理解させる。薬物が生体に投与され作用を発揮するまでの過程を理解させる。臨床薬理学を通じて薬理作用を総合的に理解させる。

４．授業の概要

受容体理論；自律神経・循環器薬と作用機序；イオンチャンネルとレセプター；Ca と細胞内情報伝達；レセプターと薬物の分子間相互作用、作用発現の分子機構；薬物の体内動態；硬組織薬理；抗癌剤の構造と作用機序；ペプチド創薬と薬理作用；抗炎症薬とその作用機序。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

成績評価は、出席状況、レポートなどから総合的に判定する。

７．学習相談

授業開始１週間前から授業終了までの毎週金の午後３時から午後５時：教員室
尚，内容が多岐にわたるため各授業内容の担当教員に直接相談するほうが望ましい。

８．参考書

教科書・参考書・参考論文等は授業内容に記載してある。

９．その他

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	5月30日（水） 13：00～14：30	Introduction　薬理学概論 （３号館6階　大学院講義室）	黒川　洵子
２	5月31日（木） 13：00～14：30	薬物動態学（１） （３号館6階　大学院講義室）	永田　将司
３	6月1日（金） 13：00～14：30	薬物動態学（２） （３号館6階　大学院講義室）	
４	6月4日（月） 13：00～14：30	末梢神経薬理学 （３号館6階　大学院講義室）	黒川　洵子
５	6月5日（火） 13：00～14：30	医薬品の安全性 （３号館6階　大学院講義室）	安原　眞人
６	6月6日（水） 13：00～14：30	イオンチャンネルとレセプター （３号館6階　大学院講義室）	田邊　勉
７	6月7日（木） 13：00～14：30	Caと細胞内情報伝達 （３号館6階　大学院講義室）	
８	6月8日（金） 13：00～14：30	抗癌剤とその作用機序 （３号館6階　大学院講義室）	福田　哲也
９	6月11日（月） 13：00～14：30	ペプチド創薬と薬理作用（1） （３号館6階　大学院講義室）	玉村　啓和
１０	6月12日（火） 13：00～14：30	ペプチド創薬と薬理作用（２） （３号館6階　大学院講義室）	
１１	6月13日（水） 13：00～14：30	硬組織薬理学（１） （３号館6階　大学院講義室）	大谷　啓一
１２	6月14日（木） 13：00～14：30	硬組織薬理学（２） （３号館6階　大学院講義室）	
１３	6月15日（金） 13：00～14：30	抗炎症薬とその作用機序（1） （３号館6階　大学院講義室）	森田　育男
１４	6月18日（月） 13：00～14：30	抗炎症薬とその作用機序（2） （３号館6階　大学院講義室）	
１５	6月19日（火） 13：00～14：30	循環器薬理学 （３号館6階　大学院講義室）	黒川　洵子

免疫学

Immunology

科目コード：３０２２　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	鍔田　武志	免疫学分野・教授	Email:tsubata.imm@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	鈴木　春巳	国立国際医療研究センター研究所・部長	
	烏山　　一	免疫アレルギー学分野・教授	Email:karasuyama.mbch@tmd.ac.jp
	反町　典子	国立国際医療研究センター研究所・プロジェクト長	
	東　みゆき	分子免疫学分野・教授	Email:miyuki.mim@tmd.ac.jp
	久保　允人	東京理科大学・教授	
	北村　大介	東京理科大学・教授	
	樗木　俊聡	生体防御学分野・教授	Email:ohteki.bre@mri.tmd.ac.jp
	清水　則夫	フロンティア研究室 ウイルス治療学・准教授	Email:nshivir@mri.tmd.ac.jp
	渡部　良広	日本たばこ産業株式会社 医薬探索研究所・副所長	

２．科目の教育方針

学部生で免疫学に接することができなかった学生も対象として、免疫の基本的な仕組みにフォーカスをあてた講義を行なうとともに、受講者の積極的な参加により、免疫学的思考法を育成する。

３．教育目標

免疫システムの成り立ちや免疫応答の仕組みなどの免疫学の基本的な概念を理解し、さらに、感染免疫や免疫疾患の解明と制御への展開を行なえる免疫学的思考法を身につける。

４．授業の概要

リンパ球の発生や選択などの免疫システムの成り立ちや、免疫応答の基本的な仕組みを中心とした講義を行なうとともに、感染免疫や自己免疫、アレルギーなどの疾患の理解と薬剤開発も含めた免疫制御法の開発についての講義を行なう。授業への積極的な参加を行なうよう、ディスカッションや発表、レポート等を随時取り入れて授業を進める。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

試験結果に授業の参加状況を加味する。

７．学習相談

科目責任者。随時。あらかじめメール等により相談し、アポイントをとること。

８．参考書

エッセンシャル免疫学　Peter Parham （監訳　笹月健彦）MEDSI

９．その他

積極的に参加すること。また、参考文献を指定される場合があるので、その場合にはあらかじめ参考文献を読んでおくこと。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	10月5日（金） 8：50～10：20	免疫系の抗原認識 （３号館６階　大学院講義室）	鍔田　武志
２	10月5日（金） 10：30～12：00	免疫系の抗原認識 （３号館６階　大学院講義室）	
３	10月12日（金） 8：50～10：20	先天免疫 （３号館６階　大学院講義室）	反町　典子
４	10月12日（金） 10：30～12：00	Ｂリンパ球の発生と分化 （３号館６階　大学院講義室）	烏山　　一
５	10月19日（金） 8：50～10：20	Ｔリンパ球の分化と選択 （３号館６階　大学院講義室）	鈴木　春巳
６	10月19日（金） 10：30～12：00	Ｔリンパ球の分化と選択 （３号館６階　大学院講義室）	
７	10月26日（金） 8：50～10：20	液性免疫応答 （３号館６階　大学院講義室）	鍔田　武志
８	10月26日（金） 10：30～12：00	液性免疫応答 （３号館６階　大学院講義室）	
９	11月2日（金） 8：50～10：20	Ｔ細胞の活性化と免疫応答 （３号館６階　大学院講義室）	東　みゆき
１０	11月2日（金） 10：30～12：00	サイトカインとＴ細胞免疫応答 （３号館６階　大学院講義室）	久保　允人
１１	11月9日（金） 8：50～10：20	粘膜免疫 （３号館６階　大学院講義室）	樗木　俊聡
１２	11月9日（金） 10：30～12：00	Ｂリンパ球活性化とシグナル伝達 （３号館６階　大学院講義室）	北村　大介
１３	11月16日（金） 8：50～10：20	ウイルス感染と免疫 （３号館６階　大学院講義室）	清水　則夫
１４	11月16日（金） 10：30～12：00	ウイルス感染と免疫 （３号館６階　大学院講義室）	
１５	11月22日（木） 10：30～12：00	免疫領域での薬剤開発 （３号館６階　大学院講義室）	渡部　良広

発生・再生科学

Developmental and Regenerative Bioscience

科目コード：３０２３　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	淺原　弘嗣	システム発生・再生医学分野・教授	Email:asahara.syst@tmd.ac.jp
科目担当者	関矢　一郎	軟骨再生学分野・教授	Email:sekiya.orj@tmd.ac.jp
	仁科　博史	発生再生生物学分野・教授	Email:nishina.dbio@mri.tmd.ac.jp
	田賀　哲也	幹細胞制御分野・教授	Email:taga.scr@mri.tmd.ac.jp
	西村　栄美	幹細胞医学分野・教授	Email:nishscm@tmd.ac.jp
	久保田　俊郎	生殖機能協関学分野・教授	Email:t.kubota.gyne@tmd.ac.jp
	水谷　修紀	発生発達病態学分野・教授	Email:smizutani.ped@tmd.ac.jp
	原田　理代	臨床解剖学分野・助教	
	星　治	形態・生体情報解析学分野・教授	Email:o-hoshi.aps@tmd.ac.jp
	金井　正美	疾患モデル動物解析学分野・教授	Email:mkanai.arc@cmm.tmd.ac.jp
	高田　修治	国立成育医療研究センター研究所・部長	
	黒柳　秀人	遺伝子発現制御学分野・准教授	Email:kuroyana.end@tmd.ac.jp
	井関　祥子	分子発生学分野・教授	Email:s.iseki.emb@tmd.ac.jp
	幸田　尚	エピジェネティクス分野・准教授	Email:tkohda.epgn@mri.tmd.ac.jp
	石野　史敏	エピジェネティクス分野・教授	Email:fishino.epgn@mri.tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

発生・再生・生殖医学に関する基本的知識を学び、最先端の研究戦略を理解する。
医学と生物学の両面から、十分な情報を得て、この分野において深い洞察力をつけることを目標とする。

３．教育目標

個の発生を通して、医学生物学的知識を蓄えるだけでなく、まだ解明されていないパラダイムが何であるかを学び、それが明かされる事で期待されるインパクトを想像することで、サイエンス教育の本質に迫ることを目的とする。

４．授業の概要

生命の誕生から発達まで、最新の分子生物学、遺伝学のレベルで概説する。また、小児成長における遺伝疾患を系統的に学習し、発生学を基盤とした、将来のステム細胞を用いた再生医療への展望を考える。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の参加（出席）状況及び試験に基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

随時　科目責任者　淺原弘嗣　システム発生・再生医学分野　メールもしくは電話にて問合せのこと。

８．参考書

「Developmental Biology」　SINAUER 社　Scott F. Gilbert

「わかる実験医学シリーズ　発生生物学がわかる」　羊土社　編集／上野直人，野地澄晴

９．その他

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	10 月 2 日（火） 8：50～10：20	間葉系幹細胞と再生医学（関節軟骨を例として） （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	関矢　一郎
２	10 月 2 日（火） 10：30～12：00	肝臓の発生と再生 （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	仁科　博史
３	10 月 9 日（火） 8：50～10：20	幹細胞からみた中枢神経系の発生と再生 （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	田賀　哲也
４	10 月 9 日（火） 10：30～12：00	色素幹細胞や毛包幹細胞を中心とした組織幹細胞やニッチの話 （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	西村　栄美
５	10 月 16 日（火） 8：50～10：20	ヒト胎児の発生と発育 （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	久保田　俊郎
６	10 月 16 日（火） 10：30～12：00	小児科における発生・発育に関わる疾患（仮） （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	水谷　修紀
７	10 月 23 日（火） 8：50～10：20	FGF9 による関節形成制御機構 （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	原田　理代
８	10 月 23 日（火） 10：30～12：00	血球の形態と形成 （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	星　治
９	10 月 30 日（火） 8：50～10：20	疾患モデルマウスの発生、再生医療への応用 （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	金井　正美
１０	10 月 30 日（火） 10：30～12：00	マウスのミュータジェネシス （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	高田　修治
１１	11 月 6 日（火） 8：50～10：20	モデル生物の発生と遺伝子発現制御 （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	黒柳　秀人
１２	11 月 6 日（火） 10：30～12：00	四肢をモデルとした発生分子生物学 （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	淺原　弘嗣
１３	11 月 13 日（火） 8：50～10：20	頭蓋顎顔面の発生と再生 （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	井関　祥子
１４	11 月 13 日（火） 10：30～12：00	受精と生殖における分子生物学（仮） （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	幸田　尚
１５	11 月 20 日（火） 8：50～10：20	エピジェネティクスと発生（仮） （M&D タワー21 階　大学院講義室１）	石野　史敏

細胞生物学特論

Molecular Cell Biology

科目コード：３０２４　１年次　１単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	澁谷　浩司	分子細胞生物学分野・教授	Email:shibuya.mcb@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	石野　史敏	エピジェネティクス分野・教授	Email:fishino.epgn@mri.tmd.ac.jp
	高柳　　広	分子情報伝達学分野・教授	Email:taka.csi@tmd.ac.jp
	仁科　博史	発生再生生物学分野・教授	Email:nishina.dbio@mri.tmd.ac.jp
	一條　秀憲	東京大学・教授	
	田中　信之	日本医科大学・教授	
	夏目　　徹	産業技術総合研究所･チームリーダー	
	山梨　裕司	東京大学・教授	

２．科目の教育方針

生物個体を形成している個々の細胞は、それぞれの分化した性質を保ちながらも、お互いに密接な情報交換を行い全体として統合のとれた生命活動を営んでいる。本科目群は細胞同士がどのような分子を介して、どのように情報を交換しているのかについて各専門分野の視点から細胞内、細胞間情報の分子機構を教授する。

３．教育目標

細胞の活性化・分化・増殖・死の分子機構について，特に細胞間や細胞内での情報伝達の基本原理とその本体および特性，その時間的空間的側面から理解する。

４．授業の概要

細胞間や細胞内での情報伝達の基本原理とその本体および特性、とりわけその時間的空間的側面について教育する。外界からの刺激による細胞の活性化・分化・増殖・死の分子機構について主に、細胞内シグナル伝達の観点から教育する。また、一部最先端の研究を紹介する。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の出席状況及びレポートに基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

授業終了後に各科目担当者と個別に相談すること、または科目責任者とメールで相談することとする。

８．参考書

特になし。

９．その他

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月20日（水） 13：00～14：30	細胞生物学概論 （M&Dタワー21階　大学院講義室１）	澁谷　浩司
2	6月21日（木） 13：00～14：30	癌抑制のシグナル伝達 （M&Dタワー21階　大学院講義室１）	田中　信之
3	6月22日（金） 13：00～14：30	ストレスシグナルと疾患 （M&Dタワー21階　大学院講義室１）	一條　秀憲
4	6月25日（月） 13：00～14：30	肝形成を制御するシグナル伝達系 （M&Dタワー21階　大学院講義室１）	仁科　博史
5	6月26日（火） 13：00～14：30	神経筋シナプス形成シグナルとその破綻 （M&Dタワー21階　大学院講義室１）	山梨　裕司
6	6月27日（水） 13：00～14：30	インタラクトミクスによる細胞内シグナル伝達パスウェイ解析 （M&Dタワー21階　大学院講義室１）	夏目　　徹
7	6月28日（木） 13：00～14：30	エピジェネティクスからみた生命現象 （M&Dタワー21階　大学院講義室１）	石野　史敏
8	6月29日（金） 13：00～14：30	破骨細胞のシグナル伝達と骨免疫学 （M&Dタワー21階　大学院講義室１）	高柳　　広

神経疾患特論

Introduction to Medical Neurosciences

科目コード：３０２５　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	田中　光一	分子神経科学分野・教授	Email:tanaka.aud@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	杉内友理子	システム神経生理学分野・准教授	Email:ysugiuchi.phy1@tmd.ac.jp
	浜崎　浩子	北里大学・教授	
	岡澤　均	神経病理学分野・教授	Email:okazawa.npat@mri.tmd.ac.jp
	相澤　秀紀	分子神経科学分野・准教授	Email:haizawa.aud@mri.tmd.ac.jp
	杉原　泉	システム神経生理学分野・教授	Email:isugihara.phy1@tmd.ac.jp
	岡田　隆	上智大学・教授	
	星野　幹雄	国立精神・神経医療研究センター・部長	
	吉川　武男	理化学研究所・チームリーダー	
	後藤　雄一	国立精神・神経医療研究センター・部長	

２．科目の教育方針

認知と神経系における情報処理の基本原理とその分子基盤について教授する。神経機能により、認知行動といった高次生体機能がどのように制御されているかについての教育を行う。

３．教育目標

神経系の生理機能や各種神経・精神疾患の病態・病因について、基本的な原理を理解すると共に、実際の研究の進め方の基礎知識を修得する。

４．授業の概要

脳の形成機序から作動原理までの正常な脳機能、脳研究の基本的方法論、脳機能破綻による精神神経疾患の概略に関して、講義を行う。また、学外の講師による、最新の精神神経疾患に関する特別講義も行う。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の参加（出席）状況及び試験に基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

内容が多岐にわたるので各授業内容の担当教員に直接相談すること。

８．参考書

・「脳神経科学イラストレイテッド」（羊土社）、「脳・神経科学入門講座（上・下）」（羊土社）
・「脳と神経−分子神経生物科学入門」（共立出版）
・「記憶と脳」サイエンス社
・「Neuroscience-Exploring the brain」（Lippincott Williams & Wilkins）
・「From Neuron to Brain」（Sinauer）
・「精神の脳科学」（シリーズ脳科学６、東京大学出版会）
・「自律機能生理学」（金芳堂 ISBN:4-7653-0785-9）
・「脳神経疾患の分子病態と治療への展開」（羊土社　ISBN:978-4-7581-0284-1　C3047）

９．その他

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	６月14日（木） 10：30～12：00	神経科学に用いられる研究方法を理解する１ （３号館６階　大学院講義室）	田中　光一
２	６月15日（金） ８：50～10：20	神経科学に用いられる研究方法を理解する２ （３号館６階　大学院講義室）	杉内　友理子
３	６月15日（金） 10：30～12：00	摂食行動・社会行動のメカニズムを理解する （３号館６階　大学院講義室）	浜崎　浩子
４	６月18日（月） ８：50～10：20	神経変性疾患のメカニズムを理解する （３号館６階　大学院講義室）	岡澤　　均
５	６月18日（月） 10：30～12：00	脳の左右差を理解する （３号館６階　大学院講義室）	相澤　秀紀
６	６月19日（火） ８：50～10：20	小脳の機能を理解する （３号館６階　大学院講義室）	杉原　　泉
７	６月19日（火） 10：30～12：00	記憶・学習のメカニズムを理解する （３号館６階　大学院講義室）	岡田　　隆
８	６月21日（木） ８：50～10：20	脳の発生を理解する （３号館６階　大学院講義室）	星野　幹雄
９	６月21日（木） 10：30～12：00	精神疾患のメカニズムを理解する （３号館６階　大学院講義室）	吉川　武男
１０	６月22日（金） ８：50～10：20	脳発達障害を起こす疾患を理解する （３号館６階　大学院講義室）	後藤　雄一
１１ ｜ １５	未定	医歯学総合研究科の大学院特別講義を指定	外来講師

遺伝医学特論

Introduction to Human Molecular Genetics

科目コード：３０２６　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	稲澤　譲治	分子細胞遺伝学分野・教授	Email:johinaz.cgen@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	北嶋　繁孝	遺伝子機能医学分野・教授	Email:kita.bgen@mri.tmd.ac.jp
	木村　彰方	遺伝制御学分野・教授	Email:akitis@mri.tmd.ac.jp
	秋山　好光	分子腫瘍医学分野・講師	Email:yakiyama.monc@tmd.ac.jp
	三木　義男	遺伝子応用医学分野・教授	Email:miki.mgen@mri.tmd.ac.jp
	亀井　康富	臓器代謝ネットワーク研究部門・特任教授	Email:kamei.mmm@mri.tmd.ac.jp
	石野　史敏	エピジェネティクス分野・教授	Email:fishino.epgn@mri.tmd.ac.jp
	久保田　俊郎	生殖機能協関学・教授	Email:t.kubota.gyne@tmd.ac.jp
	小崎　健一	分子細胞遺伝学分野・准教授	Email:ken-1.cgen@mri.tmd.ac.jp
	長澤　正之	地域小児医療調査研究講座・教授	Email:mnagasawa.ped@tmd.ac.jp
	田中　裕二郎	ゲノム構造制御分野・准教授	Email:ytanaka.bgen@mri.tmd.ac.jp
	村松　正明	分子疫学分野・教授	Email:muramatsu.epi@mri.tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

ヒトゲノム塩基配列の全容が明らかになった。このポストシーケンス時代にあって疾患の本態を理解し、その診断、治療、さらに予防を視野に入れた医歯学研究を展開するには、遺伝医学の知識は必須である。本講義では、遺伝医学の基礎知識と研究手法を教授するだけではなく、生命の誕生から終焉までのヒトの生涯で起きる生命現象と、その破綻によって起きるさまざまな疾患の発症メカニズムを説きながら、基礎から最先端までの疾患遺伝学、ゲノム応用医学を教授する。

３．教育目標

遺伝医学の基礎から最先端のゲノム医科学までの知識を修得する一方、疾患と遺伝子に関してその発症メカニズム、診断、治療、予防ならびに生命倫理までを学ぶ。

４．授業の概要

稲澤　譲治：遺伝疾患の基礎、ゲノム解析と疾患遺伝子の分析技術、ゲノム応用医学、遺伝子と癌

北嶋　繁孝：ヒトDNAの変異、転写共役修復と疾患

木村　彰方：遺伝医学と生命倫理

秋山　好光：ヒトDNAの突然変異と不安定性、ヒト遺伝子と癌

三木　義男：ヒト遺伝子と生活習慣病

亀井　康富：疾患モデル動物の作製と遺伝子治療

石野　史敏：エピジェネティクスと疾患

小崎　健一：ゲノム解析手法と遺伝疾患の診断

長澤　正之：小児科領域の遺伝疾患

田中裕二郎：ゲノム構造と機能
久保田俊郎：生殖・発生と遺伝医学
村松　正明：多因子疾患の遺伝子と環境因子

５．授業計画・授業内容
別表のとおり。

６．成績評価方法
本科目の最終日に試験を課しその結果とともに出席状況を勘案して評価する。

７．学習相談
授業内容等の問い合わせに関しては、科目責任者および科目担当者に電子メール等で随時連絡を取ることにより、適宜これに対応する。

８．参考書
１．The Biology of Cancer. Weinberg RA. Garland Science, Taylor & Francis Group 2006.
２．Human Molecular Genetics. Strachan T.& Read AP. Bios Scientific Publisher 2nd Ed.
３．（上記日本語訳）ヒトの分子遺伝学. 村松正実監修メディカルサイエンスインターナショナル
４．Molecular Biology of The Cell (4th ed) Alberts B.他
５．（上記日本語訳）細胞の分子生物学・第３版　松原謙一他監訳　Newton Press
６．ゲノムから生命システムへ　蛋白質核酸酵素　12月増刊2005（共立出版）
７．Genomes. Brown T.A. Bios Scientific Publisher 3nd Ed. 2007
８．（上記日本語訳）ゲノム 第３版. 村松正実監訳メディカルサイエンスインターナショナル
９．生命科学. 柳田充弘、佐藤文彦、石川冬木編　2004年2月刊（東京化学同人）
１０．がん研究のいま「がんの診断と治療」中村祐輔、稲澤譲治編著 2006年2月刊（東大出版）
１１．遺伝子医療革命－ゲノム科学が私たちを変える　フランシス・S・コリンズ著
矢野真千子訳、2011 (NHK 出版)

９．その他

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月31日（木） 8：50～10：20	遺伝医学の基礎（現状と展望）について学ぶ。 1） 遺伝医学の歴史 2） ヒトメンデル遺伝の特徴 （3号館6階　大学院講義室）	稲澤　譲治
2	6月1日（金） 8：50～10：20	1） 生命の設計図に例えるヒトの遺伝子 2） 疾患とゲノム （3号館6階　大学院講義室）	
3	6月4日（月） 8：50～10：20	クロマチンの基本構造とその制御機構を理解する。 1） クロマチンの構造と機能 2） クロマチン制御機構と疾患 （3号館6階　大学院講義室）	田中　裕二郎
4	6月4日（月） 10：30～12：00	ゲノムの解析手法に関する基本知識と遺伝医学への応用を理解する。 1） 細胞培養技術と染色体分析、染色体異常症 2） 各種ゲノム解析技術 （3号館6階　大学院講義室）	小崎　健一
5	6月5日（火） 8：50～10：20	遺伝子改変モデル動物の基礎と疾患解明へのストラテジーを理解する。 1） トランスジェニック技術と遺伝子ターゲッティン 2） 遺伝子治療の現状と展望 （3号館6階　大学院講義室）	亀井　康富
6	6月5日（火） 10：30～12：00	ゲノム研究の成果、応用と生命倫理について学ぶ。 1） ヒトゲノム・遺伝子解析研究のガイドライン 2） 遺伝子診断と遺伝カウンセリング 3） トランスレーショナルメディシン （3号館6階　大学院講義室）	木村　彰方
7	6月7日（木） 8：50～10：20	小児科領域の遺伝疾患総論 （3号館6階　大学院講義室）	長澤　正之
8	6月7日（木） 10：30～12：00	婦人科領域と遺伝性疾患、遺伝医学に関して学ぶ。 1） 生殖と発生の分子機構 2） 生殖と発生の異常による疾患 （3号館6階　大学院講義室）	久保田　俊郎
9	6月8日（金） 8：50～10：20	ゲノム不安定性のメカニズムと、疾患との関連を理解する。 1） DNA変異と転写共役修復、その傷害による疾患 2） 遺伝子異常、タン白質異常と細胞死 （3号館6階　大学院講義室）	北嶋　繁孝
10	6月8日（金） 10：30～12：00	疾患におけるヒトゲノムの多様性の意義を学ぶ。 1） ヒトゲノムの多様性 2）ヒトゲノムプロジェクト 3）家系解析による疾患遺伝子の同定 4）集団解析による疾患遺伝子の同定 （3号館6階　大学院講義室）	木村　彰方
11	6月11日（月） 8：50～10：20	1） 遺伝的不安定と疾患 2） 遺伝的不安定性と癌 （3号館6階　大学院講義室）	秋山　好光
12	6月11日（月） 10：30～12：00	遺伝性疾患、多因子疾患の遺伝性要因の探索法を学ぶ。 1） 疾患の遺伝性要因の寄与度を知る方法 2） 家系を対象とする連鎖の解析 3）集団を対象とする関連の解析 （3号館6階　大学院講義室）	村松　正明
13	6月12日（火） 8：50～10：20	1） ゲノムインプリンティング 2） 疾患とエピジェネティクス （3号館6階　大学院講義室）	石野　史敏
14	6月12日（火） 10：30～12：00	遺伝子異常とヒト疾患の発生機構、診断、予防に関して理解する。 1） ヒトの病気と遺伝子の関わり 2） ヒト疾患の原因遺伝子の同定と診断、治療 3） 遺伝子多様性と個別化医療 （3号館6階　大学院講義室）	三木　義男
15	6月14日（木） 8：50～10：20	遺伝子異常と癌の発生機構、診断、予防に関して理解する。 1） 癌抑制遺伝子と遺伝性腫瘍 2） 癌遺伝子の活性化と発がん 3） 次世代のゲノム医療の展開 （3号館6階　大学院講義室）	稲澤　譲治

口腔保健福祉学

Oral Health Generic Care Sciences

科目コード：３０２７　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	品田　佳世子	口腔疾患予防学分野・教授	Email:shinada.pvoh@tmd.ac.jp
科目担当者	白田　千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野・教授	Email:hakuta.gohc@tmd.ac.jp
	吉増　秀實	健康支援口腔保健衛生学分野・教授	Email:h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp
	寺岡　加代	口腔健康教育学分野・教授	Email:ktera.ohce@tmd.ac.jp
	遠藤　圭子	口腔疾患予防学分野・准教授	Email:usagi.aohc@tmd.ac.jp
	坪井　真	地域・福祉口腔保健衛生学分野・講師	Email:tsuboi.fohc@tmd.ac.jp
	小野寺　光江	健康支援口腔保健衛生学分野・講師	Email:hakuta.gohc@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

国民一人ひとりが健康で質の高い生活を営むうえで基礎的かつ重要な役割を果たす口腔保健を実践するための高度な知識を教授するとともに、人々の健康と生活を支える口腔保健福祉の実践・政策及び地域を基盤とした医療・保健・福祉のネットワークについて、その現状と方法論を教授する。

３．教育目標

口腔保健の計画実践方法を理解する。さらに、人々の健康と生活を支える口腔保健福祉の実践・政策の現状と方法論、地域を基盤とした医療・保健・福祉のネットワークの現状と方法論について理解する。

４．授業の概要

（1）口腔保健の概論および実践方法（口腔保健の概念、口腔保健と隣接領域、諸外国と我が国における口腔保健の歴史と現状、口腔保健に関わる専門職の特徴と役割）
（2）口腔保健福祉の実践・政策の現状（歯科衛生士による実践の現状と課題、歯科衛生士を取り巻く制度・政策の現状と課題、口腔保健福祉が支援する人々の生活実態とニーズ）
（3）口腔保健福祉の方法論（口腔保健福祉におけるヘルスプロモーションの活用、口腔保健福祉における国際生活機能分類の活用、口腔保健福祉における個別援助技術・集団援助技術の活用）
（4）地域を基盤とした医療・保健・福祉のネットワークの現状（歯科保健医療と隣接領域のフォーマル・ネットワーク、地域住民のインフォーマル・ネットワークと健康教育）
（5）地域を基盤とした医療・保健・福祉のネットワークの方法論（医療・保健・福祉のシームレスな地域包括ケア・ネットワーク、コミュニティ・オーガニゼーションの活用）
（6）課題研究

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の出席状況、課題レポートの内容に基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

随時（事前にメールにて問い合わせること。）　科目責任者　品田教授室（口腔疾患予防学分野）

８．参考書

担当教員が指示する。

９．その他

遅刻および休む場合は、科目責任者に連絡する（メールまたは電話）。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	10 月 1 日（月） 8：50～10：20	口腔保健の概論と実践方法 （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	品田　佳世子
２	10 月 1 日（月） 10：30～12：00	口腔保健と隣接領域 （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	吉増　秀實
３	10 月 15 日（月） 8：50～10：20	諸外国と我が国における口腔保健の歴史と現状 （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	品田　佳世子
４	10 月 15 日（月） 10：30～12：00	口腔保健に関わる専門職の特徴と役割 （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	遠藤　圭子
５	10 月 22 日（月） 8：50～10：20	歯科衛生士による実践の現状と課題 （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	白田　千代子
６	10 月 22 日（月） 10：30～12：00	歯科衛生士を取り巻く制度・政策の現状と課題 （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	品田　佳世子
７	10 月 29 日（月） 8：50～10：20	口腔保健福祉が支援する人々の生活実態とニーズ （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	白田　千代子
８	10 月 29 日（月） 10：30～12：00	口腔保健福祉におけるヘルスプロモーションの活用 （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	品田　佳世子
９	11 月 5 日（月） 8：50～10：20	口腔保健福祉における国際生活機能分類の活用 （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	寺岡　加代
１０	11 月 5 日（月） 10：30～12：00	口腔保健福祉における個別援助技術・集団援助技術の活用 （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	遠藤　圭子
１１	11 月 12 日（月） 8：50～10：20	歯科保健医療と隣接領域のフォーマル・ネットワーク （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	小野寺　光江
１２	11 月 12 日（月） 10：30～12：00	地域住民のインフォーマル・ネットワークと健康教育 （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	寺岡　加代
１３	11 月 19 日（月） 8：50～10：20	医療・保健・福祉のシームレスな地域包括ケア・ネットワーク （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	坪井　真
１４	11 月 19 日（月） 10：30～12：00	コミュニティ・オーガニゼーションの活用 （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	坪井　真
１５	11 月 20 日（火） 10：30～12：00	課題研究 （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	品田佳世子、白田千代子、遠藤圭子、坪井真、小野寺光江

バイオインフォマティクス

Bioinformatics

科目コード：３０２８　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	田中　博	システム情報生物学分野　・教授	Email:tanaka@bioinfo.tmd.ac.jp
科目担当者	新村　芳人	生命情報学分野・准教授	Email:niimura@bioinfo.tmd.ac.jp
	荻島　創一	生命情報学分野・助教	Email:ogishima@bioinfo.tmd.ac.jp
	任　鳳蓉	システム情報生物学分野・特任准教授	Email:ren@bioinfo.tmd.ac.jp
	高井　貴子	バイオサイエンスデータベースセンター	
	茂櫛　薫	システム情報生物学分野・特任助教	Email:mogushi@bioinfo.tmd.ac.jp
	長谷　武志	システム情報生物学分野・特任助教	Email:hase@bioinfo.tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

情報科学の方法論を用いて医学的課題を解決しようとする際に必要となる、バイオインフォマティクスの基礎的知識を学ぶ。

３．教育目標

ヒトゲノムの解読以降、遺伝子の発現情報（トランスクリプトーム）や細胞内の蛋白質総体（プロテオーム）、代謝物質の総体（メタボローム）など様々な種類の網羅的分子（オミックス）情報の収集・解析が急速に進展している。これらのオミックス情報を解析するために必要となるバイオインフォマティクスについて学ぶ。さらに、生命をシステムとして理解する「システム生物学」の考え方と情報技術について学ぶ。

４．授業の概要

バイオインフォマティクスの基礎から始め、疾患解析を目的とする応用までを学ぶ。続いて Web アプリケーションを用いた演習を通して実践力を身に付ける。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の参加（出席）状況及び試験に基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

毎日午前９：００から１０：００　　科目責任者　田中教授室

８．参考書

田中 博　著　「生命と複雑系」（培風館）

田中 博　著　「生命 – 進化するネットワーク」（パーソナルメディア）

９．その他

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	5 月 9 日（水） 10：30～12：00	バイオインフォマティクス概論 (M&D タワー21 階　大学院講義室１)	田中　博
２	5 月 16 日（水） 8：50～10：20	ゲノム解析学概論 (M&D タワー21 階　大学院講義室１)	新村　芳人
３	5 月 16 日（水） 10：30～12：00	分子進化学概論 (M&D タワー21 階　大学院講義室１)	
４	5 月 23 日（水） 8：50～10：20	ウイルス進化学概論 (M&D タワー21 階　大学院講義室１)	任　鳳蓉
５	5 月 23 日（水） 10：30～12：00	配列・分子生物データベース (M&D タワー21 階　大学院講義室１)	高井　貴子
６	5 月 30 日（水） 8：50～10：20	配列解析 (M&D タワー21 階　大学院講義室１)	荻島　創一
７	5 月 30 日（水） 10：30～12：00	遺伝子発現解析 (M&D タワー21 階　大学院講義室１)	茂櫛　薫
８	6 月 6 日（水） 8：50～10：20	バイオマーカー探索 (M&D タワー21 階　大学院講義室１)	
９	6 月 6 日（水） 10：30～12：00	ネットワーク解析概論 (M&D タワー21 階　大学院講義室１)	長谷　武志
１０	6 月 13 日（水） 8：50～10：20	遺伝子情報解析演習 (M&D タワー4 階　図書館情報検索室)	茂櫛　薫
１１	6 月 13 日（水） 10：30～12：00	配列・分子生物データベース演習 (M&D タワー4 階　図書館情報検索室)	荻島　創一
１２	6 月 20 日（水） 8：50～10：20	ネットワーク解析演習 (M&D タワー4 階　図書館情報検索室)	
１３	6 月 20 日（水） 10：30～12：00	システム生物学概論 (M&D タワー21 階　大学院講義室１)	
１４	6 月 27 日（水） 8：50～10：20	システム生物学演習(1) (M&D タワー4 階　図書館情報検索室)	高井　貴子
１５	6 月 27 日（水） 10：30～12：00	システム生物学演習(2) (M&D タワー4 階　図書館情報検索室)	

疾患オミックス情報学特論

Disease OMICS Informatics

科目コード：３０２９　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	田中　博	システム情報生物学分野・教授	Email:tanaka@bioinfo.tmd.ac.jp
科目担当者	荻島　創一	生命情報学分野・助教	Email:ogishima@bioinfo.tmd.ac.jp
	高井　貴子	バイオサイエンスデータベースセンター	
	茂櫛　薫	システム情報生物学分野・特任助教	Email:mogushi@bioinfo.tmd.ac.jp
	飯島　久美子	システム情報生物学分野・特任助教	Email:iijima@bioinfo.tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

網羅的分子情報によって生命を全体として理解するオミックス生命科学は、医学・医療の分野に応用され、オミックス医療としてその有効性を発揮しつつある。特に「大半の疾患は分子ネットワークの調節不全や歪みが基礎となって、発症・進行する」とする考え方の展開は、「患者病態に特異的な分子ネットワークの歪み」を同定し、その認識に基づいて個々の患者に対する個別化医療、予測医療、先制医療、そして至適治療を実現する可能性を拓いた。本科目では、疾患オミックス情報が、医療にもたらす革新的な寄与と将来の展望について学ぶ。

３．教育目標

オミックス生命科学、オミックス医療、システム分子医学へ至る網羅的分子医学の世代的な発展とその特徴を理解する。続いて多因子疾患の代表例である癌をテーマとして、疾患オミックス情報学的解析から得られる癌ネットワークの理解とそのダイナミックな特性について、解析技術と合わせて学ぶ。さらに、疾患オミックス情報学的解析結果のトランスレーショナル・リサーチへの応用について学ぶ。

４．授業の概要

概論を座学で学んだ後、病態解析を目的とした網羅的遺伝子発現プロファイル（マイクロアレー）のデータ解析を、統計解析パッケージ R を用いて演習する。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の参加（出席）状況及び試験に基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

毎日午前９：００から１０：００　　科目責任者　田中教授室

８．参考書

・「ワインバーグがんの生物学」原著者：Robert A. Weinberg, 訳：武藤誠/青木正博, 南江堂.

・「医療・創薬のためのメディカル・システムバイオロジー」田中博、茂櫛薫、荻島創一、高井貴子著、培風館より出版準備中

９．その他

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	10 月 4 日（木） 8：50～10：20	疾患オミックス情報学概論(1) (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	田中　博
２	10 月 4 日（木） 10：30～12：00	疾患オミックス情報学概論(2) (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	
３	10 月 11 日（木） 8：50～10：20	癌臨床オミックス解析(1) (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	茂櫛　薫
４	10 月 11 日（木） 10：30～12：00	癌臨床オミックス解析(2) (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	
５	10 月 18 日（木） 8：50～10：20	癌マルチオミックス解析(1) (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	飯島　久美子
６	10 月 18 日（木） 10：30～12：00	癌マルチオミックス解析(2) (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	
７	10 月 25 日（木） 8：50～10：20	癌システム生物学(1) (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	荻島　創一
８	10 月 25 日（木） 10：30～12：00	癌システム生物学(2) (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	
９	11 月 1 日（木） 8：50～10：20	パーソナルゲノムと個別化医療・医療情報 (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	高井　貴子
１０	11 月 1 日（木） 10：30～12：00	トランスレーショナルバイオインフォマティクス (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	
１１	11 月 8 日（木） 8：50～10：20	オミックス解析実習(1) (M&D タワー4 階　図書館情報検索室)	茂櫛　薫
１２	11 月 8 日（木） 10：30～12：00	オミックス解析実習(2) (M&D タワー4 階　図書館情報検索室)	
１３	11 月 15 日（木） 8：50～10：20	オミックス解析実習(3) (M&D タワー4 階　図書館情報検索室)	
１４	11 月 15 日（木） 10：30～12：00	オミックス解析実習(4) (M&D タワー4 階　図書館情報検索室)	
１５	11 月 22 日（木） 8：50～10：20	オミックス解析実習(5) (M&D タワー4 階　図書館情報検索室)	荻島　創一

機能分子化学

Introduction to Chemistry and Biology of Biofunctional Molecules

科目コード：３０３０　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	玉村　啓和	医薬品化学分野・教授	Email:tamamura.mr@tmd.ac.jp
科目担当者	影近　弘之	薬化学分野・教授	Email:kageomc@tmd.ac.jp
	細谷　孝充	生命有機化学分野・教授	Email:thosoya.cb@tmd.ac.jp
	長田　裕之	理研生体分子制御学分野・連携教授	
	平野　智也	生体機能分子科学分野・准教授	Email:hiraomc@tmd.ac.jp
	野村　渉	創薬科学分野・講師	Email:nomura.mr@tmd.ac.jp
	大崎　愛弓	薬化学分野・助教	Email:a-ohsaki.fm@tmd.ac.jp
	藤井　晋也	薬化学分野・助教	Email:fujiomc@tmd.ac.jp
	伊藤　哲	富士レビオ・部長	

２．科目の教育方針

生体で機能する様々な化合物（ホルモンやタンパク分子）とゲノムを構成するDNAに関して、原子、分子レベルで構造と機能発現について理解し、これらの生体分子に関連する化合物の化学合成、構造解析、およびその応用に関する最近の研究について教育する。

３．教育目標

これまでに研究されてきた機能分子について、その設計のコンセプトや応用例について理解を深め、最新の成果について習得する。

４．授業の概要

それぞれの担当教員が下記の講義を担当する。

玉村：ペプチド・蛋白質化学について解説する。
影近、藤井：核内受容体の医薬化学について解説する。
細谷：生体高分子の化学的探索について解説する。
長田：微生物生理活性物質の生合成について解説する。
平野：機能分子のデザインと開発戦略について解説する。
野村：ゲノム化学の基礎と展開について解説する。
大崎：天然医薬の基礎と最前線について解説する。
伊藤：オーダーメード医療について解説する。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の参加（出席）状況及び試験に基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

授業開始１週間前から授業終了１週間後までの毎週月―金の午後３時から午後５時：
科目責任者　玉村（医薬品化学分野）教授室

８．参考書

受容体がわかる（加藤茂明著、羊土社）、ビタミン研究のブレークスルー（日本ビタミン学会編、学振出版）、The Nuclear Receptors FactsBook（Laudet, V & Gronemeyer, H.、Academic Press）、ゲノム化学の最前線（杉山弘・中谷和彦編、化学同人）、生命現象を理解する分子ツール（浜地格，二木史朗編，化学同人）
（資料配付予定）

９．その他

特になし

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	10月1日（月） 8：50～10：20	生体高分子の探索化学 （難治疾患研究所１階　会議室）	細谷　孝充
２	10月1日（月） 10：30～12：00	生体高分子の探索化学 （難治疾患研究所１階　会議室）	
３	10月15日（月） 8：50～10：20	機能分子のデザインと開発戦略 （難治疾患研究所１階　会議室）	平野　智也
４	10月15日（月） 10：30～12：00	機能分子のデザインと開発戦略 （難治疾患研究所１階　会議室）	
５	10月22日（月） 8：50～10：20	ペプチド・蛋白質化学 （難治疾患研究所１階　会議室）	玉村　啓和
６	10月22日（月） 10：30～12：00	ペプチド・蛋白質化学 （難治疾患研究所１階　会議室）	
７	10月29日（月） 8：50～10：20	核内受容体の医薬化学 （難治疾患研究所１階　会議室）	影近　弘之
８	10月29日（月） 10：30～12：00	核内受容体の医薬化学 （難治疾患研究所１階　会議室）	影近　弘之 藤井　晋也
９	11月5日（月） 8：50～10：20	個の医療：実際には （難治疾患研究所１階　会議室）	伊藤　哲
１０	11月5日（月） 10：30～12：00	個の医療：実際には （難治疾患研究所１階　会議室）	
１１	11月12日（月） 8：50～10：20	ゲノム化学の基礎と展開 （難治疾患研究所１階　会議室）	野村　渉
１２	11月12日（月） 10：30～12：00	ゲノム化学の基礎と展開 （難治疾患研究所１階　会議室）	
１３	11月19日（月） 8：50～10：20	微生物生理活性物質の生合成 （難治疾患研究所１階　会議室）	長田　裕之
１４	11月19日（月） 10：30～12：00	微生物生理活性物質の生合成 （難治疾患研究所１階　会議室）	
１５	11月20日（火） 10：30～12：00	天然医薬 （難治疾患研究所１階　会議室）	大崎　愛弓

ケミカルバイオロジー特論

Chemical Biology

科目コード：３０３１　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	影近　弘之	薬化学分野・教授	Email:kage.omc@tmd.ac.jp
科目担当者	玉村　啓和	医薬品化学分野・教授	Email:tamamura.mr@tmd.ac.jp
	細谷　孝充	生命有機化学分野・教授	Email:thosoya.cb@tmd.ac.jp
	小嶋　聡一	理研生体分子制御学分野・連携教授	Email:skojima@postman.riken.go.jp
	袖岡　幹子	理研生体分子制御学分野・連携教授	Email:sodeoka@riken.jp
	平野　智也	生体機能分子科学分野・准教授	Email:hiraomc@tmd.ac.jp
	俵　修一	アステラス製薬株式会社・所長	
	高崎　淳	アステラス製薬株式会社･主管研究員	
	白井　宏樹	アステラス製薬株式会社・リーダー	

２．科目の教育方針

ケミカルバイオロジーとは、新しい機能を持つ分子を設計、合成し、生体内で機能させることで、生体機能を解明、もしくは制御する研究分野である。このような化学的アプローチによる生体機能研究はポストゲノム時代の生命科学研究の柱となる。本特論では、ケミカルバイオロジー研究の基礎と、現状ならびに今後の展開について講義を行う。

３．教育目標

ケミカルバイオロジー研究の基礎について理解し、最先端の研究手法や研究成果について学習する。特に、大学、研究所、企業等様々な立場におけるケミカルバイオロジー研究の考え方と現状を理解する。

４．授業の概要

ケミカルバイオロジーという分野の概要とその基礎的手法を学び、更に、有機化学、合成化学、天然物化学、医薬化学、ゲノム創薬、バイオインフォマティクス、疾患科学などの観点から最先端の研究を紹介する。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の参加（出席）状況及び試験に基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

授業開始１週間前から授業開始前日まで及び講義開催日の午後３時から午後５時：

科目責任者　影近（薬化学分野）教授室

８．参考書

［入門書］入門ケミカルバイオロジー（オーム社）、現代化学への入門１５「生命科学への展開」（上村大輔、袖岡幹子 著、岩波書店）［参考書］Chemical Biology（L. Schreiber, T. kapoor, G. Wess 編、WILEY-VCH）、PROTEIN TARGETING WITH SMALL MOLECULES - Chemical Biology Techniques and Applications （Wiley）、ケミカルゲノミクスの誕生（吉田稔編、蛋白質核酸酵素 Vol.50, No.9）、医療・診断をめざす先端バイオテクノロジー：バイオ研究のフロンティア３（工学図書）、生物有機化学ーケミカルバイオロジーへの展開ー（裳華房）、Bioconjugate Techniques 2nd Ed.（Academic Press）、分子細胞生物学第５版（Lodish 他著、石浦章一他訳、東京化学同人）

９．その他

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	4月23日（月） 10：30～12：00	ケミカルバイオロジー概論 （M&Dタワー11階　大学院講義室３）	影近　弘之 平野　智也
２	5月7日（月） 10：30～12：00	ケミカルバイオロジーのための有機化学 （M&Dタワー11階　大学院講義室３）	細谷　孝充
３	5月14日（月） 10：30～12：00	ケミカルバイオロジーのための有機化学 （M&Dタワー11階　大学院講義室３）	
４	5月21日（月） 8：50～10：20	ケミカルバイオロジーと創薬 （難治疾患研究所１階　会議室）	俵　　修一
５	5月21日（月） 10：30～12：00	ケミカルバイオロジーと創薬 （難治疾患研究所１階　会議室）	
６	5月28日（月） 8：50～10：20	ケミカルバイオロジー的手法を用いた病態解析 （難治疾患研究所１階　会議室）	小嶋　聡一
７	5月28日（月） 10：30～12：00	ケミカルバイオロジー的手法を用いた病態解析 （難治疾患研究所１階　会議室）	
８	6月4日（月） 8：50～10：20	ケミカルバイオロジーとバイオミメティック （難治疾患研究所１階　会議室）	玉村　啓和
９	6月4日（月） 10：30～12：00	ケミカルバイオロジーとバイオミメティック （難治疾患研究所１階　会議室）	
１０	6月11日（月） 8：50～10：20	有機合成化学とケミカルバイオロジー （難治疾患研究所１階　会議室）	袖岡　幹子
１１	6月11日（月） 10：30～12：00	有機合成化学とケミカルバイオロジー （難治疾患研究所１階　会議室）	
１２	6月18日（月） 8：50～10：20	ケミカルバイオロジーとゲノム創薬研究 （難治疾患研究所１階　会議室）	高崎　淳
１３	6月18日（月） 10：30～12：00	ケミカルバイオロジーとゲノム創薬研究 （難治疾患研究所１階　会議室）	
１４	6月25日（月） 8：50～10：20	ケミカルバイオロジーにおける インフォマティクス （難治疾患研究所１階　会議室）	白井　宏樹
１５	6月25日（月） 10：30～12：00	ケミカルバイオロジーにおける インフォマティクス （難治疾患研究所１階　会議室）	

ケミカルバイオロジー技術特論

Practical Chemical Biology

科目コード：３０３２　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	細谷　孝充	生命有機化学分野・教授	Email:thosoya.cb@tmd.ac.jp
科目担当者	影近　弘之	薬化学分野・教授	Email:kage.omc@tmd.ac.jp
	鍔田　武志	免疫学分野・教授	Email:tsubata.imm@mri.tmd.ac.jp
	玉村　啓和	医薬品化学分野・教授	Email:tamamura.mr@tmd.ac.jp
	平野　智也	生体機能分子科学分野・准教授	Email:hiraomc@tmd.ac.jp
	野村　渉	医薬品化学分野・講師	Email:nomura.mr@tmd.ac.jp
	伊藤　茂	生体機能分子科学分野・助教	Email:ito.chem@tmd.ac.jp
	渡辺　幸造	免疫学分野・助教	Email:kozo.imm@mri.tmd.ac.jp
	鳴海　哲夫	医薬品化学分野・助教	Email:tenarumi.mr@tmd.ac.jp
	藤井　晋也	薬化学分野・助教	Email:fujiomc@tmd.ac.jp
	吉田　優	生命有機化学分野・助教	Email:s-yoshida.cb@tmd.ac.jp
	隅田　有人	生命有機化学分野・助教	Email:sumida.cb@tmd.ac.jp
	大崎　愛弓	薬化学分野・助教	Email:a-ohsaki.fm@tmd.ac.jp
	松原　直子	免疫学分野・特任助教	Email:n-matsubara.imm@mri.tmd.ac.jp
	湯浅　磨里	薬化学分野・特任助教	Email:myuasa.cbs@mri.tmd.ac.jp
	森　修一	薬化学分野・特任助教	Email:s-mori.omc@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

化学的な手法と知識を用いて生命現象の解明および生体機能を制御しようというケミカルバイオロジー研究は、21 世紀の生命科学研究の最も重要な分野の一つである。本特論では、ケミカルバイオロジー研究の推進に必要な基礎技術に関する教育を行う。

３．教育目標

ケミカルバイオロジー研究を行う上で必要な基礎技術の習得を目的とする。

４．授業の概要

分子プローブの構造解析法、蛍光試薬による分光分析法、ケミカルライブラリースクリーニング法、および動物実験系における機能解析に関する講義および実験指導を行う。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業への出席及びレポートに基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

随時、科目担当者に相談すること。

８．参考書

有機化合物のスペクトルによる同定法（荒木峻他訳、東京化学同人）；有機化学のためのスペクトル解析法（野村正勝監訳、化学同人）

９．その他

７月２日（月）～７月６日（金）および７月９日（月）～７月１３日（金）は同一内容。どちらかの週のみを選択して履修する。なお、履修者数により人数調整を行う場合がある。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１ ２ ３	7月2日（月） 7月9日（月） 14：40～19：30	ケミカルバイオロジー研究の基礎 （難治疾患研究所１階　会議室）	細谷　孝充 影近　弘之
４ ５ ６	7月3日（火） 7月10日（火） 14：40～19：30	NMR・MS・分子モデリングによる分子構造解析 （生体材料工学研究所実習室・他）	細谷　孝充 伊藤　茂 鳴海　哲夫 隅田　有人
７ ８ ９	7月4日（水） 7月11日（水） 14：40～19：30	蛍光試薬による分光分析の原理と応用 （生体材料工学研究所実習室・他）	玉村　啓和 平野　智也 吉田　優 大崎　愛弓
１０ １１ １２	7月5日（木） 7月12日（木） 14：40～19：30	ケミカルライブラリースクリーニング （生体材料工学研究所実習室・他）	影近　弘之 野村　渉 藤井　晋也 湯浅　磨里
１３ １４ １５	7月6日（金） 7月13日（金） 14：40～19：30	動物を用いた化合物の作用解析法 （生体材料工学研究所実習室・他）	鍔田　武志 渡辺　幸造 松原　直子 森　修一

分子構造学特論

Special Lectures on Molecular Structures

科目コード：３０３３　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	伊藤　暢聡	分子構造情報学分野・教授	Email:ito.str@tmd.ac.jp
科目担当者	伊倉　貞吉	分子構造情報学分野・准教授	Email:ikura.str@tmd.ac.jp
	廣明　秀一	名古屋大学大学院・教授	
	木下　賢吾	東北大学大学院・教授	
	奈良　雅之	教養部化学分野・教授	Email:nara.las@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

生体高分子の立体構造を探求する構造生物学は、近年めざましい発展を遂げ、膨大な構造情報が蓄積・公開されており、また新規の構造も次々と報告されている。本講義は、構造生物学を専門としない学生が、こうした貴重な成果を理解し、利用できるようにするためのものである。

３．教育目標

生体高分子の立体構造を正しく読み取り、構造生物学の成果を各々の研究分野に役立てることができるようになることを目指す。

４．授業の概要

蛋白質を中心に生体高分子の立体構造について、その基礎やそこから得られる情報について学び、立体構造の広範な利用法を概観する。さらに、立体構造の決定に用いられる実験手法の基礎を学ぶことにより、それぞれの手法の特徴や欠点を理解し、様々な研究分野への応用する際の問題点を考える。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

試験の成績と授業の参加（出席）状況に基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

随時（メールにて事前連絡すること）　　科目責任者　伊藤教授室

８．参考書

「タンパク質の立体構造入門」（藤 博幸、講談社）「タンパク質の構造入門」（Branden & Tooze、ニュートンプレス）

９．その他

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	10 月 3 日（水） 8：50～10：20	蛋白質立体構造概論 I (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	伊藤　暢聡
２	10 月 3 日（水） 10：30～12：00	蛋白質立体構造概論 II (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	
３	10 月 10 日（水） 8：50～10：20	立体構造と分子の機能 I (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	
４	10 月 10 日（水） 10：30～12：00	立体構造と分子の機能 II (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	
５	10 月 17 日（水） 8：50～10：20	生体高分子の立体構造決定方法 I (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	
６	10 月 17 日（水） 10：30～12：00	生体高分子の立体構造決定方法 II (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	
７	10 月 24 日（水） 8：50～10：20	蛋白質のフォールディングと安定性 I (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	伊倉　貞吉
８	10 月 24 日（水） 10：30～12：00	蛋白質のフォールディングと安定性 II (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	
９	10 月 31 日（水） 8：50～10：20	核磁気共鳴（NMR）と蛋白質立体構造 I (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	廣明　秀一
１０	10 月 31 日（水） 10：30～12：00	核磁気共鳴（NMR）と蛋白質立体構造 II (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	
１１	11 月 7 日（水） 8：50～10：20	蛋白質の立体構造と計算機実験 I (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	木下　賢吾
１２	11 月 7 日（水） 10：30～12：00	蛋白質の立体構造と計算機実験 II (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	
１３	11 月 14 日（水） 8：50～10：20	蛋白質の結晶化とデータ解析 I (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	伊藤　暢聡
１４	11 月 14 日（水） 10：30～12：00	蛋白質の結晶化とデータ解析 II (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	
１５	11 月 21 日（水） 8：50～10：20	赤外・ラマン分光法による構造解析 (M&D タワー21 階　大学院講義室 1)	奈良　雅之

生体材料学

Advanced Biomaterials Science

科目コード：３０３４　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	由井　伸彦	有機材料学分野・教授	Email:yui.org@tmd.ac.jp
科目担当者	塙　隆夫	金属材料学分野・教授	Email:hanawa.met@tmd.ac.jp
	山下　仁大	無機材料学分野・教授	Email:yama-bcr@tmd.ac.jp
	佐々木　善浩	有機材料学分野・准教授	Email:ysasaki.org@tmd.ac.jp
	野村　直之	金属材料学分野・准教授	Email:nomura.met@tmd.ac.jp
	永井　亜希子	無機材料学分野・准教授	Email:nag-bcr@tmd.ac.jp
	徐　知勲	有機材料学分野・助教	Email:seo.org@tmd.ac.jp
	堤　祐介	金属材料学分野・助教	Email:tsutsumi.met@tmd.ac.jp
	中村　美穂	無機材料学分野・助教	Email:miho.bcr@tmd.ac.jp
	堀内　尚紘	無機材料学分野・助教	Email:nhori.bcr@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

医療には機能回復のためにさまざまな材料が使用されている。医療および生体に使用される有機・金属・無機材料について、材料学的な基礎知識に焦点をあてて教授する。

３．教育目標

生体に使用されるさまざまな材料についての基礎を理解する。硬組織および軟組織に使用される材料は、それぞれ要求される特性が異なるが、生体に使用される材料全般にわたり基礎的な知識を習得する。

４．授業の概要

本年度は、それぞれの課程担当の教員が講義を担当する。

由井 教授　：有機材料の基礎、生体適合性材料の設計、医薬高分子の設計
山下 教授　：基礎化学、無機材料の基礎、無機材料化学
塙　 教授　： 金属材料の変形と破壊、平衡状態図の基礎
佐々木 准教授　：ナノ集合体の基礎と応用
野村准教授：金属材料の原子構造、金属結晶の構造
永井准教授：無機材料の合成と焼結
徐　助教　：多相系有機材料の合成
堤　助教　：金属の酸化と腐食
中村助教　：無機材料の表面化学
堀内助教　：無機材料薄膜のプロセッシングと物性

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の参加（出席）状況及び試験に基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

授業に関する質問は、随時、科目担当者に相談のこと。

８．参考書

教科書・参考書・参考論文等は、各教員が指示する。

９．その他

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	5 月 10 日（木） 10：30～12：00	有機材料１（歴史と背景） （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	由井　伸彦
２	5 月 17 日（木） 8：50～10：20	有機材料２（多相系有機材料の合成） （難治疾患研究所１階　会議室）	徐　知勲
３	5 月 17 日（木） 10：30～12：00	有機材料３（生体との界面設計） （難治疾患研究所１階　会議室）	由井　伸彦
４	5 月 24 日（木） 8：50～10：20	有機材料４（医薬高分子設計） （難治疾患研究所１階　会議室）	
５	5 月 24 日（木） 10：30～12：00	有機材料５（ナノ集合体設計） （難治疾患研究所１階　会議室）	佐々木　善浩
６	5 月 31 日（木） 8：50～10：20	無機材料１（基礎化学、無機材料の基礎） （難治疾患研究所１階　会議室）	山下　仁大
７	5 月 31 日（木） 10：30～12：00	無機材料２（無機材料合成） （難治疾患研究所１階　会議室）	永井　亜希子
８	6 月 7 日（木） 8：50～10：20	無機材料３（無機材料の焼結） （難治疾患研究所１階　会議室）	
９	6 月 7 日（木） 10：30～12：00	無機材料４（無機材料プロセッシング） （難治疾患研究所１階　会議室）	堀内　尚紘
１０	6 月 14 日（木） 8：50～10：20	無機材料５（無機材料の表面化学） （難治疾患研究所１階　会議室）	中村　美穂
１１	6 月 14 日（木） 10：30～12：00	金属材料１（原子構造と結晶構造） （難治疾患研究所１階　会議室）	野村　直之
１２	6 月 21 日（木） 8：50～10：20	金属材料２（弾性・塑性・靭性） （難治疾患研究所１階　会議室）	塙　隆夫
１３	6 月 21 日（木） 10：30～12：00	金属材料３（相律と状態図） （難治疾患研究所１階　会議室）	
１４	6 月 28 日（木） 8：50～10：20	金属材料４（再結晶・熱処理） （難治疾患研究所１階　会議室）	野村　直之
１５	6 月 28 日（木） 10：30～12：00	金属材料５（酸化・腐食） （難治疾患研究所１階　会議室）	堤　祐介

バイオメディカル理工学

Biomedical Science and Engineering

科目コード：３０３５　１年次　１単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	三林　浩二	センサ医工学分野・教授	Email:m.bdi@tmd.ac.jp
科目担当者	宮原　裕二	バイオエレクトロニクス分野・教授	Email:miyahara.bsr@tmd.ac.jp
	安田　賢二	バイオ情報分野・教授	Email:yasuda.bmi@tmd.ac.jp
	金子　智行	バイオ情報分野・准教授	Email:kaneko.bmi@tmd.ac.jp
	松元　亮	バイオエレクトロニクス分野・准教授	Email:matsumoto.bsr@tmd.ac.jp
	工藤　寛之	センサ医工学分野・講師	Email:kudo.bdi@tmd.ac.jp
	荒川　貴博	センサ医工学分野・助教	Email:arakawa.bdi@tmd.ac.jp
	野村　典正	バイオ情報分野・助教	Email:nomura.bmi@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

医学・歯学医療・生命科学の理解やその研究開発に理工学の知識や技術が不可欠となっている。本科目では、上記バイオメディカル領域にて、遺伝子、タンパク質、細胞、組織、個体の各レベルにて実用化そして研究が進められている科学技術を理解し、当該領域での理工学に関する意識を高める。

３．教育目標

医学・歯科医療の従事者や生命科学・バイオデバイス＆システムの研究開発に携わる者において科学技術は不可欠であり、バイオ工学や機械工学、電子電気工学、ナノ・マイクロ科学、情報科学などの学習を通して、理工学の知識と技術を理解し、議論できるようにする。

４．授業の概要

生命現象の解明や医療・健康科学の発展に不可欠なバイオデバイスやシステムについて、バイオやナノ・マイクロ、電子電気、計測、光学、力学等の要素技術を解説すると共に、バイオメディカルにおけるデバイスやシステムについて最新のトピックスを含めて講義を行う。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の参加（出席）状況及び試験に基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

毎週月曜日午前１０：００から１１：００　　科目責任者：三林教授室（生材研・５階）

８．参考書

授業中に資料を適宜、配布する。

９．その他

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月20日（水） 13：00～14：30	ガイダンス、バイオデバイス概論 （難治疾患研究所1階　会議室）	三林　浩二
2	6月21日（木） 13：00～14：30	バイオセンサと先端メディカル計測 （難治疾患研究所1階　会議室）	工藤　寛之
3	6月22日（金） 13：00～14：30	バイオマイクロシステムと先端バイオ計測 （難治疾患研究所1階　会議室）	荒川　貴博
4	6月25日（月） 13：00～14：30	構成的生命科学（1）生命をモデルで理解する （難治疾患研究所1階　会議室）	安田　賢二
5	6月26日（火） 13：00～14：30	構成的生命科学（2）生命を測って理解する （難治疾患研究所1階　会議室）	金子　智行
6	6月27日（水） 13：00～14：30	構成的生命科学（3）生命を創って理解する （難治疾患研究所1階　会議室）	野村　典正
7	6月28日（木） 13：00～14：30	界面の科学と分子認識 （難治疾患研究所1階　会議室）	宮原　裕二
8	6月29日（金） 13：00～14：30	ソフトマテリアルの機能と応用 （難治疾患研究所1階　会議室）	松元　亮

人間環境医療工学

Human Friendly Medical Engineering

科目コード：３０３６　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	岸田　晶夫	物質医工学分野・教授	Email:kishida.fm@tmd.ac.jp
科目担当者	高久田　和夫	バイオデザイン分野・教授	Email:takakuda.mech@tmd.ac.jp
	宮原　裕二	バイオエレクトロニクス分野・教授	Email:miyahara.bsr@tmd.ac.jp
	佐々木　善浩	有機材料学分野・准教授	Email:ysasaki.org@tmd.ac.jp
	野村　直之	金属材料学分野・准教授	Email:nnomura.met@tmd.ac.jp
	永井　亜希子	無機材料学分野・准教授	Email:nag-bcr@tmd.ac.jp
	前田　康弘	バイオエレクトロニクス分野・特任助教	Email:FET.bsr@tmd.ac.jp
	木村　剛	物質医工学分野・助教	Email:kimurat.fm@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

医療を支える工学技術について、それぞれの開発・応用・機能および問題点の各項目について議論し、基盤的な知識を具体的な応用に結びつける戦略について学ぶ。

３．教育目標

医療を支えるデバイスや技術の多彩で具体的な応用例を学ぶことにより、幅広い問題解決についての知識を得ることを目標としている。

４．授業の概要

生体材料工学研究所の教員が担当し、先端医療を支える技術について各自の専門分野を基盤に講義する。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

成績評価は、授業の参加（出席）状況及び試験に基づいて総合的に行う。

７．学習相談

授業内容等に関する質問は、随時、科目担当者に相談すること。

８．参考書

教科書・参考書・参考論文等は、科目担当者が指示する。

９．その他

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	4 月 24 日（火） 10：30～12：00	人間環境医療工学入門 （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	岸田　晶夫
２	5 月 8 日（火） 10：30～12：00	再生医療１ （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	
３	5 月 15 日（火） 10：30～12：00	再生医療２ （M&D タワー11 階　大学院講義室３）	
４	5 月 22 日（火） 8：50～10：20	人工臓器１ （難治疾患研究所１階　会議室）	
５	5 月 22 日（火） 10：30～12：00	人工臓器２ （難治疾患研究所１階　会議室）	
６	5 月 29 日（火） 8：50～10：20	人工臓器３ （難治疾患研究所１階　会議室）	高久田　和夫
７	5 月 29 日（火） 10：30～12：00	人工臓器４ （難治疾患研究所１階　会議室）	
８	6 月 5 日（火） 8：50～10：20	バイオメカニクス１ （難治疾患研究所１階　会議室）	
９	6 月 5 日（火） 10：30～12：00	バイオメカニクス２ （難治疾患研究所１階　会議室）	
１０	6 月 12 日（火） 8：50～10：20	ドラッグデリバリーシステム１ （難治疾患研究所１階　会議室）	木村　剛
１１	6 月 12 日（火） 10：30～12：00	ドラッグデリバリーシステム２ （難治疾患研究所１階　会議室）	
１２	6 月 19 日（火） 8：50～10：20	有機ナノバイオデバイス （難治疾患研究所１階　会議室）	佐々木　善浩
１３	6 月 19 日（火） 10：30～12：00	生体活性材料 （難治疾患研究所１階　会議室）	永井　亜希子
１４	6 月 26 日（火） 8：50～10：20	医療用金属材料 （難治疾患研究所１階　会議室）	野村　直之
１５	6 月 26 日（火） 10：30～12：00	マイクロ診断装置 （難治疾患研究所１階　会議室）	宮原　裕二 前田　康弘

医歯薬産業技術特論

Medical, Dental and Pharmaceutical Industrial Engineering

科目コード：３０３７　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	岸田　晶夫	物質医工学分野・教授	Email:kishida.fm@tmd.ac.jp
科目担当者	原田　直子	う蝕制御学分野・助教 歯科器材・薬品開発センター	Email:naoko.ope@cmn.tmd.ac.jp
	未定	医薬品医療機器総合機構	Email:kishida.fm@tmd.ac.jp
	未定	医薬品医療機器総合機構	Email:kishida.fm@tmd.ac.jp
	未定	外来講師（企業研究者を予定）	Email:kishida.fm@tmd.ac.jp
	未定	外来講師（企業研究者を予定）	Email:kishida.fm@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

医薬品、医療デバイスを世に送り出すためには、開発・研究だけでなく、製造・許認可など種々のハードルを克服しなければならない。これらの事項について、許認可に従事している専門家および企業研究者を招聘して講義を行う。

３．教育目標

医療に資するための研究を遂行する場合に、目先の成果に捕らわれる近視眼的な研究ではなく、実用化までを俯瞰した骨太な研究戦略を構築できる能力の獲得をめざし、基盤的な知見について講義する。

４．授業の概要

現役の許認可担当者あるいは企業研究者を招聘して、許認可あるいは研究開発の現場について、実用化までのハードルについて許認可側あるいは開発側からの視点でそれぞれ講義を行う。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の参加（出席）状況及び講義終了後に行う小試験に基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

授業内容等に関する質問は、随時、科目担当者に相談すること

８．参考書

教科書・参考書・参考論文等は、科目担当者が指示する。

９．その他

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10 月 16 日（火） 18：00～19：30	医薬品・医療デバイスが世に出るまで （難治疾患研究所 1 階　会議室）	原田　直子
2	10 月 16 日（火） 19：40～21：10	許認可１ （難治疾患研究所 1 階　会議室）	医薬品医療機器総合機構
3	10 月 23 日（火） 18：00～19：30	許認可２ （難治疾患研究所 1 階　会議室）	医薬品医療機器総合機構
4	10 月 23 日（火） 19：40～21：10	許認可３ （難治疾患研究所 1 階　会議室）	医薬品医療機器総合機構
5	10 月 30 日（火） 18：00～19：30	企業での開発１ （難治疾患研究所 1 階　会議室）	外来講師
6	10 月 30 日（火） 19：40～21：10	企業での開発２ （難治疾患研究所 1 階　会議室）	外来講師
7	11 月 6 日（火） 18：00～19：30	企業での開発３ （難治疾患研究所 1 階　会議室）	外来講師
8	11 月 6 日（火） 19：40～21：10	企業での開発４ （難治疾患研究所 1 階　会議室）	外来講師

英語交渉・ディベート特論

Negotiation and Debate in English

科目コード：３０３８　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	村松　正明	分子疫学分野・教授	Email:muramatsu.epi@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	Kevin Cleary	国際交流センター・准教授	Email:cleary.isc@tmd.ac.jp
	竹本　佳弘	医歯学総合研究科・非常勤講師	

２．科目の教育方針

英語による交渉とディベートの学習を講義と演習を交えながら学ぶ。また学生同士の評価も取り入れることで、学習者が客観的に改善点を学ぶ機会を創出する。なお講義を効率的に実施するために、講義は主に日本語で、演習は英語で実施する。

３．教育目標

プレゼンテーション・共同研究・留学などの際に必要となる交渉・ディベートに関する基本的な知識・技術を幅広く習得する。

４．授業の概要

英語による交渉の必要性は、学会発表準備、海外との共同研究、海外留学、国内外での就職活動などに見られるように、日々高まりつつある。このコースでは、初めて交渉について学ぶ学生を対象に、英語による交渉とディベートの基礎技術の習得を目指す。具体的にはアクティブリスニングや、各種のビジネス交渉術を取り上げ、ディベートによる議論も加えて、交渉に関する基本的な知識・技術を幅広く習得する。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の参加（出席）状況及び演習時の成績。

７．学習相談

随時、ただし電子メールで予約　　科目責任者　村松正明

８．参考書

特になし。

９．その他

特論の都合上、受講者数を制限する。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	4月12日（木） 18：00～19：30	ガイダンス、自己紹介 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary
２	4月12日（木） 19：40～21：10	Ice Breaker （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary
３	4月19日（木） 18：00～19：30	交渉の基本1 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary
４	4月19日（木） 19：40～21：10	Voice Training （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary
５	4月26日（木） 18：00～19：30	交渉の基本 2 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary
６	4月26日（木） 19：40～21：10	Active Listening （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary
７	5月10日（木） 18：00～19：30	交渉戦略1　BATNA （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary
８	5月10日（木） 19：40～21：10	交渉戦略2　ZOPA （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary
９	5月17日（木） 18：00～19：30	交渉戦略3　自己分析 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary
１０	5月17日（木） 19：40～21：10	交渉戦略4　SWOT分析 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary
１１	5月24日（木） 18：00～19：30	ディベート1　講義 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary
１２	5月24日（木） 19：40～21：10	ディベート1　演習 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary
１３	5月31日（木） 18：00～19：30	ディベート2　講義 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary
１４	5月31日（木） 19：40～21：10	ディベート2　演習 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary
１５	6月7日（木） 18：00～19：30	総復習 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 Kevin Cleary

研究倫理・医療倫理学

Medical and Research Ethics

科目コード：３０３９　１年次　１単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	吉田　雅幸	生命倫理研究センター・教授	Email:masa.vasc@tmd.ac.jp
科目担当者	藍　真澄	生命倫理研究センター・講師	Email:ai.vasc@tmd.ac.jp
	小笹　由香	生命倫理研究センター・講師	Email:yuka.bec@tmd.ac.jp
	堤　正好	株式会社エスアールエル・課長	
	神田　英一郎	東京共済病院腎臓内科・部長	
	奥山　虎之	国立成育医療センター・検査部長	

２．科目の教育方針

医学・生物学研究や日常の医療行為を行う上で必要とされる倫理的事項について体得する

３．教育目標

研究や医療行為に関連する倫理的課題について学び、目前の課題に対して科学的かつ倫理的に妥当な判断ができる能力を培う。

４．授業の概要

医学・生物学の急速な技術的進歩を社会に有用な形で還元して行くためには、これまでの医学・生物学の発展と社会的葛藤の歴史を正しく認識し､国際的にも通用する確かな生命倫理学的知識を身につける必要がある。特に遺伝情報やＥＳ細胞などの利用に際しても、生命倫理学に基づき適格な判断ができるように指導する。研究者にとって最も身近な研究倫理審査について実習を交えて学習する。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の参加（出席）状況及び授業中に出題する課題に対するレポートの提出により総合的に評価を行う。

７．学習相談

個別の学習相談は事前に科目責任者と時間調整のこと。

時間調整の連絡は随時（平日１０～１６時）

科目責任者　吉田教授室

８．参考書

[**入門書**]　　ブレーン出版　「遺伝診療をとりまく社会」　水谷修紀、吉田雅幸　監修

[**参考書**]　１．教育出版　「テーマ３０　生命倫理」　生命倫理教育研究協議会　著

２．文春新書４７４　「いのち　生命科学に言葉はあるか」　最相葉月　著

３．医学出版　ポストゲノム時代の医療倫理　東京医科歯科大学生命倫理研究センター著

４．じほう　Ethical Issues Concerning Advanced Research 鈴木章夫　吉田雅幸　編著

９．その他

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	4月13日（金） 13：00～14：30	研究倫理・医療倫理総論1 （M&Dタワー11階　大学院講義室３）	吉田　雅幸
2	4月23日（月） 13：00～14：30	研究倫理・医療倫理総論2 （M&Dタワー11階　大学院講義室３）	
3	4月24日（火） 13：00～14：30	臨床研究計画論 （M&Dタワー11階　大学院講義室３）	神田　英一郎
4	4月25日（水） 13：00～14：30	遺伝子検査とその倫理的問題点 （M&Dタワー11階　大学院講義室３）	堤　正好
5	4月26日（木） 13：00～14：30	遺伝カウンセリング （M&Dタワー11階　大学院講義室３）	小笹　由香
6	4月27日（金） 13：00～14：30	先天性疾患治療の進歩と課題 （M&Dタワー11階　大学院講義室３）	奥山　虎之
7	5月7日（月） 13：00～14：30	ヒト由来検体の取り扱いと研究倫理審査 （M&Dタワー11階　大学院講義室３）	藍　真澄
8	5月8日（火） 13：00～14：30	研究倫理審査実習 （M&Dタワー11階　大学院講義室３）	

トランスレーショナルリサーチ特論

Translational Research

科目コード：３０４０　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	村松　正明	分子疫学分野・教授	Email:muramatsu.epi@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	竹本　佳弘	医歯学総合研究科・非常勤講師	
	岩澤　義郎	元US Tanabe Research Lab・副社長	
	岩崎　甫	元GSK開発・本部長・取締役	
	宇山　佳明	医薬品医療機器総合機構 オミックスプロジェクトリーダー	
	橋本　一憲	センクレスト国際特許事務所・代表社員	
	佐藤　一雄	第一三共株式会社・部長	
	黒石　真史	ウオーターパートナーズ 代表取締役パートナー	

２．科目の教育方針

基礎研究から臨床開発まで一連の創薬過程をトランスレーショナルリサーチと捉え、研究開発、知財特許、レギュラトリーサイエンス、プロジェクト管理、ベンチャーなどを総合的に学習する。

３．教育目標

トランスレーショナルリサーチにフォーカスをあて、医薬品産業とその国際的な潮流、知財特許、ベンチャー育成と活用、プロジェクトマネジメント手法を身につけることを目標とする。

４．授業の概要

講義では、まず最初に創薬・育薬の全体像から製薬産業の世界的な動向を学習する。その上で大学における基礎研究から生まれた知財を、ベンチャーを利用して臨床へ導入するケースを演習を交えた議論を行う。また各種のプロジェクトを実際に実行する際に必要となるプロジェクト・マネジメント手法を演習を交えて学ぶ。これらの一連の講義を通して、トランスレーショナルリサーチの現状と課題を学習する。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

授業の参加（出席）状況及び試験に基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

随時、ただし電子メールで予約　　科目責任者　村松正明

８．参考書

特になし。

９．その他

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	5月8日（火） 18：00～19：30	ガイダンス　創薬とは1 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 岩澤　義郎
２	5月8日（火） 19：40～21：10	創薬とは2 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 岩澤　義郎
３	5月16日（水） 18：00～19：30	医薬品開発と世界的な潮流1 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 岩崎　甫
４	5月16日（水） 19：40～21：10	医薬品開発と世界的な潮流2 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 岩崎　甫
５	5月23日（水） 18：00～19：30	個の医療とレギュラトリーサイエンス1 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 宇山　佳明
６	5月23日（水） 19：40～21：10	個の医療とレギュラトリーサイエンス2 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 宇山　佳明
７	5月30日（水） 18：00～19：30	技術をつなぐベンチャーの役割1 （難治疾患研究所1階　会議室）	村松　正明 竹本　佳弘
８	5月30日（水） 19：40～21：10	技術をつなぐベンチャーの役割2 （難治疾患研究所1階　会議室）	村松　正明 竹本　佳弘
９	6月6日（水） 18：00～19：30	大学の知財 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 橋本　一憲
１０	6月6日（水） 19：40～21：10	企業から見た知財 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 佐藤　一雄
１１	6月13日（水） 18：00～19：30	ベンチャー投資と人材・財務戦略1 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 黒石　真史
１２	6月13日（水） 19：40～21：10	ベンチャー投資と人材・財務戦略2 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘 黒石　真史
１３	6月20日（水） 18：00～19：30	プロジェクト・マネジメントの方法論1 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘
１４	6月20日（水） 19：40～21：10	プロジェクト・マネジメントの方法論2 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘
１５	6月27日（水） 18：00～19：30	発表会 （難治疾患研究所1階　会議室）	竹本　佳弘

クリニカル・インフォマティクス特論

Clinical Informatics

科目コード：３０４１　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	村松　正明	分子疫学分野・教授	Email:muramatsu.epi@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	田中　博	システム情報生物学分野・教授	Email: tanaka@bioinfo.tmd.ac.jp
	高井　貴子	バイオサイエンスデータベースセンター	

２．科目の教育方針

新興領域「トランスレーショナル情報学」は、バイオインフォマティクスを医療に応用し、個別化ゲノム医療の実現に必要となる計算技術開発を目的とする。本科目は、米国 Harvard Medical School の Center for Biomedical Informatics が実施するトランスレーショナル情報学の講義を遠隔受講する。

３．教育目標

トランスレーショナル情報学の理念となる、ゲノム情報から疾患・病態を理解する考え方を学ぶとともに、トランスレーショナル情報学の実施に不可欠な先端的ゲノム解析技術(次世代シークエンス、マイクロアレー、疾患モデル）およびこれらのデータを解析する情報科学技術を学ぶ。

４．授業の概要

東京工業大学 小長谷明彦教授と共同で実施する予定。実施日程は 2012 年の 10～12 月の予定。日程は決まり次第メールで連絡する。受講生は Harvard Medical School で実施された講義の録画を視聴する（120 分)。事前に通知された討論のポイントに従い、討論資料を作成する(60 分)。担当教員および履修生（本学と東工大）の前で、準備した討論資料ついてプレゼンテーションを行い、出席者全員で発表内容について討論する(90 分)。プレゼンテーションと討論は英語で行う。討論を通して疑問点を理解し考察を深める。

５．授業計画・授業内容

2012 年度の Harvard Medical School の講義内容は、2012 年 8 月頃に決定する。その内容に基づき本講義の授業内容を決定する。授業内容が決まり次第メールで連絡する。参考のため、昨年度の授業内容を別表に示した。

６．成績評価方法

授業の参加（出席）状況及びレポートに基づいて総合的に評価を行う。

７．学習相談

毎日午前９：００から１０：００　　科目担当者　田中教授室

８．参考書

・「医療・創薬のためのメディカル・システムバイオロジー」田中博、茂櫛薫、荻島創一、高井貴子著、培風館より出版準備中。

・「バイオ情報学」小長谷明彦著、コロナ社。

９．その他

Harvard Medical School (HMS) でこれまで実施された講義内容は以下のホームページを参照のこと。

http://lpm.hms.harvard.edu/palaver/

別表（注意：以下は平成 23 年度の実施内容です。平成 24 年度の実施内容は 2012 年 8 月以降に通知します。）

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
１	HMS 講義の聴講 120 分	次世代シークエンス基礎/Peter Park （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）
２	討論資料作成 60 分	次世代シークエンス基礎/Peter Park （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）
３	討論 90 分	次世代シークエンス基礎/Peter Park （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）
４	HMS 講義の聴講 120 分	次世代シークエンス応用/Peter Park （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）
５	討論資料作成 60 分	次世代シークエンス応用/Peter Park （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）
６	討論 90 分	次世代シークエンス応用/Peter Park （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）
７	HMS 講義の聴講 120 分	次世代シークエンスによる生物知識の獲得 /Peter Kharchenko （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）
８	討論資料作成 60 分	次世代シークエンスによる生物知識の獲得 /Peter Kharchenko （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）
９	討論 90 分	次世代シークエンスによる生物知識の獲得 /Peter Kharchenko （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）
１０	HMS 講義の聴講 120 分	次世代シークエンスによるエピゲノムへの 挑戦/George Church （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）
１１	討論資料作成 60 分	次世代シークエンスによるエピゲノムへの 挑戦/George Church （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）
１２	討論 90 分	次世代シークエンスによるエピゲノムへの 挑戦/George Church （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）
１３	HMS 講義の聴講 120 分	次世代シークエンスによる疾患モデル解析 /Peter Tonellato （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）
１４	討論資料作成 60 分	次世代シークエンスによる疾患モデル解析 /Peter Tonellato （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）
１５	討論 90 分	次世代シークエンスによる疾患モデル解析 /Peter Tonellato （M&D タワー23 階　セミナー室 3）	田中博、福岡豊、高井貴子 小長谷明彦（東工大）

産学リンケージ特論

Practice in Global Linkage between University and Industry

科目コード：３０４２　１年次　２単位

１．担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	玉村　啓和	医薬品化学分野・教授	Email:tamamura.mr@tmd.ac.jp
科目担当者	三林　浩二	センサ医工学分野・教授	Email:m.bdi@tmd.ac.jp
	影近　弘之	薬化学分野・教授	Email:kage.omc@tmd.ac.jp

２．科目の教育方針

国内外の国際企業へのインターン・シップを通じて、国際社会がどのように動いており、何を求めているのか、国際社会のリアルタイムの動向と求める人材像を、国際社会の現場に滞在して体験的に学習する。

３．教育目標

修士課程で修得した研究能力と語学力を基礎力とし、それを結実させる応用力を身につけるため、国際産業界で活躍できる実践力を修得する。

４．授業の概要

国内の国際企業にインターン・シップあるいは特別研修として派遣するケーススタディ体験型コースである。

５．授業計画・授業内容

別表のとおり。

６．成績評価方法

レポート

７．学習相談

随時　　科目責任者　玉村教授室

８．参考書

特になし

９．その他

受講者は、お茶の水女子大学または東京医科歯科大学にて実施される事前研修に参加する必要がある。インターン・シップあるいは特別研修は、随時、教務課より募集があるので、履修希望者は説明会に参加し、それに応募すること。希望者は事前に指導教員の許可を得た上で、実施計画書、志願の動機、達成目標、推薦書を提出し、書類審査の上、履修が許可される。終了後に、レポートを提出すること。

また、特に必要のない場合を除き、保険の加入が必要である。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当者
1	未定	事前研修、開催場所は未定	玉村　啓和 三林　浩二 影近　弘之
2 3	未定	企業説明会、開催場所は未定	玉村　啓和 三林　浩二 影近　弘之
4 5	未定	企業説明会、開催場所は未定	玉村　啓和 三林　浩二 影近　弘之
6- 15	未定	インターン・シップあるいは特別研修	未定

５．医療管理政策学（MMA）コース
授業科目

平成２４年度 MMAコース授業科目時間割

週	月	日	時限	月	火	水	木	金	整理番号	管理必修	政策必修	担当大学	科目担当（責任）教員		備　考
1		9～13	1		オリエンテーション										
			2												
2	4月	16～20	1	1.1 医療提供政策論		1.1 医療提供政策論			1.1	○	○	A	医歯大	河原和夫	
			2												
3		23～27	1	1.2 医療社会政策論	1.4 医療保険論	1.2 医療社会政策論			1.2		○	D	一橋大	猪飼周平	
			2												
4		7～11	1	9.3 医学概論		9.3 医学概論			9.3			A	医歯大	高瀬浩造	
			2												
5									1.4	○	○	D	一橋大	佐藤主光	4/17～5/8の火曜日
6		14～18	1	1.3 世界の医療制度		1.3 世界の医療制度			1.3		○	A	医歯大	河原和夫	
			2												
7	5月								1.5			D	一橋大	佐藤主光	5/15～6/5の火曜日
8		21～25	1	1.6 医療計画制度	1.5 医療保険制度改革論	1.6 医療計画制度			1.6		○	A	医歯大	河原和夫	
			2												
9		5/28～6/1	1	2.1 医療と社会の安全管理		2.1 医療と社会の安全管理			2.1		○	A	医歯大	河原和夫	
			2												
10		4～8	1	2.2 医療機関リスク管理		2.2 医療機関リスク管理			2.2	○	○	A	医歯大	安原眞人	
			2												
11		11～15	1	9.1 医療とコミュニケーション				1.7 医療産業論	9.1			B	東外大	宇佐美まゆみ	
			2												
12	6月								1.7			D	一橋大	佐藤主光	6/15, 22, 29, 7/6の金曜日
13		18～22	1	2.4 医療機能評価					2.4	○	○	A	医歯大	河原和夫	
			2												
14		25～29	1	3.1 医療制度と法				1.7 医療産業論	3.1		○	D	慶應大	磯部　哲	
			2												
15		2～6	1	4.3 IT時代の医療診断システムとセキュリティー					4.3			C	東工大	小杉幸夫	
			2												
16		9～13	1	4.1 病院情報管理学					4.1	○	○	A	医歯大	高瀬浩造	
			2												
17	7月	16～20	1	祝　日		3.3 生命倫理と法			3.3	○		D	慶應大	磯部　哲	
			2												
18		23～27	1	4.2 診療情報管理学				4.2 診療情報管理学	4.2	○		A	医歯大	伏見清秀	
			2												
19	8月	27～31	1	3.2 医事紛争と法					3.2	○		D	一橋大	滝沢昌彦	
			2												
20		3～7	1	5.2 世界の文化と医療				5.3 世界の宗教と死生観	5.2			B	東外大	栗田博之	
			2												
21	9月	10～14	1	8.2 人材の開発と活用			8.2 人材の開発と活用		8.2	○		A	医歯大	田中雄二郎	
			2												
22		24～28	1	5.3 世界の宗教と死生観		5.3 世界の宗教と死生観		3.3 生命倫理と法	5.3			B	東外大	土佐　桂子	
			2												
23		1～5	1	6.1 病院設計・病院設備				1.8 医療経済論	6.1	○	○	C	東工大	藤井晴行	
			2												
24		8～12	1	祝　日		6.2 衛生工学・汚染管理			6.2	○		C	東工大	湯淺和博	
			2												
25	10月	15～19	1	7.1 戦略と組織				1.8 医療経済論	7.1	○		D	一橋大	林　大樹	
			2												
26		22～26	1	7.2 財務・会計				1.8 医療経済論	7.2	○		D	一橋大	荒井　耕	
			2												
27		10/29～11/2	1	7.3 ロジスティクス				7.3 ロジスティクス	7.3	○		C	東工大	圓川隆夫	
			2												
28		5～9	1	8.1 人的資源管理				3.1 医療制度と法	8.1	○		D	一橋大	林　大樹	
			2												
									1.8			D	一橋大	佐藤主光	10/5, 19, 26, 11/30の金曜日
29	11月	12～16	1	8.3 医療におけるリーダーシップ論			8.3 医療におけるリーダーシップ論		8.3			A	医歯大	田中雄二郎	
			2												
30		19～23	1	5.1 医療思想史				祝　日	5.1		○	B	東外大	西谷　修	
			2												
31		26～30	1	2.3 医療のＴＱＭ				1.8 医療経済論	2.3	○	○	A	医歯大	高瀬浩造	
			2												
32		3～7	1	9.2 ヘルスリテラシーと啓発論					9.2			A	医歯大	奈良信雄	
			2												
33	12月	10～14	1		10.1 臨床研究・治験				10.1			A	医歯大	安原眞人	
			2												
34		17～21	1	10.2 健康情報データベースと統計分析					10.2			A	医歯大	高瀬浩造	
			2												
35	1月	7～11	1	補講期間											
			2												

※　１時限は18：00～19：30、2時限は19：40～21：10

※ 科目担当大学の記号は次のとおり

A…東京医科歯科大学担当科目	C…東京工業大学担当科目
B…東京外国語大学担当科目	D…一橋大学担当科目

系　名	1. 医療政策	科目名	1. 医療提供政策論
科目担当責任教員	河原 和夫(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科政策科学分野 教授)		
授業予定年月日	平成 24 年 4 月 16, 18～20 日	連絡先	kk.hcm@tmd.ac.jp

【科目コード：４０１１】

1．科目担当教員

河原　和夫　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科政策科学分野 教授
林　　通平　：　Mediate Hayashi 株式会社 代表取締役社長、内閣官房医療イノベーション推進室 広報ワーキングチーム主査
五島 真理為　：　ＮＰＯこころアートコミュニケーション 代表

2．授業の目標・概要

（1）授業の目標

① データ面から、わが国の保健医療福祉介護分野の状況の歴史的経緯および現状、それらの問題点を理解する。
② 過去あるいは実際に実施されている政策、実施が検討されている政策の分析を行い、問題点ならびに改善のための政策手段を理解する。
③ 医療提供体制の一翼を担う、薬剤産業の現状および課題を理解する。
④ 患者サイドから医療がどのように提供されているかを理解する。

（2）授業の概要

重層的・相補的な関係にある保健医療福祉分野の実態を理解するとともに、実施されてきた政策の特徴ならびに問題点を明らかにし、現代のわが国の実情に最も適した政策遂行のあり方を考えていく。

3．授業計画

まず、統計資料をもとにわが国の保健医療福祉介護の現状と問題点を理解する。
次に、これら分野の代表的な政策の分析をおこない、問題点及び特性を理解する。
特に、医療提供体制を規定している医療制度、保険医療従事者、製薬産業、保健医療施設、あるいはその隣接領域である福祉・介護保険施設・人材等の問題点、政策の理念、目的、目標、計画策定過程、執行体制、評価、住民参加等の項目に関する分析を国外の同様の計画とも対比しながら行い、理解を深めていく。加えて患者側の視点から医療提供体制を考える。そして、将来の最適な医療提供に関する政策の具体像が提言できる能力の育成を図っていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

4．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

マスメディアの情報も含めて、昨今の医療およびその周辺分野の状況を書籍・インターネット等で調べておく。

（2）他の授業科目との関連性

「1．4 医療保険論」「1．6 医療計画制度」等と関連する。

（3）その他

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mail での問い合わせには応じない。

5．学生への評価方法

原則として出席および討議への参加状況で評価する（配点は 100 点）。問題を的確に把握し、解決方法の現実性・論理性・科学性など多様な角度から総合的に評価する。必要に応じてレポートを課す場合もある。

6．教科書・参考書など

教科書：「社会・環境と健康（エスカベーシック）」河原和夫（同文書院）ISBN978-4-8103-1370-3
参考書：①「日本の医療」池上直樹、J.C.キャンベル（中公新書）
②「厚生労働白書」
③「国民衛生の動向 2010/2011」(財)厚生統計協会)
④「厚生省５０年誌」
⑤「戦後医療の五十年」有岡二郎（日本医事新報社）
⑥「公共政策学」足立幸男／森脇俊雅 編（ミネルヴァ書房）
⑦「政策分析入門」Edith Stokey and Richard Zeckhauser（勁草書房）
その他必要に応じて指示する。

7．ハンドアウトの有無

予定している

8．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

9．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	4 月 16 日(月)	医療提供制度総論	河原 和夫	kk.hcm@tmd.ac.jp
2	4 月 18 日(水)	医療提供体制と薬剤産業政策	林 通平	kk.hcm@tmd.ac.jp
3	4 月 19 日(木)	医療提供者と患者との関係	五島 真理為	kk.hcm@tmd.ac.jp
4	4 月 20 日(金)	総合討議	河原 和夫	kk.hcm@tmd.ac.jp

系　　名	1. 医療政策	科目名	2. 医療社会政策論
科目担当責任教員	猪飼 周平(一橋大学大学院社会学研究科 准教授)		
授業予定年月日	平成 24 年 4 月 23, 25～27 日	連絡先	s.ikai@r.hit-u.ac.jp

【科目コード：４０１２】

１．科目担当教員

猪飼　周平　：　一橋大学大学院社会学研究科 准教授

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標

今日、私たちの周りには膨大な量の医療政策関連情報が溢れている。その一方で、ある種の重要な情報は不足しており、また多くの情報は急速に陳腐化する。このような状況において、情報を取捨選択し、政策的展望に結びつけてゆくには、どのような思考が必要であろうか。本講義では、医療政策において必要な思考について、講義形式および討論を通じて習熟することを目標としている。

（２）授業の概要

本講義は、医療政策の考え方に関する講義と、ケーススタディに基づく参加者による議論からなる。後者においては、時事的な問題と、全体的な医療システム設計に関する問題を取り混ぜたテーマ設定を行うつもりである。いずれにせよ、重要なことは、個々の政策的争点に精通することに拘泥すべきではないということである。たとえば、現在大騒ぎになっている医療問題のほとんどは５年後には忘れ去られている。むしろ、重要なことはこのような状況において、陳腐化しない知識を自ら構築する思考方法を身につけることである。

３．授業計画

４月２３日　講義
４月２５日　ディスカッション
４月２６日　講義
４月２７日　ディスカッションと総括講義

４．授業に際し学生の留意点

テキストは使用せず、適宜レジュメ・資料等を配布する。

５．学生への評価方法

授業の最後にレポートを提出してもらう。また、本講義はケーススタディを重視しているので、議論への貢献の程度も合わせて評価される。

６．教科書・参考書など

参考書については、講義中に適宜指示する。

７．ハンドアウトの有無

有

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	4 月 23 日(月)	講義	猪飼 周平	s.ikai@r.hit-u.ac.jp
2	4 月 25 日(水)	ディスカッション	猪飼 周平	s.ikai@r.hit-u.ac.jp
3	4 月 26 日(木)	講義	猪飼 周平	s.ikai@r.hit-u.ac.jp
4	4 月 27 日(金)	ディスカッションと総括講義	猪飼 周平	s.ikai@r.hit-u.ac.jp

系　　名	1. 医療政策	科目名	3. 世界の医療制度
科目担当責任教員	河原 和夫(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科政策科学分野 教授)		
授業予定年月日	平成 24 年 5 月 14, 16～18 日	連絡先	kk.hcm@tmd.ac.jp

【科目コード：４０１３】

１．科目担当教員

河原　和夫　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科政策科学分野 教授
田渕　典之　：　横浜市立みなと赤十字病院　部長
中田　健夫　：　特別医療法人社団 慈生会等潤病院麻酔科 手術部長

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標

・先進国および開発途上国を含む主な国の医療供給体制と医療保険制度の概要を理解する。
・各国の社会経済および保健医療上の課題を理解する。
・病院医療を例として、世界におけるわが国医療の特色を理解する。

（２）授業の概要

世界各国の医療制度を理解するには、わが国の制度を詳細に理解することが前提になると考えるべきである。
わが国は国民皆保険制度を運用しているが、国や地域のヘルスシステムは、資源、組織、財政的基盤、マネジメント、サービス提供の各要素により特徴づけられる。
英国などは税方式で医療制度を運用し、ドイツ、フランス等は公的社会保険により医療サービスを国民に提供している。また米国は、民間保険が主体であり、貯蓄システムを採用しているシンガポールなどの例もある。隣国に位置する中国の医療の発展からも目が離せない。医療制度はその国の政治、経済、文化の影響を受け、それぞれの国で独自の制度が発展している。そして、どの制度にも一長一短がある。
講義では、わが国の医療制度の特徴を十分に理解した上で、各国の制度の特徴や問題点や課題に対して対処すべき政策等を検討することとなる。特に、具体的事例として血液事業政策の国際比較と問題点の抽出等も行っていく。
授業は講義、事例検討、グループディスカッションのいずれかを組み合わせた形式で行う。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

３．授業計画

・主な国の社会経済・保健医療上の課題および対策
・ヘルスシステムの国際比較
・主な国の医療供給体制と医療制度

４．授業に際し学生の留意点

（１）授業への準備・予習

各国の医療の状況をＯＥＣＤデータなどで予め理解しておく。

（２）他の授業科目との関連性

「１．１　医療提供政策論」「１．４　医療保険論」「９．３　医学概論」と関連する。

（３）その他

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mail での問い合わせには応じない。

５．学生への評価方法

原則として出席および討議への参加状況で評価する（配点は 100 点）。問題を的確に把握し、解決方法の現実性・論理性・科学性など多様な角度から総合的に評価する。必要に応じてレポートを課す場合もある。

６．教科書・参考書など

教科書：多田羅浩三、河原和夫、篠崎英夫「国際共生に向けた健康への挑戦」（日本放送出版協会）　ISBN978-4-595-30832-1
参考書：河原和夫、岸本忠三、岩本愛吉「感染症と生体防御」（日本放送出版協会）　ISBN978-4-595-30833-8

７．ハンドアウトの有無

配布を予定している

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	5 月 14 日(月)	世界の医療の状況	河原 和夫	kk.hcm@tmd.ac.jp
2	5 月 16 日(水)	わが国医療の位置づけ(オランダとの対比)	田渕 典之	kk.hcm@tmd.ac.jp
3	5 月 17 日(木)	わが国医療の位置づけ(シンガポールとの対比)	中田 健夫	kk.hcm@tmd.ac.jp
4	5 月 18 日(金)	総合討論	河原 和夫	kk.hcm@tmd.ac.jp

系　　名	1. 医療政策	科目名	4. 医療保険論
科目担当責任教員	佐藤 主光(一橋大学大学院経済学研究科 教授)		
授業予定年月日	平成 24 年 4 月 17, 24 日, 5 月 8 日, 6 月 5 日	連絡先	satom@econ.hit-u.ac.jp

【科目コード：４０１４】

1．科目担当教員

佐藤　主光　：　一橋大学大学院経済学研究科 教授
中泉　真樹　：　國學院大學経済学部 教授

2．授業の目標・概要

（1）授業の目標

高齢化社会を迎えるわが国の医療保険財政の現状や課題について経済学の観点からどのように説明、評価、及び政策提言を行うのかを理解してもらう。

（2）授業の概要

高齢化の進展とともにわが国の医療費・介護費用は増加の一途を辿っている。こちらの費用の多くは公的な医療保険、介護保険によって賄われているが、今後、こうした公的保険制度が破綻することなく国民に保険サービスを提供し続けられるのかどうかについては不安視する向きもある。人間は一人一人が生きていくなかで様々なリスクに直面する。例えば、車を運転して事故を引き起こすリスクであるが、これには自動車保険があり民間で供給されている。一方、病気になるリスクや長生きして貯蓄が底をついてしまうリスクに対しては民間の保険もあるが、社会保障が重要な役割を担ってきており、人々は給与の一割以上も公的保険に支払っている。この講義では少子高齢化社会を迎えるわが国の医療保険の役割と課題について考える。

3．授業計画

下記日程欄を参照のこと。

4．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

特になし。

（2）他の授業科目との関連性

「１．５ 医療保険制度改革論」と内容的には連続した科目であるから、引き続き履修することが望ましい。
あわせて他の医療経済関連科目である「１．７ 医療産業論」、「１．８ 医療経済論」を履修すると一層理解が深まる。

5．学生への評価方法

６月５日に行う期末試験の成績による。

6．教科書・参考書など

テキストは使用しない。

7．ハンドアウトの有無

毎回、講義資料を配布する予定である。ホームページより資料を各自プリントアウトしていただく場合は事前に連絡する。

8．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

9．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	4 月 17 日(火)	わが国の医療保険の現状と課題	佐藤 主光	satom@econ.hit-u.ac.jp
2	4 月 24 日(火)	保険の経済理論Ⅰ: 不確実性と保険(リスク回避)に関する経済学の初歩、(事後的な)モラルハザードのもとでの保険、分配の公正と社会保険	中泉 真樹	satom@econ.hit-u.ac.jp
3	5 月 8 日(火)	保険の経済理論Ⅱ: 診療報酬制度の経済分析、逆選択とリスク調整	中泉 真樹	satom@econ.hit-u.ac.jp
4	6 月 5 日(火)	試験ならびにディスカッション	佐藤 主光 田近 栄治 中泉 真樹	satom@econ.hit-u.ac.jp

系　　名	1. 医療政策	科目名	5. 医療保険制度改革論
科目担当責任教員	佐藤 主光（一橋大学大学院経済学研究科 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 5 月 15, 22, 29 日, 6 月 5 日	連絡先	satom@econ.hit-u.ac.jp

【科目コード：４０１５】

１．科目担当教員

佐藤　主光　：　一橋大学大学院経済学研究科 教授
田近　栄治　：　一橋大学大学院経済学研究科 教授

２．授業の目標・概要

（1）授業の目標

高齢化社会を迎えるわが国の医療保険財政の現状や課題について経済学の観点からどのように説明、評価、及び政策提言を行うのかを理解してもらう。

（2）授業の概要

本講義の内容は、医療政策「医療保険論」に続くものである。社会の高齢化とともにわが国の国民医療費は高い伸びを示してきた。それを財政的に支えることが困難になりつつある中、「効率化」を通じた医療費増加の抑制が制度自体の持続可能性を保証するために不可欠になってきている。従来の医療保険制度は国の詳細な統制・規制（診療報酬の抑制、病床等の規制等）はあっても、医療費抑制、及び質の確保への「誘因」づけの視点が欠けていた。本講義では社会保険制度の枠内に競争原理を取り入れた「管理競争」の理論と実践について概観する。管理競争の下では保険者はリスク管理主体として医療サービスの質と評価や情報公開する機能を果たす。個人は保険者の自由選択（「足による投票」）を行う。政府には、「スポンサー」として医療機関や保険者をモニタリング、情報を開示するほか、国民皆保険を堅持し、最低限の医療サービスを保証することが求められている。講義では、こうした管理競争の効果とわが国への導入可能性についてオランダやドイツの医療制度改革の経験を踏まえつつ考えていく。

３．授業計画

下記日程欄を参照のこと。

４．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

特になし。

（2）他の授業科目との関連性

「１．４ 医療保険論」と内容的には連続した科目であるから、一緒に履修することが望ましい。
あわせて他の医療経済関連科目である「１．７ 医療産業論」、「１．８ 医療経済論」を履修すると一層理解が深まる。

５．学生への評価方法

６月５日に行う期末試験の成績による。

６．教科書・参考書など

教科書：テキストは使用しない。
参考書：田近栄治・尾形裕也 編著「次世代型医療制度改革」（ミネルヴァ書房）

７．ハンドアウトの有無

毎回、講義資料を配布する予定である。ホームページより資料を各自プリントアウトしていただく場合は事前に連絡する。

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	5 月 15 日(火)	日本の社会保障制度Ⅰ： 我が国の社会保障制度と課題	田近 栄治	satom@econ.hit-u.ac.jp
2	5 月 22 日(火)	日本の社会保障制度Ⅱ： 介護保険、医療保険の現状について	田近 栄治	satom@econ.hit-u.ac.jp
3	5 月 29 日(火)	保険者機能と医療保険制度改革： 欧米諸国における医療保険制度改革から学ぶ	佐藤 主光	satom@econ.hit-u.ac.jp
4	6 月 5 日(火)	試験ならびにディスカッション	佐藤 主光 田近 栄治 中泉 真樹	satom@econ.hit-u.ac.jp

系　　名	1. 医療政策	科目名	6. 医療計画制度
科目担当責任教員	河原 和夫(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科政策科学分野 教授)		
授業予定年月日	平成 24 年 5 月 21, 23～25 日	連絡先	kk.hcm@tmd.ac.jp

【科目コード：４０１６】

1．科目担当教員

河原　和夫　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科政策科学分野 教授
近藤　太郎　：　近藤医院 院長、東京都医師会 副会長
櫃本　真聿　：　愛媛大学医学部附属病院 医療福祉支援センター センター長

2．授業の目標・概要

（1）授業の目標

① 医療計画制度の沿革、特色、問題点を理解する。
② 国、都道府県、住民、関係者・関係団体の機能や役割を理解する。
③ 医療計画制度を策定、遂行する上で必要なデータ、体制等を理解する。
④ 過去あるいは実際に実施されている政策、実施が検討されている政策の分析を行い、問題点ならびに改善のための政策手段を理解する。

（2）授業の概要

過去の医療計画制度の問題点と成果を理解するとともに、近年厚生労働省から公表された医療計画の見直しに関する報告書をもとに、これからの医療計画制度の理念、目的、評価指標、実施方法、受益者としての住民の役割、医療提供者の役割などを理解する。また、現在までの成果や問題点、データを分析・理解する能力を養うとともに、実施されてきた政策の特徴ならびに問題点を明らかにし、今後のあるべき医療計画制度を論じる能力を身につける。

3．授業計画

まず、医療計画制度の沿革と必要性、問題点を過去の医療計画をもとに理解する。そして、医療計画制度の理念、目的、目標、計画策定過程、執行体制、評価、住民参加等の項目に関する分析を国外の同様の計画とも対比しながら行いながら理解を深め、将来の最適な医療計画制度に関わる政策像が提言できる能力の育成を図っていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

4．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

現在、医療計画の見直しの委員会が開かれているので、厚生労働省のホームページから資料を入手し、熟読する。

（2）他の授業科目との関連性

「1．1 医療提供政策論」「1．4 医療保険論」「9．3 医学概論」「2．4 医療機能評価」と関連する。

（3）その他

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mail での問い合わせには応じない。

5．学生への評価方法

原則として出席および討議への参加状況で評価する（配点は 100 点)。問題を的確に把握し、解決方法の現実性・論理性・科学性など多様な角度から総合的に評価する。必要に応じてレポートを課す場合もある。

6．教科書・参考書など

教科書：特に指定しない
参考書：① 郡司篤晃「保健医療計画ハンドブック」（第一法規出版）　※ただし、絶版のため図書館等で閲覧すること
② 足立幸男／森脇俊雅　編「公共政策学」（ミネルヴァ書房）
③ Edith Stokey and Richard Zeckhauser「政策分析入門」（勁草書房）
④ 西谷剛「実定行政計画法 プランニングと法」（有斐閣）
⑤ 厚生労働省「医療計画の見直しに関する報告書」平成17年
⑥ 厚生労働省ホームページ「医療計画検討会」
その他必要に応じて指示する。

7．ハンドアウトの有無

予定している

8．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

9．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	5 月 21 日(月)	医療計画制度総論	河原 和夫	kk.hcm@tmd.ac.jp
2	5 月 23 日(水)	医療提供者から見た医療計画	近藤 太郎	kk.hcm@tmd.ac.jp
3	5 月 24 日(木)	福祉制度等の他制度との関係	櫃本 真聿	kk.hcm@tmd.ac.jp
4	5 月 25 日(金)	総合討議	河原 和夫	kk.hcm@tmd.ac.jp

系　　名	1. 医療政策	科目名	7. 医療産業論
科目担当責任教員	佐藤 主光(一橋大学大学院経済学研究科 教授)		
授業予定年月日	平成 24 年 6 月 15, 22, 29 日, 7 月 6 日	連絡先	satom@econ.hit-u.ac.jp

【科目コード：４０１７】

1．科目担当教員

佐藤　主光　：　一橋大学大学院経済学研究科 教授
加藤　良平　：　株式会社ケアレビュー 代表取締役

2．授業の目標・概要

（1）授業の目標

加藤の授業では、受講生は病院の経営環境を十分に理解した上で、事例研究等において積極的に議論に参加することが求められる。

佐藤の授業では、医療経営、医療産業に関わる実務家を招き、その現状や問題点について紹介、議論していく。

（2）授業の概要

加藤は、民間の医療情報会社を経営する立場から、病院経営に関する事例研究を中心に講義する。医療制度の改革や情報通信インフラの発達に伴い、日本の病院が直面する経営環境の変化を説明するとともに、国内外の先進的な病院経営の事例を通して、これからの時代に求められる視点を議論する。

3．授業計画

下記日程欄を参照のこと。

4．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

特になし。

（2）他の授業科目との関連性

他の医療経済関連科目である「1．4 医療保険論」、「1．5 医療保険制度改革論」、「1．8 医療経済論」を合わせて履修することが望ましい。

5．学生への評価方法

7月6日に行う期末試験の成績による。

6．教科書・参考書など

参 考 文 献：「医療の経済学」（日本評論社）
参考サイト：「病院情報局」（http://hospia.jp）

7．ハンドアウトの有無

毎回、講義資料を配布する予定である。ホームページより資料を各自プリントアウトしていただく場合は事前に連絡する。

8．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

9．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	6 月 15 日(金)	先進的な病院経営の事例研究	加藤 良平	satom@econ.hit-u.ac.jp
2	6 月 22 日(金)	ゲストスピーカーによる講義	佐藤 主光	satom@econ.hit-u.ac.jp
3	6 月 29 日(金)	ゲストスピーカーによる講義	佐藤 主光	satom@econ.hit-u.ac.jp
4	7 月 6 日(金)	試験ならびにディスカッション	佐藤 主光 加藤 良平	satom@econ.hit-u.ac.jp

系　　名	1. 医療政策	科目名	8. 医療経済論
科目担当責任教員	佐藤 主光(一橋大学大学院経済学研究科 教授)		
授業予定年月日	平成 24 年 10 月 5, 19, 26 日, 11 月 30 日	連絡先	satom@econ.hit-u.ac.jp

【科目コード：４０１８】

１．科目担当教員

河口　洋行　：　成城大学経済学部 教授
井伊　雅子　：　一橋大学大学院経済学研究科 教授

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標

① 医療経済分野の今日的な課題を国際的な視点から理解する。
② 各種データ､指標､トピックスなどを提供し、医療システムが直面する医療経済学分野の重要課題について理解を深める。
③ 医療経済学に関連するさまざまな手法やプログラムの概要を理解する。
④ 医療経済学の総合的な知識修得を目的として講義及びグループディスカッションを含む系統的かつ実用的な講義をめざす。

（２）授業の概要

井伊は欧米やアジアの医療制度を概観し、国際的な視点から実践的に医療経済の課題を検討する。また、医療経済学の特色及び一般経済学との相違点、さらに医療経済学の研究課題に関する現状と研究に必要な基本知識を習得する。
河口は、医療経済学の研究範囲を概観し、その上で経済学の視点による分析の具体的な事例として医師不足問題と償還方式の影響を理論と実証の両面から取り上げる。

３．授業計画

概ね以下の内容をカバーする。(一部変更の可能性あり)

① 欧米・アジアの医療制度
② 医療経済学の考え方
③ 経済学から見た医師不足問題
④ 医療保険からの償還方式が医療機関に与える影響

最終日に教場試験を実施する予定である。

４．授業に際し学生の留意点

（１）授業への準備・予習

特になし。

（２）他の授業科目との関連性

他の医療経済関連科目である「１．４ 医療保険論」､「１．５ 医療保険制度改革論」､「１．７ 医療産業論」を合わせて履修することが望ましい。

５．学生への評価方法

最終日に行う期末試験の成績による。

６．教科書・参考書など

「医療の経済学」(日本評論社) など、授業時間に紹介推薦する。

７．ハンドアウトの有無

毎回、講義資料を配布する予定である。ホームページより資料を各自プリントアウトしていただく場合は事前に連絡する。

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先 (e-mail)
1	10 月 5 日(金)	授業ガイダンス及び医療経済学の研究課題、 日本の医療制度の概要説明	河口 洋行	satom@econ.hit-u.ac.jp
2	10 月 19 日(金)	医療資源の適正配分	井伊 雅子	satom@econ.hit-u.ac.jp
3	10 月 26 日(金)	日本の医療制度の今日的課題	井伊 雅子	satom@econ.hit-u.ac.jp
4	11 月 30 日(金)	試験		satom@econ.hit-u.ac.jp

系　　名	2. 医療の質確保とリスク管理	科目名	1. 医療と社会の安全管理
科目担当責任教員	河原 和夫(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科政策科学分野 教授)		
授業予定年月日	平成 24 年 5 月 28, 30, 31 日, 6 月 1 日	連絡先	kk.hcm@tmd.ac.jp

【科目コード：４０２１】

1．科目担当教員

河原　和夫　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科政策科学分野 教授
上原　鳴夫　：　東北大学大学院医学系研究科国際保健学分野 教授
菅河 真紀子　：　東北大学大学院医学系研究科 国際保健学分野 講師

2．授業の目標・概要

（1）授業の目標

・現代社会における危機管理について概説できる。
・国および地域における健康危機管理・防災対策を説明できる。
・医療安全対策に関する取り組みを概説できる。
・血液事業の安全対策に関する取り組みを概説できる。
・新興・再興感染症の定義、疫学、近年の国内外の感染症アウトブレイクを概説できる。
・大規模震災対策に対処すべき課題と必要な政策について説明できる。

（2）授業の概要

医療安全の推進が叫ばれて久しいが、安全・安心の社会を保持することは医療だけの問題ではなく、首都直下型地震や新型インフルエンザ、原子力関連事故等の医療が関わる健康危機管理事象への備えも必要である。講義では、これらの社会的要請が強い事象に関して、保健医療上の問題の本質を理解し、安全対策を進める上で不可欠な政策について言及する。また、諸外国の実情についても分析を行っていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

3．授業計画

・社会全体の安全対策・危機管理政策の概要
・医療安全対策（血液事業の安全対策も含む）
・患者・市民の立場に立った医療安全対策

4．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

過去の医療事故や血液製剤を取り巻く訴訟、震災等の事例を調べ、そのイベントの特徴や対応の問題点などを整理しておく。加えて、昨今の医療安全および健康危機管理・災害対策等についても書籍・インターネット等で調べておく。

（2）他の授業科目との関連性

「1．1 医療提供政策論」「1．4 医療保険論」「9．3 医学概論」と関連する。

（3）その他

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mail での問い合わせには応じない。

5．学生への評価方法

原則として出席および討議への参加状況で評価する（配点は 100 点）。問題を的確に把握し、解決方法の現実性・論理性・科学性など多様な角度から総合的に評価する。必要に応じてレポートを課す場合もある。

6．教科書・参考書など

特に指定しない。

7．ハンドアウトの有無

配布を予定している

8．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

9．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	5 月 28 日(月)	医療安全･社会安全対策総論	河原 和夫	kk.hcm@tmd.ac.jp
2	5 月 30 日(水)	医療安全対策各論	上原 鳴夫	kk.hcm@tmd.ac.jp
3	5 月 31 日(木)	血液事業の安全対策	菅河 真紀子	kk.hcm@tmd.ac.jp
4	6 月 1 日(金)	総合討議	河原 和夫	kk.hcm@tmd.ac.jp

系　　名	2. 医療の質確保とリスク管理	科目名	2. 医療機関リスク管理
科目担当責任教員	安原 眞人（東京医科歯科大学大学院薬物動態学分野 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 6 月 4, 6～8 日	連絡先	yasuhara.mpha@tmd.ac.jp

【科目コード：４０２２】

１．科目担当教員

大 川　 淳　：　東京医科歯科大学医学部附属病院安全管理対策室 室長
長 井　健 人　：　㈱インターリスク総研
長 澤　正 之　：　東京医科歯科大学医学部附属病院感染対策室
安 原　眞 人　：　東京医科歯科大学医学部附属病院薬剤部 部長
野 村　 徹　：　㈱テクノ・スタッフ、大阪大学大学院非常勤講師

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標
・医療機関におけるリスクマネジメントの実際を理解し、メディカルリスクマネジメントの手法を学ぶ。
・医薬品の関わるリスクと安全対策を理解する。
・医療機関における感染症対策と危機管理を理解する。

（２）授業の概要
医療機関における医療事故と感染症対策について講述する。医療事故の分析評価手法であるインシデントレポート、ＲＣＡ、ＦＭＥＡなどの有効性と限界、企業のリスク専門家からみた医療安全管理上の問題点と方策、医薬品の適正使用、感染危機管理のフレームワーク、感染対策委員会・インフェクションコントロールチームの組織と機能、感染症アウトブレイクに対する危機管理の実例とシミュレーションなどについて、講義・演習を行う。

３．授業計画

・大学病院におけるインシデントレポート分析
・企業家からみた大学病院のリスク管理の問題点
・プロセスマネージメントとしての医療リスク管理とメディカルリスク分析演習
・医薬品の適正使用
・医療機関における感染症対策と危機管理

４．授業に際し学生の留意点

（１）授業への準備・予習
特になし。

（２）他の授業科目との関連性
「２．１ 医療と社会の安全管理」が国全体もしくは社会の安全管理を主として論ずるのに対し、本講では医療機関レベルでの問題にフォーカスを絞って述べる予定である。

（３）その他
特になし。

５．学生への評価方法

出席、授業での態度、レポートにより総合的に評価する。

６．教科書・参考書など

教科書：特になし。
参考書：米国医療の質委員会／医学研究所　「人は誰でも間違える」　（日本評論社）
中島和江、児玉安司　「ヘルスケアマネジメント」　（医学書院）
河野龍太郎　「医療におけるヒューマンエラー」　（医学書院）

７．ハンドアウトの有無

未定

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	6 月 4 日(月)	大学病院における医療安全管理教育 企業におけるリスクマネジメント	大 川 淳 長井 健人	okawa.orth@tmd.ac.jp
2	6 月 6 日(水)	院内感染対策と危機管理	長澤 正之	mnagasawa.ped@tmd.ac.jp
3	6 月 7 日(木)	医薬品の安全性	安原 眞人	yasuhara.mpha@tmd.ac.jp
4	6 月 8 日(金)	医療リスク管理 メディカルリスク分析演習	大 川 淳 野 村 徹	okawa.orth@tmd.ac.jp

系　　名	2. 医療の質確保とリスク管理	科目名	3. 医療のTQM
科目担当責任教員	高瀬 浩造（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 11 月 26～29 日	連絡先	ktakase.rdev@tmd.ac.jp

【科目コード：４０２３】

１．科目担当教員

高瀬　浩造　：　東京医科歯科大学大学院医療政策学分野 教授
飯塚　悦功　：　東京大学大学院工学系研究科 上席研究員
小林　美亜　：　千葉大学看護学研究科 准教授

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標

① 医療の質の要素について理解を深める。
② 医療の質保証の方法論について検討する。
③ 日本における医療の質保証の現状について確認する。
④ 今後の医療におけるＴＱＭの活動について議論する。

（２）授業の概要

日本においても医療の質についての議論が行われるようになってきているが、社会が納得できるような意味での質保証は未だ十分には行われていない。ここでは、医療における質保証の基本的な方法論について習得し、またそれを実践する上での問題点について検討する。

３．授業計画

① 医療の水準・質の定義
② 医療におけるＴＱＭの歴史
③ 医療におけるＴＱＭの概要
④ 医療におけるＴＱＭ活動の実際
⑤ 医療の質マネジメント
⑥ 医療の質管理におけるクリニカルパス

４．授業に際し学生の留意点

（１）授業への準備・予習

教科書および参考書などに目を通しておくこと。また、医療機関におけるＴＱＭ活動について情報収集しておくこと。

（２）他の授業科目との関連性

系２の「医療の質の確保とリスク管理」全般との関連も深いが、系１０の「臨床研究・治験」との関連もある。

（３）その他

医療管理の中核をなす科目であるため、十分に習得すること。

５．学生への評価方法

出席およびレポート。

６．教科書・参考書など

教科書：

・上原、黒田、飯塚、棟近、小柳津「医療の質マネジメント～医療機関における ISO 9001 の活用～」（日本規格協会）2003 年
・飯塚、棟近、上原「医療の質マネジメントシステム～医療機関必携　質向上につながる ISO 導入ガイド」（日本規格協会）2006 年

参考書：

・高瀬、阿部 編「エビデンスに基づくクリニカルパス～これからの医療記録とヴァリアンス分析～」（医学書院）2000 年
・飯田修平「医療における総合的質経営」（日科技連）2003 年
・飯田修平、飯塚悦功、棟近雅彦 監修「医療の質用語事典」（日本規格協会）2005 年
・飯塚悦功、棟近雅彦、上原鳴夫監修「医療の質マネジメントシステム～医療機関必携　質向上につながる ISO 導入ガイド～」（日本規格協会）2006 年
・飯塚悦功、水流聡子「医療品質経営」（医療企画）2010 年

その他必要に応じて指示する。

７．ハンドアウトの有無

有。

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	11 月 26 日(月)	医療の TQM 概論	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
2	11 月 27 日(火)	医療の質マネジメント	飯塚 悦功	iizukay@tqm.t.u-tokyo.ac.jp
3	11 月 28 日(水)	医療の TQM 実践	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
4	11 月 29 日(木)	クリニカルパス	小林 美亜	miak@mti.biglobe.ne.jp

系　　名	2. 医療の質確保とリスク管理	科目名	4. 医療機能評価
科目担当責任教員	河原 和夫（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科政策科学分野 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 6 月 18～21 日	連絡先	kk.hcm@tmd.ac.jp

【科目コード：４０２４】

１．科目担当教員

河原　和夫　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科政策科学分野 教授
河北　博文　：　河北総合病院 理事長
信友　浩一　：　福岡市医師会成人病センター 院長

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標

① 医療機関が患者・家族、地域住民及び関係者から求められている役割や使命を理解する。
② 各種医療関連データから病院機能評価にふさわしい指標や評価の仕組み、方法ならびに誰が何のために評価するのかを理解する。
③ 病院機能評価が始まった歴史的経緯および現状、それらの問題点を理解する。
④ 過去あるいは実際に実施されている政策、実施が検討されている政策の分析を行い、問題点ならびに改善のための政策手段を理解する。
⑤ 医療機関および医療人の役割の理解を通じて医療システム全体を評価できる資質を養う。

（２）授業の概要

病院機能評価に関わる理念、目的、指標、方法、受益者、関係者の役割などを理解するために現在までの成果や問題点、データを分析・理解する能力を養うとともに、実施されてきた政策の特徴ならびに問題点を明らかにし、現代のわが国の実情に最も適した病院機能評価のあり方を論じる能力を身につける。患者の視点から医療を捉えることにも心がける。

３．授業計画

医療機能評価機構などで実施されている病院機能評価の実態、評価に関連する統計資料をもとにわが国の病院機能評価の現状と問題点を理解する。特に、誰のために何を目的とした評価なのか、患者・家族の立場、医療関係者ならびにその他の関係者・関係団体の立場からも問題点や必要性を指摘できる能力を養い、理解を深めていく。そして、将来の最適な病院機能評価のあり方が提言できる能力の育成を図っていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

４．授業に際し学生の留意点

（１）授業への準備・予習

日本医療機能評価機構、厚生労働省、研究報告等で医療機能評価の概要、関係者の取り組み、問題点など現在の状況を調べておく。

（２）他の授業科目との関連性

「１．１ 医療提供政策論」「２．２ 医療機関リスク管理」「２．３ 医療のＴＱＭ」などＭＭＡの中の多くの科目と関連する。

（３）その他

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mail での問い合わせには応じない。

５．学生への評価方法

原則として出席および討議への参加状況で評価する（配点は 100 点）。問題を的確に把握し、解決方法の現実性・論理性・科学性など多様な角度から総合的に評価する。必要に応じてレポートを課す場合もある。

６．教科書・参考書など

教科書：特に指定しない。
参考書：日本医師会・厚生省健康政策局指導課「病院機能評価マニュアル」（金原出版）
　　Restructuring Hospital Quality Assurance: The New Guide for Health Care Providers　Jean Gayton Carroll
参考サイト：
　　(財)日本医療機能評価機構ホームページ 「http://jcqhc.or.jp/html/index.htm」
　　JCAHO(Joint Commission on Accreditation of Healthcare Organizations)ホームページ 「http://www.jcaho.org/」
　　AHRQ(Agency for Healthcare Research and Quality)ホームページ 「http://www.ahrq.gov/」
その他必要に応じて指示する。

７．ハンドアウトの有無

配布を予定している。

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	6 月 18 日(月)	医療機能評価概説	河原 和夫	kk.hcm@tmd.ac.jp
2	6 月 19 日(火)	日本医療機能評価機構の活動	河北 博文	kk.hcm@tmd.ac.jp
3	6 月 20 日(水)	医療機関および医療人の役割とその評価	信友 浩一	kk.hcm@tmd.ac.jp
4	6 月 21 日(木)	総合討議	河原 和夫	kk.hcm@tmd.ac.jp

系　　名	3. 医療関連法規と医の倫理	科目名	1. 医療制度と法
科目担当責任教員	磯部　哲（慶應義塾大学法科大学院 准教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 6 月 25～27 日，11 月 9 日	連絡先	teisobe@sonata.plala.or.jp

【科目コード：４０３１】

1．科目担当教員

磯 部　哲　：　慶應義塾大学法科大学院 准教授

2．授業の目標・概要

（1）授業の目標

・医療関連法規の概観

・わが国の医療制度の根底にある基本的な法理念の理解など

（2）授業の概要

憲法を頂点とするわが国の法体系を概観したのちに、医療スタッフ、薬や病院、医療保険や健康被害補償等、医療にまつわる「ヒト・モノ・カネ」に関する具体的な法制度を扱うこととなる。詳細は授業計画（予定）の項を参照のこと。

上記（1）を目標とするこの授業では、細かい条文の解説などはさておいて、「健康権の概念」、「自己決定の原理」、「医師の裁量」、「プロフェッションの責任」などの基本的な論点を、法律学の立場から整理検討することとしたい。また、近時の医事法制上の重要な問題（医療情報の保護と利用等）についても重点的に取り上げることとする。

本授業への参加を通じて、「法的なものの考え方」の特徴を理解してもらえるようにつとめたい。

3．授業計画

以下の各項目を取り上げていく予定である。（受講者の希望も聴きながら、随時修正を加えることがある）

① 法律の体系、行政の役割
② 医療関連法規概観、医療に関する３つの法的責任
③ 医療事故と被害者の救済：原因調査と補償の仕組み
④ 医師の行為に関する法と制度（医師法、保助看法等の資格と業務の規制法）
⑤ 救急医療に関する法と制度、異状死届出の問題
⑥ 医療情報の保護と利用
⑦ 薬害、精神科医療等
⑧ その他

4．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

とくだん予習の必要はないと思われるが、テーマに関連した話題提供があれば歓迎する。

（2）他の授業科目との関連性

同系に開設された他の科目であれば、たとえば個人情報の問題は「3．3 生命倫理と法」においても取り上げられるなど、本授業とも密接に関連する論点が多いと思われる。それらを併行して履修するといっそう「医療関連法規」に関する理解も深まるはずである。

（3）その他

本授業の担当者は法律学（行政法）の研究者であるが、そのような立場からの「一方通行」的な講義・解説に終始するのではなく、参加者との建設的・有意義な対話を通じて新たに問題を発見し理解を深められるような「対話重視」型の授業としたい。その意味で、受講者には積極的な参加（出席、発言、問題提起等）を希望している

5．学生への評価方法

出席およびレポート。

6．教科書・参考書など

教科書：特に指定しない。
参考書：甲斐克則 編「レクチャー生命倫理と法」（法律文化社）2010 年
その他、参考文献は講義の中で随時紹介する。

7．ハンドアウトの有無

有（適宜レジュメを配布する予定である）

8．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

9．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	6 月 25 日(月)	ガイダンス:わが国の法体系・医療関連法規概観他	磯部 哲	teisobe@sonata.plala.or.jp
2	6 月 26 日(火)	医療(事故)と法的責任、免許制度他	磯部 哲	teisobe@sonata.plala.or.jp
3	6 月 27 日(水)	異状死、救急医療、医療情報他	磯部 哲	teisobe@sonata.plala.or.jp
4	11 月 9 日(金)	薬害、感染症、精神科医療その他	磯部 哲	teisobe@sonata.plala.or.jp

系　　名	3. 医療関連法規と医の倫理	科目名	2. 医事紛争と法
科目担当責任教員	滝沢 昌彦（一橋大学大学院法学研究科 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 8 月 27～30 日	連絡先	m.takizawa@r.hit-u.ac.jp

【科目コード：４０３２】

1．科目担当教員

滝 沢　昌 彦　：　一橋大学大学院法学研究科 教授
南 出　行 生　：　弁護士（東京弁護士会所属）

2．授業の目標・概要

（1）授業の目標

① 医事紛争と法の基本法理（医療行為、診療契約、医師の権利義務と患者の権利義務、責任根拠、過失、因果関係、損害）を学ぶ。
② 医師の民事責任、刑事責任、行政責任について実例に基づき学ぶ。
③ 医療過誤判例の基本法理を学ぶ。
④ 医療過誤訴訟の実情や訴訟の具体的進め方と問題点を学ぶ。
⑤ 臨床現場での医事紛争の問題点と対処方法について考える。
⑥ 病院や医師の医療事故防止対策・リスクマネージメントについて考える。
⑦ その他、医事紛争をとりまく法律問題、医療過誤裁判の今後とあるべき医療について考える。

（2）授業の概要

医事紛争の中心である医療過誤の問題について、基本法理を学習し、実際の判例やケース・スタディをもとに問題点を学び、また医療裁判や医事紛争の実際についての概要を知ってもらい、実務に役立つ知識を習得する。

3．授業計画

以下の各項目を取り上げていく予定である。（受講者の希望も聴きながら、随時修正を加えることがある）

① 基本用語と法理（医事紛争・医療事故・医療過誤、民事責任・刑事責任などの法的責任、行政処分と雇用契約上の処分、損害賠償責任における過失・損害・因果関係、診療契約、医師と医療機関の義務、患者の義務、共同不法行為、使用者責任、過失相殺、安楽死・尊厳死など）
② 基本判例と判例法理（説明義務、告知義務、転送義務、患者の同意・自己決定権、医療水準、医療行為と裁量、因果関係、延命利益と期待権、信教と輸血拒否、問診、検査、投薬・注射、手術、麻酔、患者管理、院内感染、救急医療、周産期医療など）
③ 医事紛争の発生から訴訟まで（異状死の届出義務、カルテ開示、個人情報保護と情報公開、証拠保全、解剖、診断書、患者側への説明義務とその範囲、示談、医師賠償責任保険）
④ 訴訟の流れと判決まで（医療過誤訴訟の現状、迅速な裁判と計画審理、医療専門部、専門員制度、訴状と答弁書、準備書面、争点整理、診療経過一覧表、文書送付嘱託、調査嘱託、診療録・文献・意見書・陳述書その他の書証、証人尋問、鑑定、和解、判決、控訴・上告、弁護士費用・訴訟費用の負担、訴訟対策）
⑤ リスクマネージメントと事故防止策、保険
⑥ 医療過誤裁判の今後の行方と医療のあり方

4．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

できれば、レジメと資料を作成し、遅くとも１週間くらい前に配布したいと考えているので、その範囲で予習してもらえれば、問題点が理解しやすくなる。

（2）他の授業科目との関連性

「３．１ 医療制度と法」という講座があり、一部重複するところがあるかもしれない。

（3）その他

なるべく一方通行の講義でなく、ケース・スタディを用いて、学生に意見を述べてもらい、討論する時間を多くとりたいと考えている。

5．学生への評価方法

出席状況、授業への参加の仕方、レポート（「医療過誤・医事紛争について」）を総合して評価する。

6．教科書・参考書など

特に指定しない。

7．ハンドアウトの有無

有

8．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクターを使えるようにしたいと考えています。

9．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	8 月 27 日(月)	基本用語と法理	滝沢 昌彦	m.takizawa@r.hit-u.ac.jp
2	8 月 28 日(火)	ケース・スタディ① 医事紛争の内容、医師と患者の権利と義務	南出 行生	BZE14265@nifty.ne.jp
3	8 月 29 日(水)	ケース・スタディ② 医師の注意義務、損害との因果関係	南出 行生	BZE14265@nifty.ne.jp
4	8 月 30 日(木)	ケース・スタディ③ 医療過誤訴訟の流れと問題点	南出 行生	BZE14265@nifty.ne.jp

系　　名	3. 医療関連法規と医の倫理	科目名	3. 生命倫理と法
科目担当責任教員	磯部　哲（慶應義塾大学法科大学院 准教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 7 月 18～20 日, 9 月 28 日	連絡先	teisobe@sonata.plala.or.jp

【科目コード：４０３３】

1．科目担当教員

磯 部　　哲　：　慶應義塾大学法科大学院 准教授

2．授業の目標・概要

（1）授業の目標

医学・生命科学の発達により惹起される法的・倫理的・社会的諸問題の検討

（2）授業の概要

人の生命の始期・終期に関することがらを中心に、医学・生命科学の発達により惹起される法的・倫理的・社会的諸問題（ＥＬＳＩ）を検討する。治療に関わるＩＣと医学研究に関わるそれとの異同など、理論的な問題も提起していきたい。詳細は初回に説明する。

一部は講義形式で行う部分もあるが、例えば遺伝病の告知、生殖補助医療規制の意義と限界、延命治療中止・差し控えに関する判断枠組み、臨床研究のあり方、生体間移植におけるドナー選定の問題、出生前診断と胎児の権利等々の具体的なテーマ（以上はあくまで例示にすぎない）を設定し、「もし倫理委員会の委員としてそうした案件を審議するとしたら、どのような事項をどの程度に考慮しなければならないか」を各自で検討するようなイメージで、実践的な双方向の議論を行うことを通じて考察を深めていきたいとも考えている。

3．授業計画

以下の各項目を取り上げていく予定である（受講者の希望も聴きながら、随時修正を加えることがある）。

① ガイダンス～「医療と法と生命倫理」～
　　ＩＣ概念の変遷、倫理委員会
　　法令・ガイドライン・学会等による自主規制等の関係
② 医学研究をめぐる諸問題
③ 終末期医療の諸問題（安楽死、尊厳死）
④ 脳死、臓器移植
⑤ 生体間移植、臓器売買
⑥ 生殖補助医療、代理懐胎、着床前・出生前診断と障害児の「生まれる権利」
⑦ 人工妊娠中絶をめぐる諸問題
⑧ ヒト胚・クローン技術・再生医療・幹細胞研究、ヒト由来試料の利用、遺伝子解析研究、バンク、コホート等

4．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

とくだん予習の必要はないと思われるが、テーマに関連した話題提供があれば歓迎する。

（2）他の授業科目との関連性

同系に開設された他の科目のうち、とりわけ「3．1 医療制度と法」では、医療における個人情報保護の問題を扱うなど、本授業と密接に関連する論点が多い。法と倫理の異同等を考察する準備としても、「3．1医療制度と法」を併せて履修されることをお勧めする。

（3）その他

本授業の担当者は法律学（行政法）の研究者であるが、そのような立場からの「一方通行」的な講義・解説に終始するのではなく、参加者との建設的・有意義な対話を通じて新たに問題を発見し理解を深められるような「対話重視」型の授業としたい。その意味で、受講者には積極的な参加（出席、発言、問題提起等）を希望している。

5．学生への評価方法

出席およびレポート。

6．教科書・参考書など

教科書：甲斐克則編「レクチャー生命倫理と法」（法律文化社）2010 年
その他、参考文献は講義の中で随時紹介する。

7．ハンドアウトの有無

有（適宜レジュメを配布する予定である）

8．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

9．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	7 月 18 日(水)	ガイダンス:臨床研究、IC、倫理委員会他	磯部 哲	teisobe@sonata.plala.or.jp
2	7 月 19 日(木)	終末期医療、脳死と臓器移植他	磯部 哲	teisobe@sonata.plala.or.jp
3	7 月 20 日(金)	人工妊娠中絶、生殖補助医療、出生前・着床前診断他	磯部 哲	teisobe@sonata.plala.or.jp
4	9 月 28 日(金)	ヒト胚・クローン技術、再生医療、 ヒト由来試料の利用、遺伝子解析研究他	磯部 哲	teisobe@sonata.plala.or.jp

系　　名	4. 病院情報とセキュリティー	科目名	1. 病院情報管理学
科目担当責任教員	高瀬 浩造（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 7 月 9～12 日	連絡先	ktakase.rdev@tmd.ac.jp

【科目コード：４０４１】

1．科目担当教員

高瀬　浩造　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療政策学分野 教授
松浦　　亨　：　北海道大学大学院社会医療管理学、北海道大学病院臨床教授

2．授業の目標・概要

（1）授業の目標

① 病院が管理する情報の範囲と種別を規定して、認識を深める。
② 病院情報と診療情報との意味論的な相違点を確認する。
③ 病院情報がどのように利用されるのかについて検討する。
④ 今後病院情報を管理する上での問題点について検討する。

（2）授業の概要

病院が取り扱う情報の種別および量は近年大幅に膨張しており、その管理について医療機関の責任が問われてきている。ここでは、病院情報を診療情報と区別するため、医療機関が扱う情報のクラスであると定義し（診療情報はインスタンスと定義される）、管理すべき緊急度の高い情報種別を中心に議論する。また、情報の使用目的、個人情報保護との係わり、病院情報システムについても理解を深める。

3．授業計画

① 情報の定義、種別と範囲
② 病院情報の管理とは
③ 病院管理・経営に必要な病院情報インスタンス
④ 公的に要求される病院管理情報
⑤ 個人情報保護法と病院情報安全管理
⑥ 病院情報システムの概要

4．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

特に無いが、医療機関での情報管理の実態について考察しておくこと。また、情報理論の一般知識を持っていた方が理解しやすいので、簡単に一般書レベルで構わないので、目を通しておくこと。

（2）他の授業科目との関連性

「6．2 診療情報管理学」。その他の大半の授業科目での情報ソースに対応している。

（3）その他

積極的な議論参加が要求される。

5．学生への評価方法

出席およびレポート。

6．教科書・参考書など

参考書：福田剛久・高瀬浩造 編「医療訴訟と専門情報」（判例タイムズ社）

7．ハンドアウトの有無

有。

8．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

9．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	7 月 9 日(月)	情報管理の基礎	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
2	7 月 10 日(火)	医療機関における情報管理	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
3	7 月 11 日(水)	医療分野での情報化	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
4	7 月 12 日(木)	大学病院での病院情報インスタンス	松浦　亨	macchan@med.hokudai.ac.jp

系　　名	4. 病院情報とセキュリティー	科目名	2. 診療情報管理学
科目担当責任教員	伏見 清秀（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療政策情報学分野 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 7 月 23～25, 27 日	連絡先	kfushimi.hci@tmd.ac.jp

【科目コード：４０４２】

１．科目担当教員

伏 見　清 秀　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療政策情報学分野 教授
麻 生　玲 子　：　(株)健康保険医療情報センター
前田 まゆみ　：　東京医科歯科大学 非常勤講師
桑原 比呂世　：　アストラゼネカ株式会社

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標
① 診療情報管理の概念とその実務を理解すること。
② 診断群分類および包括評価の概念と実務およびそれらの医療管理評価への応用を理解すること。
③ 診療情報、統計情報等のデータマネージメントと研究的活用方法を理解すること。

（２）授業の概要
診療情報管理、診断群分類、包括評価、厚生統計等関する最新の資料を配付し、プレゼンテーションを用いて講義を行った上で、質疑応答や学生の実務上の経験や意見に基づく討論等で理解を深める。配布使用予定の資料としては、ICD10 コーディングのガイドライン、診断群分類 DPC に関する中医協資料抜粋と厚生労働省研究班報告書抜粋、包括評価対応のためのマニュアル、厚生労働省諸統計の概要と研究報告書抜粋、諸論文の抜粋等を予定している。

３．授業計画

第１日：診療情報管理総論、診療録管理の理論と実務、傷病名コーディングの理論と実務、診療報酬関連情報管理の実務、診断群分類の導入と効率的診療情報管理等に関する講義と討論（麻生講師）
診療情報と医療倫理（前田講師）
第２日：診断群分類の理論と国際比較、日本版診断群分類DPCと包括評価の理論と実務、診断群分類を用いた医療管理の理論と実際等に関する講義と討論
第３日：診断群分類を用いた医療の評価、我が国の医療提供体制の評価への診断群分類の応用、地域医療資源配分計画法、地域保健医療計画と診断群分類等に関する講義と討論
第４日：DPCデータ等の医療業務データの分析手法（桑原講師）

４．授業に際し学生の留意点

（１）授業への準備・予習
診療記録関連の法的背景、診療録の電子記録、診療記録の作成技法等については触れる時間がほとんど無いため、他講または参考書にてその概略を理解しておくことが望ましい。

（２）他の授業科目との関連性
医療提供体制の設計と評価の点で「１．１ 医療提供政策論」と、診療情報の電子化や病院システムとの関連で「４．１ 病院情報管理学」と関連すると考えられる。

（３）その他
特になし。

５．学生への評価方法

出席およびレポートの予定。

６．教科書・参考書など

参考書：「ＤＰＣデータ活用ブック・第二版」（じほう社）
「２１世紀の医療と診断群分類」（じほう社）
「ＤＰＣと病院マネジメント」（じほう社）
「民間病院におけるＤＰＣ導入事例集」（じほう社）
「疾病、傷害および死因統計分類提要」第２巻（厚生統計協会）
「医療科学」第２版（医学書院）　等

７．ハンドアウトの有無

有。

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	7 月 23 日(月)	診療情報管理の基礎･診療情報と医療倫理	麻生 玲子 前田まゆみ	
2	7 月 24 日(火)	医療情報の標準化と DPC 診断群分類包括評価	伏見 清秀	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
3	7 月 25 日(水)	診療情報を用いた医療評価	伏見 清秀	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
4	7 月 27 日(金)	診療情報分析手法	桑原 比呂世	

系　　名	4. 病院情報とセキュリティー	科目名	3. IT 時代の医療診断システムとセキュリティー
科目担当責任教員	小杉 幸夫（東京工業大学大学院総合理工学研究科 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 7 月 2～5 日	連絡先	kosugi@pms.titech.ac.jp

【科目コード：４０４３】

１．科目担当教員

小杉　幸夫　：　東京工業大学大学院総合理工学研究科 教授
大山　永昭　：　東京工業大学大学院像情報工学研究所 教授
山口　雅浩　：　東京工業大学大学院学術国際情報センター 教授
尾形 わかは　：　東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科 准教授
小尾　高史　：　東京工業大学大学院総合理工学研究科 准教授
喜多　紘一　：　保健医療福祉情報安全管理適合性評価協会

２．授業の目標・概要

（1）授業の目標

医療をとりまくＩＴ技術をどのように生かしていくべきか、主として以下のテーマをもとに、将来に向けた戦略を考える素地を提供する。

- 診断と治療をつなぐＩＴ技術
- 個人情報の管理とＩＣカード
- 医療情報の電子保存と証拠性
- プライバシーの保護とセキュリティー
- 医療ＩＴ化における医用画像診断装置の役割
- ヘルスケア情報システムと地域医療

（2）授業の概要

本講義では、診断・治療に供される最新の医用画像診断技術の動向について概説するとともに、ＩＴ技術を駆使した遠隔医療や、患者のプライバシーを保護するための各種のセキュリティー技術について講じる。なお、本講義では情報に関する専門的知識を必要としないように配慮し、適宜、参加者とのディスカッションの場を設ける。

３．授業計画

未定

４．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

特に必要としない。

（2）他の授業科目との関連性

より実際の病院業務と密着した内容については、「６．１ 病院情報管理学」、および「６．２ 診断情報管理学」をも併せて受講されたい。

（3）その他

特になし。

５．学生への評価方法

レポート（本科目全体で、一編）

６．教科書・参考書など

特になし。

７．ハンドアウトの有無

未定。

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	7 月 2 日(月)	概要･セキュリティー技術	小杉 幸夫 尾形 わかは	kosugi@pms.titech.ac.jp
2	7 月 3 日(火)	個人情報の管理とICカード	大山 永昭	yama@isl.titech.ac.jp
3	7 月 4 日(水)	医療情報システム･医用画像診断	山口 雅浩 小尾 高史	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
4	7 月 5 日(木)	ヘルスケア情報システムと地域医療	喜多 紘一	k.kita@gakushikai.jp

系　　名	5. 医療の国際文化論	科目名	1. 医療思想史
科目担当責任教員	西谷 修(東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授)		
授業予定年月日	平成 24 年 11 月 19～22 日	連絡先	nstn@tufs.ac.jp

【科目コード：４０５１】

１．科目担当教員

西 谷　 修　 :　 東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標

現代医療を生み出しその枠組や方向を規定している西洋医療の考え方の歴史をたどり、現代の医学あるいは医療がどのような思想的伝統のうえに成立つものかを知る。それとともに、人間にとって〈医〉とは何かを根本から考えなおし、現代医療のあり方を照らし出す上で指標として役立つと思われる医療思想の基本的知見を身につける。

（２）授業の概要

西洋における〈医〉の考え方を、ギリシア時代からキリスト教の時代、そしてルネサンス以降の近代、一九世紀の科学技術と産業化の時代、二十世紀の世界化と原子の時代と、いくつかの大まかな時代区分に従って医学の歴史とともに振り返り、それぞれの節目で生じた〈病〉に関する考え方やそれに対応した〈医療〉のあり方の変化とその意味を検討する。それを通して、〈医〉とは何か、治療と癒し、医と宗教、信と効能など、〈医〉のよって立つ関係、その特殊な意味を把握する。また、現代医療の諸条件を、医学の科学史的なコンテクスト、および産業システムの歴史的展開と照らし合わせて検討し、産業化やマネージメント思想がもたらした〈医療〉体制の諸問題などを視野に入れながら、現代医療を考えるうえで必要と思われる知的な見とおしを提示する。時間軸に沿った歴史的変化の解説と、そこから引き出せる諸テーマの考察とを組み合わせた講義となる。

３．授業計画

第１回　〈医〉とは何か、医術、医療、医学、ギリシアとキリスト教世界アスクレピオスとイエスから
第２回　近代の転換と〈身体〉の分離、西洋の心身二元論と機械論
第３回　近代における〈医療〉と〈科学〉、および社会の産業化
第４回　〈生命科学〉の文明史的位置、〈医療〉と現代社会システム
おおむね以上のような配分を予定しているが、各回、講義と質疑応答で授業を進める。

４．授業に際し学生の留意点

（１）授業への準備・予習

主要な参考書に目を通す。

（２）他の授業科目との関連性

「３．１ 医療制度と法」「３．３ 生命倫理と法」「１．２ 医療社会政策論」など。

（３）その他

特になし

５．学生への評価方法

授業への参加、およびレポート

６．教科書・参考書など

参考書：梶田 昭　「医学の歴史」（講談社学術文庫）
Ｌ・ステルペローネ　「医学の歴史」（原書房）
シャーウイン・Ｂ・ヌーランド「医学をきずいた人びと（上・下）」（河出書房新社）
ヒポクラテス「古い医術について」（岩波文庫）
その他、教室で指示。

７．ハンドアウトの有無

有（各回、資料と講義概要を配布する）

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター、ビデオ

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	11 月 19 日(月)	〈医〉とは何か	西谷 修	nstn@tufs.ac.jp
2	11 月 20 日(火)	近代の転換と〈身体〉の分離	西谷 修	nstn@tufs.ac.jp
3	11 月 21 日(水)	近代における〈医療〉と〈科学〉	西谷 修	nstn@tufs.ac.jp
4	11 月 22 日(木)	〈生命科学〉の文明史的位置	西谷 修	nstn@tufs.ac.jp

系　　名	5. 医療の国際文化論	科目名	2. 世界の文化と医療
科目担当責任教員	栗田 博之（東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 9 月 3～6 日	連絡先	kuritah@tufs.ac.jp

【科目コード：４０５２】

１．科目担当教員

栗田　博之　：　東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授
中谷　英明　：　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 元教授
八木 久美子　：　東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授
吉本　秀之　：　東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標

世界諸地域の文化における医療の観念や死生観をめぐって理解を深め、幅広い教養と視野の涵養をめざしたい。

（２）授業の概要

① 文化概念における医療のコンセプトを包括的な視野から明らかにする。
② 世界諸地域における文化において病と医療、死生観のテーマはどのように提示され、表象されてきたかを明らかにする。いずれも、担当教員の個別の問題意識にしたがいながら、講義と討論形式の二本立てによって授業を行う。

３．授業計画

第１回：栗田博之「文化と生殖」
民俗生殖理論を出発点に、親子関係と生殖、新生殖技術、近代医療と伝統医療の併存といった問題を考察する。
第２回：中谷英明「古典インド医学」
古典インド医学を古代インド思想の流れの中に位置づけつつ、その特徴を「スシュルタ・サンヒター」、「チャラカ・サンヒター」という２原典に即して解説する。
第３回：八木久美子「イスラムにおける死生観」
イスラムでは人間の生死は神の創造の業の一こまとして理解されており、死を来世での新たな生へ向かう通過点と見ることなど、イスラムの死生観について紹介する。
第４回：吉本秀之「先端医療のはらむ問題性」
先端医療のはらむ問題をめぐって、科学技術論の分析・主張を紹介した上で、受講者諸君と議論する。。

４．授業に際し学生の留意点

（１）授業への準備・予習

事前に配布したハンドアウトなどを読んでおくこと。

（２）他の授業科目との関連性

「５．１ 医療思想史」「５．３ 世界の宗教と世界観」と強い関連性をもつので併せて受講することを勧めたい。

（３）その他

特になし

５．学生への評価方法

出席およびレポートによって評価する。

６．教科書・参考書など

授業中に指示する。

７．ハンドアウトの有無

有

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター、ビデオ

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	9 月 3 日(月)	文化と生殖	栗田 博之	kuritah@tufs.ac.jp
2	9 月 4 日(火)	古典インド医学	中谷 英明	nakatani@aa.tufs.ac.jp
3	9 月 5 日(水)	イスラムにおける死生観	八木 久美子	kuyagi@tufs.ac.jp
4	9 月 6 日(木)	先端医療のはらむ問題性	吉本 秀之	h.yoshimoto@tufs.ac.jp

系　　名	5. 医療の国際文化論	科目名	3. 世界の宗教と死生観
科目担当責任教員	土佐 桂子（東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 9 月 7，24，26，27 日	連絡先	ktosa@tufs.ac.jp

【科目コード：４０５３】

１．科目担当教員

土佐　桂子　：　東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授
西井　凉子　：　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 教授
飯塚　正人　：　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 教授
丹羽　　泉　：　東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標

① 真にボーダレスな治療を目指して、世界の民族文化について知識を深める。
② 世界の諸地域で、生と死の問題がどのように扱われているか検討する。
③ 多言語多文化時代において日本がどのような位置に置かれているか確認する。

（２）授業の概要

今や医療も、ボーダレスな世界に突入したといっても過言ではない。もはや日本人医師が日本人患者だけを治療対象としておれない状況が生まれている。国籍や人種を超えて、担当患者の全人的な癒しを志すなら、当人の社会的、歴史的、文化的および宗教的背景に対して、一定の知識と理解を備えている必要がある。また異文化・異宗教への理解を深めることは、日本人と日本文化に対する再発見にもつながるだろう。そのような意図の下に、本講座では世界諸地域および諸文化における死生観について検討したい。

３．授業計画

全４回の講義では世界の全地域を網羅することはもとより不可能だが、ここではさしあたり、３地域（東アジア、東南アジア、中東）からキリスト教、イスラーム、上座仏教、儒教という、世界宗教のなかでも重要なものを取り上げ、その死生観、倫理観などを取り上げる予定である。また近年、日本でも移民・難民といった形で多文化・多民族共生を考えざるをえない状況が進行しており、医療の現場もその一つといえるだろう。講義のなかでは、ムスリムと仏教の共生のありようや韓国の多宗教状況に触れることで、日本の多文化状況を考察する手掛かりとしたい。また、世界における民間医療の組み込みや医療ツーリズムの展開なども、適宜紹介する予定である。

４．授業に際し学生の留意点

（１）授業への準備・予習

特になし。

（２）他の授業科目との関連性

東外大教員によるリレー講義「５．２ 世界の文化と医療」と補完的な関係をもつので、併せて聴講することを望みたい。

（３）その他

積極的に討論に参加すること。

５．学生への評価方法

講義毎のレスポンス・シートの提出（全４回）をもって、総合的に判断する。

６．教科書・参考書など

参考書：大木　晶　「病と癒しの文化史：東南アジアの医療と世界観」（山川出版社）2002年
明治大学人文科学研究所編　「明治大学公開文化講座「生と死」の東西文化論」（風間書房）2004年
加地伸行　「儒教とは何か」（中公新書）1990年
加地伸行　「沈黙の宗教―儒教」（筑摩書房）1994年
内田　樹　「死と身体　コミュニケーションの磁場」（医学書院）2004年
田辺繁治　「ケアのコミュニティ　北タイのエイズ自助グループが切り開くもの」（岩波書店）2008年

７．ハンドアウトの有無

有

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター、ビデオ

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	9 月 7 日(金)	イスラームの死生観と生命倫理思想	飯塚 正人	masato@aa.tufs.ac.jp
2	9 月 24 日(月)	仏教における死生観とその変容 ～上座仏教社会と日本の現在	土佐 桂子	ktosa@tufs.ac.jp
3	9 月 26 日(水)	ムスリムと仏教徒の共生地域における生と死	西井 凉子	rnishii@aa.tufs.ac.jp
4	9 月 27 日(木)	東アジアにおける死生観 ～多宗教状況下にある韓国の事例を通して	丹羽 泉	niwa@tufs.ac.jp

系　　名	6. 施設設備と衛生管理	科目名	1. 病院設計・病院設備
科目担当責任教員	藤井 晴行（東京工業大学大学院理工学研究科 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 10 月 1～4 日	連絡先	yuasa.k.aa@m.titech.ac.jp

【科目コード：４０６１】

1．科目担当教員

藤井　晴行　：　東京工業大学大学院理工学研究科 准教授
岩堀　幸司　：　医療施設近代化センター
仲　　綾子　：　仲建築研究所

2．授業の目標・概要

（1）授業の目標

病院施設の計画に関わる基礎的事項の修得、病院設備のメカニズムの修得

（2）授業の概要

各種病院施設の地域的計画、全体計画、各部門（病棟・外来・診療・供給・管理等）計画の基礎的事項について、人・物・情報の流れ、建物形態、面積規模等の観点から講述する。また、病院施設に求められる物理化学的環境とそれを創出する設備（空気調和・給排水衛生等）について実際の病院施設の事例をふまえて講述する。

3．授業計画

① 病院施設の建築計画と設計の概要（藤井）
② 病院建築の事業計画、プロジェクト調達（仲）
③ 病院施設の設計計画の実際、先進病院建築事例（仲）
④ 病院設備の概要とメカニズム（岩堀）

4．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

特に必要は無いが、講義に伴う演習等の復習を必要とする。

（2）他の授業科目との関連性

「6．2 衛生工学・汚染管理」との関連性は特に高く、先に本科目を履修しておくことが望ましい。また、医療の質の確保と危機管理系の各科目の基礎科目として密接に関連するものである。

（3）その他

特になし。

5．学生への評価方法

出席、演習、レポートにより評価する。

6．教科書・参考書など

未定

7．ハンドアウトの有無

未定

8．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

9．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	10 月 1 日(月)	病院施設の計画・設計	藤井 晴行	fujii.h.aa@m.titech.ac.jp
2	10 月 2 日(火)	病院建設事業(1)	仲　綾子	yuasa.k.aa@m.titech.ac.jp
3	10 月 3 日(水)	病院建設事業(2)	岩堀 幸司	sengoku@heart.ocn.ne.jp
4	10 月 4 日(木)	病院設備のメカニズム	岩堀 幸司	sengoku@heart.ocn.ne.jp

系　　名	6. 施設設備と衛生管理	科目名	2. 衛生工学･汚染管理
科目担当責任教員	湯淺　和博（東京工業大学大学院理工学研究科 准教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 10 月 9～12 日	連絡先	yuasa.k.aa@m.titech.ac.jp

【科目コード：４０６２】

１．科目担当教員

湯淺　和博　：　東京工業大学大学院理工学研究科 准教授
岩堀　幸司　：　医療施設近代化センター
鍵　　直樹　：　東京工業大学大学院

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標
・病院施設の汚染管理の原則
・空気汚染物質と空気清浄
・施設管理運営コスト計画

（２）授業の概要
医療施設にとって、衛生的環境の確保は、病院内感染の予防にとって重要課題である。本科目では、施設の汚染管理の面から、汚染管理の原則、隔離手法、汚染源と汚染物質、空気清浄と空気調和、水利用、クロスコンタミネーションの防止、病院の廃棄物と処理、エネルギー管理、マネージメント手法などについて検討する。

３．授業計画

① 病院施設の汚染管理の原則（湯淺）
② 空気汚染物質と空気清浄（鍵）
③ 各部門における感染防止の考え方（岩堀）
④ ライフサイクルコスト低減の手法（岩堀）

４．授業に際し学生の留意点

（１）授業への準備・予習
特に必要は無いが、講義に伴う演習等の復習を必要とする。
（２）他の授業科目との関連性
「６．１ 病院設計・病院設備」は特に関連性が高いため履修していることが望ましい。また、医療の質の確保のため、施設設備と衛生管理が重要であるため、医療の質の確保と危機管理系の各科目の基礎科目として密接に関連するものである。
（３）その他
特になし。

５．学生への評価方法

出席、演習、レポートにより評価する。

６．教科書・参考書など

未定

７．ハンドアウトの有無

未定

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	10 月 9 日(火)	病院施設の汚染管理の原則	湯淺　和博	yuasa.k.aa@m.titech.ac.jp
2	10 月 10 日(水)	空気汚染物質と空気清浄	鍵　　直樹	yuasa.k.aa@m.titech.ac.jp
3	10 月 11 日(木)	各部門における感染防止の考え方	岩堀　幸司	sengoku@heart.ocn.ne.jp
4	10 月 12 日(金)	ライフサイクルコスト低減の手法	岩堀　幸司	sengoku@heart.ocn.ne.jp

系　　名	7. 経営戦略と組織管理	科目名	1. 戦略と組織
科目担当責任教員	林 大樹(一橋大学大学院社会学研究科 教授)		
授業予定年月日	平成 24 年 10 月 15～18 日	連絡先	h.hayashi@r.hit-u.ac.jp

【科目コード：４０７１】

１．科目担当教員

清 水　 洋 ： 一橋大学イノベーション研究センター 准教授

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標

次の２つの課題について、組織の責任者として自ら深く考えるための枠組みを提供すること。

① 組織のリーダーとして、組織のミッションと目標をどのように定めるか。

② 組織目標を実現していくための「戦略」をどうつくるか。

（２）授業の概要

授業は担当教員による講義といくつかのグループに分かれてのクラス討議とで構成する。

３．授業計画

講義のテーマは以下を予定している。

① 戦略の基本的な考え方

② 競争戦略のアプローチ

③ 組織の基本的な考え方

④ 組織デザイン

４．授業に際し学生の留意点

（１）授業への準備・予習

指定された読み物をきちんと読んできてください。

（２）他の授業科目との関連性

「１．２ 医療社会政策論」「１．４ 医療保険論」「８．１ 人的資源管理」「８．２ 人材の開発と活用」などと特に関連が深い。

（３）その他

特になし。

５．学生への評価方法

クラス討議への貢献度と提出レポートの評点

６．教科書・参考書など

教科書はない。参考書は授業の中で紹介する。

７．ハンドアウトの有無

有

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	10 月 15 日(月)	戦略の基本的な考え方	清水 洋	shimizu@iir.hit-u.ac.jp
2	10 月 16 日(火)	競争戦略のアプローチ	清水 洋	shimizu@iir.hit-u.ac.jp
3	10 月 17 日(水)	組織の基本的な考え方	清水 洋	shimizu@iir.hit-u.ac.jp
4	10 月 18 日(木)	組織デザイン	清水 洋	shimizu@iir.hit-u.ac.jp

系　　名	7．経営戦略と組織管理	科目名	2．財務･会計
科目担当責任教員	荒井 耕(一橋大学大学院商学研究科 教授)		
授業予定年月日	平成 24 年 10 月 22～25 日	連絡先	ko.arai@srv.cc.hit-u.ac.jp

【科目コード：４０７２】

１．科目担当教員

荒 井　 耕　：　一橋大学大学院商学研究科 教授

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標

医療界における管理会計について理解を深める。

（２）授業の概要

まず管理会計の基礎的内容について講義し、次いで医療界におけるバランスト・スコアカード、原価企画（価値企画)、原価計算について詳細に議論する。

３．授業計画

① 管理会計の基礎（管理会計とは、バランスト・スコアカードや原価計算の基礎など）
② 医療界におけるバランスト・スコアカード
③ 医療界における原価企画（医療サービス価値企画）
④ 医療界における原価計算

４．授業に際し学生の留意点

（１）授業への準備・予習

あらかじめテキストをよんでおくこと。

（２）他の授業科目との関連性

「７．１ 戦略と組織」の授業をよく理解しておくとよい。

（３）その他

特になし。

５．学生への評価方法

授業及び教科書の熟読を踏まえた上での医療管理会計に関するレポートで評価。

６．教科書・参考書など

教科書：荒井 耕「医療バランスト・スコアカード:英米の展開と日本の挑戦」（中央経済社）2005年
荒井 耕「医療原価計算：先駆的な英米医療界からの示唆」（中央経済社）2007年
荒井 耕「病院原価計算：医療制度適応への経営変革」（中央経済社）2009年
荒井 耕「医療サービス価値企画：診療プロトコル開発を通じた費用対成果の追求」（中央経済社）2011年
をテキストとする。

７．ハンドアウトの有無

未定

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	10 月 22 日(月)	管理会計の基礎	荒井 耕	ko.arai@srv.cc.hit-u.ac.jp
2	10 月 23 日(火)	医療界におけるバランスト･スコアカード	荒井 耕	ko.arai@srv.cc.hit-u.ac.jp
3	10 月 24 日(水)	医療界における原価企画(医療サービス価値企画)	荒井 耕	ko.arai@srv.cc.hit-u.ac.jp
4	10 月 25 日(木)	医療界における原価計算	荒井 耕	ko.arai@srv.cc.hit-u.ac.jp

系　　名	7. 経営戦略と組織管理	科目名	3. ロジスティクス
科目担当責任教員	圓川 隆夫(東京工業大学大学院社会理工学研究科 教授)		
授業予定年月日	平成 24 年 10 月 29～31 日, 11 月 2 日	連絡先	enkawa.t.aa@m.titech.ac.jp

【科目コード：４０７３】

１．科目担当教員

圓川　隆夫　：　東京工業大学大学院社会理工学研究科 教授
伊藤　謙治　：　東京工業大学大学院社会理工学研究科 教授

２．授業の目標・概要

（1）授業の目標
ロジスティクスについての基本的考え方とＱＣＤＥＳの管理手法

（2）授業の概要
変化の時代と言われる企業経営に不可欠なロジスティクスの概念を解説するとともに、病院経営を含むオペレーションマネジメントの立場から、原理・原則、在庫管理手法、品質マネジメント、ＩＥ的な改善手法等や人間工学的アプローチ、そしてヒューマンエラーと医療のリスクマネジメントの考え方と手法について、適用例を含めた講義を行う。

３．授業計画

① オペレーションマネジメントにおけるロジスティクスの歴史と重要性
② ＴＰＳ（トヨタ生産方式）と改善アプローチ
③ ＴＱＭ（総合的品質管理）
④ 病院経営と品質マネジメント
⑤ 病院管理におけるＩＥ・人間工学的アプローチ
⑥ ヒューマンエラーとリスクマネジメントの考え方
⑦ 他産業で行われているリスクマネジマントの方法
⑧ 医療リスクマネジメント適用例

４．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習
特になし。

（2）他の授業科目との関連性
簡単な統計や会計の知識があることが望ましい。

（3）その他
特になし。

５．学生への評価方法

授業への出席とレポート。

６．教科書・参考書など

参考書：圓川隆夫　「オペレーションズ・マネジメントの基礎」（朝倉書店）2009 年
圓川隆夫、伊藤謙治　「生産マネジメントの手法」（朝倉書店）1996 年
伊藤謙治　「高度成熟社会の人間工学」（日科技連）1997 年

７．ハンドアウトの有無

有

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	10 月 29 日(月)	ロジスティクスと TPS	圓川 隆夫	enkawa.t.aa@m.titech.ac.jp
2	10 月 30 日(火)	TQM と病院経営	圓川 隆夫	enkawa.t.aa@m.titech.ac.jp
3	10 月 31 日(水)	ヒューマンエラーとリスクマネジメント	伊藤 謙治	itoh.k.aa@m.titech.ac.jp
4	11 月 2 日(金)	医療リスクマネジメント	伊藤 謙治	itoh.k.aa@m.titech.ac.jp

系　　名	8. 人的資源管理と人材開発	科目名	1. 人的資源管理
科目担当責任教員	林 大樹(一橋大学大学院社会学研究科 教授)		
授業予定年月日	平成 24 年 11 月 5～8 日	連絡先	h.hayashi@r.hit-u.ac.jp

【科目コード：４０８１】

１．科目担当教員

林　　大 樹　：　一橋大学大学院社会学研究科 教授

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標

・人的資源管理の思想と理論の基本を理解する。

・医療の専門家人材が働く組織におけるマネジメントの役割と特徴についての理解を深める。

（２）授業の概要

上記「授業の目標」に向けて、教員による講義とグループ・ディスカッションを行う。

３．授業計画

・人的資源管理概論

・医療機関の組織特性と人的資源管理

・医療人材の特性と人的資源管理

・その他

４．授業に際し学生の留意点

（１）授業への準備・予習

指定された読み物をよく読み、ディスカッションに積極的に参加してください。

（２）他の授業科目との関連性

「７．１ 戦略と組織」「８．２ 人材の開発と活用」などの科目との関係が深い。

（３）その他

特になし。

５．学生への評価方法

クラス討議への貢献度と提出レポートの評点

６．教科書・参考書など

未定

７．ハンドアウトの有無

有

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	11 月 5 日(月)	人的資源管理の基本	林 大樹	h.hayashi@r.hit-u.ac.jp
2	11 月 6 日(火)	医療機関の人事戦略	林 大樹	h.hayashi@r.hit-u.ac.jp
3	11 月 7 日(水)	医療人材の評価と処遇	林 大樹	h.hayashi@r.hit-u.ac.jp
4	11 月 8 日(木)	医療機関の人的資源管理の諸課題	林 大樹	h.hayashi@r.hit-u.ac.jp

系　　名	8. 人的資源管理と人材開発	科目名	2. 人材の開発と活用
科目担当責任教員	田中 雄二郎(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科臨床医学教育開発学 教授)		
授業予定年月日	平成 24 年 9 月 10～11、13～14 日	連絡先	ytanaka.merd@tmd.ac.jp

【科目コード：４０８２】

1．科目担当教員

田中 雄二郎　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科臨床医学教育開発学 教授
高 橋　誠　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科臨床医学教育開発学 講師
大 岡　真 也　：　東京医科歯科大学医学部付属病院総合診療部 講師
角　勇 樹　：　東京医科歯科大学医学部付属病院臨床教育研修センター 講師
杉 山　徹　：　東京医科歯科大学医学部付属病院臨床教育研修センター 特任講師

2．授業の目標・概要

医療職は育成に多くの年月を要する。それ故、将来を見据えた人材の育成が求められている。また、医療職は激変する医療環境に適応することも職務遂行上必須である。このため人材の開発の場は、教育の初期を担う大学のみならず様々な医療機関に及び、医療管理者も無縁な存在とはなり得ない。そこで、本コースはこのような人材開発の現状分析と基本的な理論、および実践について論ずる。

3．授業計画

Ⅰ）今どのような人材を育てるべきか
医師養成に要する時間から逆算し、今育てるべき人材は何かについて情報を提供した後、討論を行う。
Ⅱ）どのように育てるべきか
前項での議論に基づき、育成方法について　従来及び海外の専門医育成制度、医局制度を分析し、これからのあり方について論ずる。
Ⅲ）医学教育の実践理論と方法
最新の医学教育の理論と方法を、施設見学などを通じて学ぶ。

4．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習
特になし。
（2）他の授業科目との関連性
「７．１ 戦略と組織」「８．１ 人的資源管理」「８．３ 医療におけるリーダーシップ論」
（3）その他
9 月 11 日の教室は別途指示されるので、連絡に注意すること。

5．学生への評価方法

レポート、出席

6．教科書・参考書など

教科書：特になし
参考書：「医学医療教育用語辞典」　日本医学教育学会　医学医療教育用語辞典編集委員会（照林社）2003 年刊
（医学教育にとどまらず医療関係のさまざま用語が解りやすく記載されている）

7．ハンドアウトの有無

当日配布予定

8．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

9．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	9 月 10 日(月)	医学教育の理論と方法論／PBL 体験①	高橋 誠	takahashi.merd@tmd.ac.jp
2	9 月 11 日(火)	スキルスラボ・e-Learning・TBL 体験	高橋 誠	takahashi.merd@tmd.ac.jp
3	9 月 13 日(木)	女性医師の活用／専門医の育成	高橋 誠	takahashi.merd@tmd.ac.jp
4	9 月 14 日(金)	PBL 体験②／医師のキャリアチェンジ	高橋 誠	takahashi.merd@tmd.ac.jp

系　　名	8. 人的資源管理と人材開発	科目名	3. 医療におけるリーダーシップ論
科目担当責任教員	田中 雄二郎（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科臨床医学教育開発学 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 11 月 12～13, 15～16 日	連絡先	ytanaka.merd@tmd.ac.jp

【科目コード：４０８３】

１．科目担当教員

田中 雄二郎　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科臨床医学教育開発学 教授
高 橋　誠　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科臨床医学教育開発学 講師
大 岡　真 也　：　東京医科歯科大学医学部付属病院総合診療部 講師
角　勇 樹　：　東京医科歯科大学医学部付属病院臨床教育研修センター 講師
杉 山　徹　：　東京医科歯科大学医学部付属病院臨床教育研修センター 特任講師

２．授業の目標・概要

病院は様々な専門職から構成される組織体であり、管理者はそれを一方向に導くことが求められる。医療制度が流動的な中、病院管理者には、先見性と統率力が求められる。大学病院および地域中核病院において行われた改革のケースを分析し方法論を抽出し、さらに近未来の医療の世界を俯瞰し求められるリーダーシップを論ずる。

３．授業計画

Ⅰ）リーダーシップとは
リーダーシップに関する一般論を提供した後、医療におけるその特殊性について討論を行う。

Ⅱ）リーダーシップを発揮するための方法について
前項での議論に基づき、いかに効果的にリーダーシップを発揮するかについて、①現状分析、②ネットワーク形成、③目標の確立、④意識改革、⑤組織変更について論ずる。

Ⅲ）リーダーシップの実践について
リーダーシップのあり方は、リーダー自身の個性、能力により様々な形態をとることを Case Study を通じて論ずる。

４．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習
特になし。

（2）他の授業科目との関連性
「７．１ 戦略と組織」「８．１ 人的資源管理」「８．２ 人的資源管理と人材開発」

（3）その他
討論を主体とするため、教室の変更もあり得るので連絡に注意すること。

５．学生への評価方法

レポート、出席

６．教科書・参考書など

小倉昌男 「経営学」（日経ＢＰ社）1999 年刊

７．ハンドアウトの有無

当日配布予定

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	11 月 12 日(月)	リーダーシップ総論	高橋 誠	takahashi.merd@tmd.ac.jp
2	11 月 13 日(火)	ケーススタディ	高橋 誠	takahashi.merd@tmd.ac.jp
3	11 月 15 日(木)	病院管理者に求められるリーダーシップ	高橋 誠	takahashi.merd@tmd.ac.jp
4	11 月 16 日(金)	討論まとめ	高橋 誠	takahashi.merd@tmd.ac.jp

系　　名	9. 医療における情報発信	科目名	1. 医療とコミュニケーション
科目担当責任教員	宇佐美 まゆみ（東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 6 月 11～14 日	連絡先	usamima@tufs.ac.jp

【科目コード：４０９１】

1．科目担当教員

宇佐美 まゆみ　：　東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授
岡 田　昭 人　：　東京外国語大学大学院総合国際学研究院 准教授
谷 口　龍 子　：　東京外国語大学国際日本研究センター 准教授

2．授業の目標・概要

（1）授業の目標

- 「コミュニケーション」というものを理論的に捉える視点を養う。
- 医療現場で問題となっているコミュニケーションのあり方を語用論、社会心理学、及び、対人コミュニケーション、異文化間コミュニケーション理論の観点から批判的に捉える視点を養う。
- 語用論、対人コミュニケーション、異文化間コミュニケーションに関する理論を、実際の医療現場のコミュニケーションのあり方の改善、及び、教育に役立たせる方法を考える。
- 医療コミュニケーションに関する研究を概観することによって、どのような問題があるのか、理想的な医療コミュニケーションとは何かといったことを考える。

（2）授業の概要

最近、「インフォームド・コンセント」という言葉はよく取り上げられるようになってきたが、医療現場では、その他様々なタイプのコミュニケーションを円滑に行うことが不可欠である。医療現場は、まさに「人と人とのコミュニケーション」の現場でもあるのである。本講義では、このような認識に基づいた上で、「語用論」、「対人コミュニケーション論」、「異文化間コミュニケーション論」などの基礎的部分を概観する。それらを踏まえたうえで、「実際の医療コミュニケーションに関する研究」などを紹介し、「医療とコミュニケーション」について、理論的、実践的な観点から考察する。

3．授業計画

３名の講師によるリレー講義形式で行う。

第１日目 … 谷口 龍子

話し手の意図と聞き手の解釈に「ずれ」が生じた場合にコミュニケーションが取れないということになる。また、双方が「ずれ」に気付かないまま、良好な人間関係の維持に支障をきたしてしまう場合もある。本講義では、語用論の発話行為と発話解釈に関する理論を紹介した上で、どのような言語表現の使用により「ずれ」が生じるのか、あるいは、「ずれ」を防ぐことができるのか、といった点について、医療従事者と患者の会話例を挙げながら具体的に検討してゆく。

第２日目 … 岡田 昭人

本講義では「異文化コミュニケーション」の諸理論を概観した上で、実例やケーススタディを参加者と議論しながら理解することを目的としている。 人は異なる文化を持つ国で生活をするとき、どのような文化的摩擦を経験し、そしてどのように心理的な適応をするのであろうか。 また人々は言語や非言語のコミュニケーションをする上で、どのような文化の違いの「罠」におちるのであろうか。 本講義は、パワーポイントを用いたレクチャーと参加者とのディスカッションなどを通じて、医療現場で起こりうる異文化コミュニケーションに関する様々な問題について検討する。

第３日目 … 宇佐美まゆみ

円滑な人間関係の確立・維持のための言語ストラテジーの体系としての「ポライトネス理論」、それを発展させた対人コミュニケーション論としての「ディスコース・ポライトネス理論」を紹介することによって、対人コミュニケーションの本質とそれに関する理論を理解する。その上で、患者、高齢者との接し方などについての医療現場における事例を、対人コミュニケーション理論の枠組みで考える。

第４日目 … 宇佐美まゆみ（２限目は、宇佐美まゆみ，谷口龍子，岡田昭人）

医療コミュニケーション研究のいくつかを紹介し、実際の医療現場のコミュニケーションのあり方の改善、及び、教育に役立つ具体的な方法について考える。また、最後には、これまでの３日間で扱った題材を振り返りながら、医療現場にかかわるコミュニケーションや、コミュニケーション理論の医療現場への適用法などについて、講師全員と受講生とで発表や討議を行うことを考えている。

4．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

毎回、指定された論文等を事前に読んでくることが前提となる。授業には、討議を積極的に取り入れたい。

（2）他の授業科目との関連性

特になし。

（3）その他

「コトバを用いる」ということの意味、言語と社会の問題、そして、「医療とコミュニケーション」を、常識や経験を一旦捨てて、語用論、対人コミュニケーション論、異文化間コミュニケーションなどの観点から論理的に考えてみるという姿勢で臨んでいただきたい。

5．学生への評価方法

出席、積極的発言などの授業への貢献度、最終レポートなどによって総合的に評価する。
尚、出席率が５０％に満たない場合は、レポートを提出することができず、不可となるので、注意すること。

6．教科書・参考書など

教科書：特になし
参考書：授業中に指示する

7．ハンドアウトの有無

有

8．講義で使用するメディアの種別

スライド、ＰＣ＋プロジェクター、ビデオ

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	6 月 11 日(月)	前項に記載	谷口　龍子	ryukota@tufs.ac.jp
2	6 月 12 日(火)	前項に記載	岡田　昭人	aokada@tufs.ac.jp
3	6 月 13 日(水)	前項に記載	宇佐美 まゆみ	usamima@tufs.ac.jp
4	6 月 14 日(木)	前項に記載	宇佐美 まゆみ 谷口　龍子 岡田　昭人	usamima@tufs.ac.jp ryukota@tufs.ac.jp aokada@tufs.ac.jp

系　　名	9. 医療における情報発信	科目名	2. ヘルスリテラシーと啓発論
科目担当責任教員	奈良 信雄（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科臨床検査医学分野 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 12 月 3～6 日	連絡先	nara.mlab@tmd.ac.jp

【科目コード：４０９２】

1．科目担当教員

奈良　信雄　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科臨床検査医学分野 教授
宮崎　　滋　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科臨床検査医学分野 非常勤講師
金子　英司　：　東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター 准教授

2．授業の目標・概要

（1）授業の目標
・医学情報の伝達手段
・マスコミへの情報提供
・患者教育
・健康についての社会教育

（2）授業の概要
講義と演習を交えて授業を行う。

3．授業計画

・検診と人間ドックの意義と効果
・患者教育論
・社会教育

4．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習
特になし。

（2）他の授業科目との関連性
情報・記号・言語

（3）その他
特になし。

5．学生への評価方法

研究発表・レポート

6．教科書・参考書など

参考書：奈良信雄 著「問われる医療システムと医師の資質：地獄の沙汰も医者しだい」（集英社）2000年
奈良信雄 著「ホームドクターを探せ！」（宝島新書）2001年
奈良信雄 著「一滴の血液で体はここまで分かる」（ＮＨＫ出版）生活人新書

7．ハンドアウトの有無

なし

8．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

9．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	12 月 3 日(月)	ヘルスリテラシー概論	奈良 信雄	nara.mlab@tmd.ac.jp
2	12 月 4 日(火)	メタボリックシンドローム対策	宮崎 滋	nara.mlab@tmd.ac.jp
3	12 月 5 日(水)	健康診断･臨床検査	奈良 信雄	nara.mlab@tmd.ac.jp
4	12 月 6 日(木)	演習	奈良 信雄	nara.mlab@tmd.ac.jp

系　　名	9. 医療における情報発信	科目名	3. 医学概論
科目担当責任教員	高瀬 浩造（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 5 月 7, 9, 10, 11 日	連絡先	ktakase.rdev@tmd.ac.jp

【科目コード：４０９３】

１．科目担当教員

高 瀬　浩 造　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授

２．授業の目標・概要

（1）授業の目標

① 非医療系の出身者にとっての医学・医療の概要を理解する。
② 医学と他の自然科学との相違点を確認する。
③ 医療においてどのように決定がなされるのかについて検討する。
④ 医療における診断と治療を実施する上での問題点について検討する。
⑤ 日本における医療が受けているストレスについて説明できるようになる。
⑥ 最低限必要な研究計画立案、論文作成の基礎を習得する。

（2）授業の概要

現在の日本の高等教育課程においては、医歯学・薬学・看護学などの臨床にかかわる分野に進学しない限り、医学の概要を学ぶことができないという現状がある。このことは、社会が医学ひいては医療を誤解する誘因となっているとも考えられる。医療管理政策学コースにおいては、入学者は必ずしもこの医療系の出身者ばかりではないため、医療人の思考過程の根底また価値判断の背景が理解しにくいという問題がある。この科目では、短時間の教育により医学の学問的概要と医療の実践的過程を解説し、必要最小限の理解を得ることを目的とする。これにより、一般社会と医学・医療との認識の隔たりの原因を探求するとともに、医療管理政策学を学習する上での医療の前提条件あるいは医学のコンセンサス形成の実態を習得する。この科目は、非医療系の出身者にとっては必須のものであると考えるが、医療系出身者にとっても、医学・医療の背景を整理する上で有意義かもしれない。

３．授業計画

① 自然科学の中での医学の特徴
② サービス業としてみた医療の特徴
③ 診断学概要
④ 治療学概要
⑤ 医療にかかわる死生観
⑥ 医療と患者のリスク共有
⑦ 医療における情報
⑧ 医療のメンタリティー
⑨ 研究計画立案、概念分析、論文作成法

４．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

特に無いが、医療についての自分なりの考えを持っておくこと。

（2）他の授業科目との関連性

特にない。

（3）その他

積極的な議論参加が要求される。

５．学生への評価方法

出席およびレポートを予定

６．教科書・参考書など

講義中に紹介予定

７．ハンドアウトの有無

有。

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	5 月 7 日(月)	医学･医療の特徴	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
2	5 月 9 日(水)	診断学･治療学概要	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
3	5 月 10 日(木)	日本の医療の問題	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
4	5 月 11 日(金)	概念分析･論文作成法	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp

系　　名	10. 臨床疫学	科目名	1. 臨床研究・治験
科目担当責任教員	安原 眞人（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科薬物動態学分野 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 12 月 11～14 日	連絡先	yasuhara.mpha@tmd.ac.jp

【科目コード：４１０１】

１．科目担当教員

津谷 喜一郎　：　東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学 教授
高瀬　浩造　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授
小池　竜司　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科薬害監視学 准教授

２．授業の目標・概要

（1）授業の目標

・エビデンス・ベースト・メディスン（ＥＢＭ）と医療疫学の概念を理解する。
・ＥＢＭのための臨床研究デザインと統計学的背景を理解する。
・臨床研究・治験の現状と問題点を検討する

（2）授業の概要

ＥＢＭと医療疫学の概念、データベースの利用方法について講述する。臨床研究における無作為コントロール試験、症例対照研究、コホート研究、メタアナリシスの各研究デザインについて解説する。臨床疫学研究における生物学的バイアスの概念を講述し、臨床研究・治験の具体例を紹介し、問題点を検討する。

３．授業計画

・臨床研究のデザイン、プラセボ
・生物学的バイアスと交絡
・臨床研究・治験の管理と実践

４．授業に際し学生の留意点

（1）授業への準備・予習

特になし。

（2）他の授業科目との関連性

「１０．２ 健康情報データベースと統計分析」と関連する。

（3）その他

特になし。

５．学生への評価方法

出席とレポートによる。

６．教科書・参考書など

特になし。

７．ハンドアウトの有無

未定

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	12 月 11 日(火)	臨床研究のデザイン(1)	津谷 喜一郎	tsutanik@gmail.com
2	12 月 12 日(水)	生物学的バイアスと交絡	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
3	12 月 13 日(木)	臨床研究のデザイン(2)	津谷 喜一郎	tsutanik@gmail.com
4	12 月 14 日(金)	臨床研究・治験の管理と実践	小池 竜司	koike.rheu@tmd.ac.jp

系　　名	10. 臨床疫学	科目名	2. 健康情報データベースと統計分析
科目担当責任教員	高瀬 浩造（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授）		
授業予定年月日	平成 24 年 12 月 17～20 日	連絡先	ktakase.rdev@tmd.ac.jp

【科目コード：４１０２】

１．科目担当教員

高瀬　浩造　：　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授
水嶋　春朔　：　横浜市立大学大学院情報システム予防医学部門 教授

２．授業の目標・概要

（１）授業の目標

・医療管理・政策に必要な統計学の基本を理解する。
・臨床疫学に必要な記述統計的手法を説明できる。
・臨床推論における主観確率論を理解する。
・研究における質保証に係わる統計的手法について説明できる。
・行政の実施している各種衛生統計の意義を説明できる。
・最新の医療・健康情報を収集し、科学的に解釈することができる。

（２）授業の概要

基本知識としての統計学的技法を説明した後、生物統計における２つの異なる潮流、すなわちピアソン型の質管理を重視した記述統計学とベイズ型の主観確率を重視した統計学について理解を深める。応用として医療政策の前提となる、診断、治療、医療の質の評価、医療の安全性、疫学、健康情報データベースにかかわる情報を収集して、的確に解釈し意思決定に反映させるための基礎知識と技術、統計法、公的統計の体系と整備について概説する。また、健康情報データベースによる根拠に基づいた健康政策のありかたについて議論する。

３．授業計画

① 医学基本統計学
② 生物統計学におけるピアソン統計学とベイズ統計学
③ デジタルデータとアナログデータ
④ 衛生統計学と健康情報データベースに基づく政策決定

４．授業に際し学生の留意点

（１）授業への準備・予習

基礎的な基本統計学の知識を前提としている。

（２）他の授業科目との関連性

すべての医療系分野、特に医療疫学と密接に関連する。「９．３ 医学概論」の概念分析とも関連する。

（３）その他

特になし。

５．学生への評価方法

平常点および小課題への取り組みになどより総合的に評価する。

６．教科書・参考書など

教科書：統計学の教科書は特に指定しないが、各自で準備すること。
参考書：上畑鉄之丞 監訳「根拠に基づく健康政策のすすめ方」（医学書院）2003 年

７．ハンドアウトの有無

有

８．講義で使用するメディアの種別

ＰＣ＋プロジェクター、他

９．日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	12 月 17 日(月)	根拠に基づく健康政策	水嶋 春朔	shunsaku@yokohama-cu.ac.jp
2	12 月 18 日(火)	基本統計学	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
3	12 月 19 日(水)	統計学的推論・検定	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
4	12 月 20 日(木)	統計学の応用	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp

６．諸規則

○東京医科歯科大学大学院学則

（平成16年４月１日
規　程　第　５　号）

第１章　総則

第１条　本学大学院は医学、歯学及びそれらの相互関連領域に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。

２　研究科ごとにおける人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、当該研究科等において別に定める。

第２条　本学大学院に、次の課程を置く。

⑴　医学又は歯学を履修する修士課程及び博士課程

⑵　前期２年及び後期３年に区分して履修する博士（前期・後期）課程（以下、区分する場合は、前期２年の課程を「博士（前期）課程」、後期３年の課程を「博士（後期）課程」という。）

２　修士課程及び博士（前期）課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

３　博士課程及び博士（後期）課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

４　博士（前期）課程は、これを修士課程として取扱う。

第２章　組織

第３条　本学大学院に、国立大学法人東京医科歯科大学組織運営規程（平成16年規程第１号）の定めるところにより、次の研究科を置く。

医歯学総合研究科

保健衛生学研究科

第３条の２　本学大学院に、学外研究機関等の研究者等と連携して大学院教育を行う連携大学院実施のため、連携大学院分野を置くことができる。

２　連携大学院分野については、別に定める。

第４条　医歯学総合研究科に、次の課程、専攻及び講座を置く。

課　　程	専　　攻　　名	講　　座　　名
修　士　課　程	医歯理工学	
博　士　課　程	医歯学系	口腔機能再構築学 顎顔面頸部機能再建学 生体支持組織学 環境社会医歯学 老化制御学 全人的医療開発学 認知行動医学

		生体環境応答学 器官システム制御学 先端医療開発学
	生命理工学系	生命理工学

2　医歯学総合研究科医歯理工学専攻に、医療管理政策学コースを置く。

3　前項の医療管理政策学コースは、これを次のコースに区分するものとする。

⑴　医療管理学コース

⑵　医療政策学コース

第５条　保健衛生学研究科に、次の課程、専攻及び講座を置く。

課　　程	専　　攻　　名	講　　座　　名
博士（前期･後期）課程	総合保健看護学	地域・在宅ケア看護学 看護機能・ケアマネジメント開発学 健康教育開発学
	生体検査科学	生命情報解析開発学 分子・遺伝子応用検査学

第３章　収容定員

第６条　本学大学院の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

⑴　医歯学総合研究科

区　　分	専　　攻　　名	入学定員	収容定員
修　士　課　程	医歯理工学 （医療管理学コース） （医療政策学コース）	110 （5） （10）	215 （5） （20）
博　士　課　程	医歯学系 生命理工学系	189 25	756 75
備考　括弧内の数字は、医療管理政策学コースに係る定員の数を内数で示す。			

⑵　保健衛生学研究科

区　　分	専　　攻　　名	入学定員	収容定員
博士（前期）課程	総合保健看護学	17	34
	生体検査科学	12	24
博士（後期）課程	総合保健看護学	8	24
	生体検査科学	6	18

第４章　修業年限等

第７条　本学大学院の標準修業年限は、修士課程及び博士（前期）課程においては２年（第４条第３項第１号の医療管理学コースにおいては１年）とし､博士課程（生命理工学系専攻を除く｡）においては４年とし、博士（後期）課程及び博士課程生命理工学系専攻においては３年とする。

第８条　学生は、指導教員及び研究科長を経て、学長の許可を受け、在学期間を前条各課程の標準修業年限の２倍まで延長することができる。

第５章　学年、学期

第９条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

第10条　学年を分けて、次の学期とする。

前期　４月１日から９月30日まで

後期　10月１日から３月31日まで

第６章　授業科目、履修方法及び単位等

第11条　本学大学院において開設する授業科目及びその単位数については、別に定める。

第11条の２　１単位の授業科目を、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、１単位当たりの授業時間を次の基準により、各研究科において別に定める。

⑴　講義及び演習については、15時間から30時間の範囲

⑵　実験及び実習については、30時間から45時間の範囲

第12条　学生は、指導教員の指示に従って、授業科目の授業及び必要な研究指導を受けなければならない。

第13条　学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、当該研究科において支障のない場合に限り、その計画的な履修（次項において「長期履修」という。）を認めることがある。

２　長期履修の取扱いに関し必要な事項は、当該研究科が定める。

第７章　他の研究科又は大学院等における修学及び留学

第14条　学生が、本学大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第15条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。）を本学大学院の研究科において教育上有益と認めるときは、本学大学院に入学した後の当該研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

２　前項により修得したものとみなすことのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学大学院の当該研究科において修得した単位以外のものについては、合わせて10単位を超えないものとする。

第14条の２　本学大学院の研究科において教育上有益であると認めるときは、あらかじめ本学大学院の他の研究科と協議のうえ、学生が当該他の研究科の授業科目を履修すること又は当該他の研究科において研究指導の一部を受けることを認めることがある。

２　前項の規定により履修した他の研究科の授業科目について修得した単位は、10単位を限度として、学生の所属する研究科において履修した単位とみなす。

３　第１項の規定により受けた研究指導は、学生の所属する研究科において受けた研究指導とみなす。

第15条　学生が、他の大学院の授業科目を履修することが教育上有益であると本学大学院の研究科において認めるときは、あらかじめ当該他の大学院と協議のうえ、学生が当該他の大学院の授業科目を履修するこ

とを認めることがある。
2　前項の規定により履修した他の大学院の授業科目について修得した単位は、10単位を限度として、本学大学院の研究科において修得した単位とみなす。

第16条　学生が他の大学院、研究所又は高度の水準を有する病院（以下「他の大学院等」という。）において研究指導を受けることが教育上有益であると本学大学院の研究科において認めるときは、あらかじめ、当該他の大学院等と協議のうえ、学生が当該他の大学院等において研究指導の一部を受けることを認めることがある。ただし、修士課程及び博士（前期）課程の学生にあっては、その期間は１年を超えないものとする。
2　前項の規定により受けた研究指導は、本学大学院の研究科において受けた研究指導とみなす。

第17条　学生が外国の大学院又はこれに相当する高等教育機関等（以下「外国の大学院等」という。）において修学することが教育上有益であると研究科において認めるときは、あらかじめ、当該外国の大学院等と協議のうえ、学生が当該外国の大学院等に留学することを認めることがある。ただし、やむを得ない事情により、当該外国の大学院等とあらかじめ協議を行うことが困難な場合には、留学を認めた後に当該協議を行うことができる。
2　前項の規定により留学した期間は、在学年数に算入する。
3　第１項の規定により留学して得た修学の成果は、本学大学院の研究科において修得した単位（10単位を限度とする。）又は受けた研究指導とみなす。

第８章　課程修了の要件等

第18条　各授業科目の履修の認定は、試験又は研究報告等により、授業科目担当教員が学期末又は学年末に行う。

第19条　各授業科目の成績は、秀、優、良、可、不可の５種とする。

第20条　修士課程及び博士（前期）課程を修了するためには、本学大学院修士課程又は博士（前期）課程に２年（第４条第３項第１号の医療管理学コースにおいては１年）以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者と研究科委員会において認めた場合には、１年以上在学すれば足りるものとする。
2　前項の場合において、修士課程及び博士（前期）課程の目的に応じ研究科委員会において適当と認めるときは、特定の課題についての研究成果の審査をもって学位論文の審査に代えることができる。
3　博士課程（生命理工学系専攻を除く。）を修了するためには、本学大学院博士課程に４年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者と研究科委員会において認めた場合には、３年以上在学すれば足りるものとする。
4　博士（後期）課程及び博士課程生命理工学系専攻を修了するためには、本学大学院博士（後期）課程及び博士課程生命理工学系専攻に３年以上在学し、所定の授業科目について保健衛生学研究科にあっては12単位以上、博士課程生命理工学系専攻にあっては20単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者と研究科委員会において認めた場合には、１年（２年未満の在学期間をもって

修士課程を修了した者にあっては、当該在学期間を含めて３年）以上在学すれば足りるものとする。

第21条　学位論文の審査及び最終試験に関することは、東京医科歯科大学学位規則（平成16年規則第56号。以下「学位規則」という。）に定めるところにより行うものとする。

第９章　学位

第22条　本学大学院を修了した者には、次の区分により修士又は博士の学位を授与する。

区　　分		学　　位
医歯学総合研究科	修士課程（医療管理政策学コースを除く。）	修士（医科学） 修士（歯科学） 修士（理学） 修士（工学） 修士（口腔保健学）
	修士課程（医療管理政策学コース）	修士（医療管理学） 修士（医療政策学）
	博士課程（生命理工学系専攻を除く。）	博士（医学） 博士（歯学） 博士（学術）
	博士課程（生命理工学系専攻）	博士（理学） 博士（工学）
保健衛生学研究科	博士（前期）課程	修士（看護学） 修士（保健学）
	博士（後期）課程	博士（看護学） 博士（保健学）

第23条　大学院学生以外の者で、博士の学位を請求して論文を提出する者があるときは、学位規則の定めるところにより、これを受理するものとする。

２　前項の論文の審査は、本学学位規則の定めるところによりこれを行い、その審査に合格し、かつ、専攻学術に関し、大学院の博士課程修了者と同様に広い学識を有することが試問により確認された者には、博士の学位を授与する。

第10章　入学、休学、転学、退学

第24条　入学の時期は、毎年度学年始めとする。ただし、本学大学院において必要があるときは、学期の始めに入学させることができる。

第25条　修士課程及び博士（前期）課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

⑴　大学（短期大学を除く。）を卒業した者

⑵　学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第４項の規定により学士の学位を授与された者

⑶　外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

⑷　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教

育における16年の課程を修了した者
⑸　文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第５号）
⑹　大学に３年以上在学し、又は、外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
⑺　本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者
⑻　その他本学大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
２　博士課程（生命理工学系専攻を除く）に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
⑴　大学の医学、歯学、薬学又は獣医学（６年の課程）を履修する課程を卒業した者
⑵　外国において、学校教育における18年の課程を修了した者
⑶　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育おける18年の課程を修了した者
⑷　文部科学大臣の指定した者（昭和30年文部省告示第39号）
⑸　大学（医学、歯学、薬学又は獣医学（６年の課程））に４年以上在学し、又は、外国において学校教育における16年の課程（医学、歯学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
⑹　本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者
⑺　その他本学大学院において、大学の医学、歯学及び獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
３　博士（後期）課程及び博士課程生命理工学系専攻に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
⑴　修士の学位を有する者
⑵　外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
⑶　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者
⑷　文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
⑸　本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者
⑹　その他本学大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

第26条　入学検定は、人物、学力及び身体について行うものとする。ただし、学力検査は試験検定とし、試験の方法は、その都度定める。

第27条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、定められた期日までに所定の書類を提出するとともに、入学料を納付するものとする。ただし、第41条の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請し受理された者にあっては、当該免除又は徴収猶予を許可し又は不許可とするまでの間、入学料の徴収を猶予する。
２　学長は、前項の手続を完了した者に入学を許可する。

第28条　学長は、本学大学院を退学した者が、再入学を願い出たときは、選考のうえ、許可することがある。
２　前項に関し必要な事項は、当該研究科が別に定める。

第29条　学生が病気その他の事由により、３ケ月以上休学しようとするときは、医師の診断書又は詳細な理由書を添え、保証人連署で学長に願出て許可を受けなければならない。

第30条　前条による休学者で休学期間中にその事由が消滅したときは、保証人連署で復学を願出ることができる。

第31条　休学は、１年を超えることはできない。ただし、特別の事由があるときは、更に１年以内の休学を許可することがある。休学期間は修業年数に算入しない。

第32条　学長は、特に必要と認めたものには休学を命ずることがある。

第33条　学長は、他の大学院に在学する者が、本学大学院に転学を願い出たときは、選考のうえ、許可することがある。

２　前項に関し、必要な事項は、当該研究科委員会が別に定める。

第34条　学生が、他の大学院に転学しようとするときは、その理由を具して学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

第35条　学生が病気その他の事由で退学しようとするときは保証人連署で学長に願出てその許可を受けなければならない。

第36条　学長は学生が病気その他の事由で成業の見込がないと認めたときは、退学を命ずることがある。

第11章　入学検定料、入学料及び授業料

第37条　授業料、入学料及び検定料の額については、別に定める。

第38条　入学志願者は、出願と同時に検定料を納付しなければならない。

第39条　授業料は、次の２期に分けて納付しなければならない。

前期　　４月中

後期　　10月中

２　前項の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収するものとする。

３　入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については、第１項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があったときは、入学を許可するときに徴収するものとする。

４　第１項の授業料納入の告知・督促は、所定の場所（大学院掲示板）に掲示するものとする。

第40条　既納の料金はいかなる事由があっても返還しない。

２　前条第３項の規定に基づき授業料を納付した者が、入学年度の前年度の３月31日までに入学を辞退した場合には、前項の規定にかかわらず、納付した者の申出により当該授業料に相当する額を返還する。

３　前条第２項及び第３項の規定に基づき授業料を納付した者が、後期分授業料の徴収時期以前に休学又は退学した場合には、第１項の規定にかかわらず、後期分の授業料に相当する額を返還する。

第41条　本学大学院に入学する者であって経済的理由によって入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者並びに前記に該当しない者であっても、本学大学院に入学前１年以内において、入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は入学する者若しくはその者の学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる者及び当該者に準ずる者であって、学長が相当と認める事由がある者については、本人の申請により、入学料の全額又は半額を免除することがある。

２　本学大学院に入学する者であつて、経済的理由によつて納付期限までに入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者、入学前１年以内において学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる者及びその他やむを得ない事情があると認められる者については、本人の申請により入学料の徴収猶予をすることがある。

３　入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかつた者又は半額免除を許可された者のうち、前項に該当する者は、免除の許可を告知した日から起算して14日以内に徴収猶予の申請をすることができる。

４　前３項の取扱いについては、別に定める。

第42条　停学に処せられた者の授業料は徴収するものとする。

第43条　行方不明、その他やむを得ない事由がある者の授業料は本人又は保証人の申請により徴収を猶予することがある。

第44条　死亡又は行方不明のため除籍され、或は授業料の未納を理由として退学を命ぜられた者の未納の授業料は全額を免除することがある。

第45条　毎学期開始前に休学の許可を受けた者及び休学中に休学延期の許可を受けた者の休学中の授業料は免除する。

２　各学期の中途で復学する者のその期の授業料は、復学当月からつぎの授業料徴収期の前月まで、月割計算により復学の際徴収する。

第46条　経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者及び学生又は学生の学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難と認められる者については、本人の申請により授業料の全額若しくはその一部を免除又は徴収猶予することがある。

２　前項の取扱については別に定める。

第47条　入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかった者又は半額免除を許可された者が、納付すべき入学料を免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に納付しない場合は、除籍する。ただし、第41条第３項の規定により徴収猶予の申請をした者を除く。

２　入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可されなかつた者が、納付すべき入学料を徴収猶予の不許可を告知した日から起算して14日以内に納付しない場合は、除籍する。

３　入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可された者が、納付期限までに入学料を納付しない場合は、除籍する。

第48条　授業料を所定の期間内に納入しない者で、督促を受け、なおかつ怠る者は退学を命ずる。

２　前項の督促は文書をもってするものとする。

第12章　外国人留学生

第49条　外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学大学院に入学を志願する者があるときは、本学大学院の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することがある。

2　その他外国人留学生については、別に定める。

第13章　特別聴講学生及び特別研究学生

第50条　他の大学院の学生又は外国の大学院等の学生で、本学大学院の授業科目の履修を志願する者があるときは、当該他の大学院又は外国の大学院等と協議して定めるところにより、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2　特別聴講学生の受入れの時期は、学期の始めとする。ただし、当該特別聴講学生が外国の大学院等の学生で、特別の事情がある場合の受入れの時期は、研究科においてその都度定めることができる。

3　その他特別聴講学生については、別に定める。

第51条　他の大学院の学生又は外国の大学院等の学生で、本学大学院において研究指導を受けることを志願する者があるときは、当該他の大学院又は外国の大学院等と協議して定めるところにより、特別研究学生として入学を許可することがある。

2　特別研究学生の受入れの時期は、原則として、学期の始めとする。

3　その他特別研究学生については、別に定める。

第52条　この章又は細則に定めるものを除くほか、特別聴講学生及び特別研究学生の取扱いについては、この学則（特別聴講学生又は特別研究学生が外国人である場合には、東京医科歯科大学外国人留学生規則（平成16年規則第182号）を含む。）の大学院学生に関する規定を準用する。

第14章　科目等履修生及び聴講生

第53条　本学大学院が開設する一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

第54条　前項により入学した者には、第18条の規定を準用し、単位を与える。

第55条　その他科目等履修生については、別に定める。

第55条の２　本学大学院が開設する授業科目中、特定の授業科目について聴講を志願する者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。

2　その他、聴講生については、別に定める。

第15章　大学院研究生

第56条　本学大学院教員の指導を受け、特定の専門事項について研究しようとする者は、選考の上、大学院研究生として入学を許可することがある。

2　その他大学院研究生については、別に定める。

第16章　教員組織

第57条　大学院の授業及び研究指導を担当する教員は、当該研究科委員会等の議を経て、学長が命ずる。

第17章　雑則

第58条　この学則に定めるもののほか、大学院学生に関し必要な事項については、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第４号）を準用する。

附　則

1　この学則は、平成16年４月１日から施行する。

（省略）

附　則（平成22年３月30日規程第４号）

1　この学則は平成22年４月１日から施行する。

2　平成22年３月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成22年12月22日規程第11号）

この学則は、平成22年12月22日から施行し、平成22年10月１日から適用する。

附　則（平成23年４月１日規程第２号）

1　この学則は、平成23年４月１日から施行する。

2　第８条第１号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科博士課程の平成23年度から平成25年度の収容定員は、それぞれ次のとおりとする。

区　分	専　攻　名	収容定員		
		平成23年度	平成24年度	平成25年度
博士課程	口腔機能再構築学系	171	174	177
	顎顔面頸部機能再建学系	116	112	108
	生体支持組織学系	69	66	63
	環境社会医歯学系	79	78	77
	老化制御学系	46	52	58
	全人的医療開発学系	33	34	35
	認知行動医学系	74	72	70
	生体環境応答学系	66	64	62
	器官システム制御学系	116	116	116
	先端医療開発学系	86	88	90

3　第21条の規定にかかわらず、平成23年３月31日において現に本大学院に在学する者（以下「在学者」と

いう。）及び平成23年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、なお従前の例による。

附　則（平成23年12月16日規程第９号）

この学則は、平成24年４月１日から施行する。

附　則（平成24年３月31日規程第２号）

1　この学則は、平成24年４月１日から施行する。

2　平成24年３月31日において現に本学大学院に在学する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

3　改正後の第６条第１号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科修士課程の平成24年度の収容定員、医歯学総合研究科博士課程医歯学系専攻の平成24年度から平成26年度までの収容定員並びに医歯学総合研究科博士課程生命理工学系専攻の平成24年度及び平成25年度の収容定員については、それぞれ次のとおりとする。

⑴　医歯学総合研究科

区　分	専　攻　名	収容定員
		平成24年度
修　士　課　程	医歯理工学 （医療管理学コース） （医療政策学コース）	110 （5） （10）

備考　括弧内の数字は、医療管理政策学コースに係る収容定員の数を内数で示す。

区　分	専　攻　名	収容定員			
		平成24年度		平成25年度	平成26年度
博　士　課　程	医歯学系	189	378	567	

区　分	専　攻　名	収容定員	
		平成24年度	平成25年度
博　士　課　程	生命理工学系	25	50

○東京医科歯科大学大学院履修規則

（平成22年３月20日
規　則　第　42　号）

（趣旨）

第１条　東京医科歯科大学大学院における授業の履修に関しては、東京医科歯科大学大学院学則（平成16年規程第５号。以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（授業科目及び履修）

第２条　本大学院の授業科目及び履修は、各研究科教授会の議を経て別表１に定めるものとする。

（授業）

第３条　授業は、講義、演習、実験若しくは実習により行い、必修、選択必修又は選択とする。

（１単位当たりの授業時間）

第４条　大学院学則第13条の２に定める１単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

（１）医歯学総合研究科

ア　講義　　15時間
イ　演習　　30時間
ウ　実験及び実習　45時間

（２）保健衛生学研究科

ア　講義　　15時間
イ　演習　　30時間
ウ　実験及び実習　45時間

（試験及び単位）

第５条　履修した授業科目については、試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

２　前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

３　実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を取得することができない。

４　実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を取得することができない。

（雑則）

第６条　この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、平成22年４月１日から施行する。

附　則（平成24年３月12日規則第33号）

１　この規則は、平成24年４月１日から施行する。

２　平成24年３月31日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

別表１

（１）大学院医歯学総合研究科修士課程医歯理工学系専攻

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
基礎科目	医歯学総合概論	2	
	初期研究研修	1	
	医歯理工学先端研究特論	1	
	人体形態学*1		1
	口腔形態学*2,*3		1
	人体機能学*1,*2,*3		1
	病理病態学*1,*2,*3		1
	環境社会医歯学*1,*2,*3		1
	病院実習		1
	口腔保健学臨地実習*3		2
専門科目	生化学		2
	薬理学		2
	免疫学		2
	発生・再生科学		2
	細胞生物学特論		1
	神経疾患特論		2
	遺伝医学特論		2
	口腔保健福祉学		2
	バイオインフォマティクス		2
	疾患オミックス情報学特論		2
	機能分子化学		2
	ケミカルバイオロジー特論		2
	ケミカルバイオロジー技術特論		2
	分子構造学特論		2
	生体材料学		2
	バイオメディカル理工学		1
	人間環境医療工学		2
	医歯薬産業技術特論		1
	英語交渉・ディベート特論		2
	研究倫理・医療倫理学		1
	トランスレーショナルリサーチ特論		2
	クリニカル・インフォマティクス特論		2
	産学リンケージ特論		2
演習・実習・研究科目	医科学演習*1		4
	医科学実習*1		4
	歯科学演習*2		4
	歯科学実習*2		4
	口腔保健学演習*3		4
	口腔保健学実習*3		4
	理工学演習*4		4
	理工学実習*4		4
	課題研究	4	
医療管理政策学科目（医療管理政策学コース）	医療提供政策論		1
	医療社会政策論		1
	世界の医療制度		1

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
	医療保険論		1
	医療保険制度改革論		1
	医療計画制度		1
	医療産業論		1
	医療経済論		1
	医療と社会の安全管理		1
	医療機関リスク管理		1
	医療のＴＱＭ		1
	医療機能評価		1
	医療制度と法		1
	医事紛争と法		1
	生命倫理と法		1
	病院情報管理学		1
	診断情報管理学		1
	ＩＴ時代の医療診断システムとセキュリティ		1
医療管理政策学科目	医療思想史		1
（医療管理政策学コース）	世界の文化と医療		1
	世界の宗教と死生観		1
	病院設計・病院設備		1
	衛生工学・汚染管理		1
	戦略と組織		1
	財務・会計		1
	ロジスティクス		1
	人的資源管理		1
	人材の開発と活用		1
	医療におけるリーダーシップ論		1
	医療とコミュニケーション		1
	ヘルスリテラシーと啓発論		1
	医学概論		1
	臨床研究・治験		1
	健康情報データベースと統計分析		1
	課題研究	8	

1　下記に示す修了要件単位を修得すること。
⑴　修士（医科学）、修士（歯科学）の修得を目指す学生は、基礎科目の必修及び選択科目から８単位以上、専門科目又は医療管理政策学科目から10単位以上、演習・実習・研究科目の必修及び選択科目から12単位を修得し、30単位以上修得すること。
⑵　修士（口腔保健学）の修得を目指す学生は、基礎科目の必修及び選択科目から10単位以上、専門科目又は医療管理政策学科目から８単位以上、演習・実習・研究科目の必修及び選択科目から12単位を修得し、30単位以上修得すること。
⑶　修士（理学）、修士（工学）の修得を目指す学生は、基礎科目の必修科目及び専門科目又は医療管理政策学科目から４単位以上、専門科目の選択科目から14単位以上、演習・実習・研究科目の必修及び選択科目から12単位を修得し、30単位以上修得すること。
⑷　修士（医療管理学）、修士（医療政策学）の修得を目指す学生は医療管理政策学科目のうち課題研究８単位及びその他の科目を22単位以上を修得し、30単位以上修得すること。

2　*1は、修士（医科学）の修得を目指す学生について必修科目とする。
3　*2は、修士（歯科学）の修得を目指す学生について必修科目とする。
4　*3は、修士（口腔保健学）の修得を目指す学生について必修科目とする。
5　*4は、修士（理学）、修士（工学）の修得を目指す学生について必修科目とする。

○東京医科歯科大学学位規則

（平成16年４月１日
規　則　第　56　号）

（目的）

第１条　この規則は、学位規則（昭和28年文部省令第９号）第13条の規定に基づき、本学において授与する学位の種類、学位論文の審査及び試験の方法その他学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

（学位の種類）

第２条　本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

２　本学における学士、修士及び博士の学位には、次のとおり専攻分野の名称を付記するものとする。

学士（医学）
学士（看護学）
学士（保健学）
学士（歯学）
学士（口腔保健学）
修士（医科学）
修士（歯科学）
修士（医療管理学）
修士（医療政策学）
修士（看護学）
修士（保健学）
修士（理学）
修士（工学）
修士（口腔保健学）
博士（医学）
博士（歯学）
博士（学術）
博士（看護学）
博士（保健学）
博士（理学）
博士（工学）

（学位授与の要件）

第３条　学士の学位は、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第４号）の定めるところにより、本学を卒業した者に授与する。

２　修士の学位は、東京医科歯科大学大学院学則（平成16年規程第５号。以下「大学院学則」という。）の定めるところにより、本学大学院の修士課程及び博士（前期）課程を修了した者に授与する。

３　博士の学位は、大学院学則の定めるところにより、本学大学院の博士課程又は博士（後期）課程を修了した者に授与する。

4　前項に定めるもののほか、博士の学位は、本学大学院の行う学位論文の審査及び試験に合格し、かつ、本学大学院の博士課程又は博士（後期）課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者にも授与する。

（学位論文の提出）

第４条　前条第２項又は第３項の規定により、学位論文の審査を申請する者は、学位に付記する専攻分野の名称を指定して、学位論文に所定の書類を添えて、所属の研究科の長に提出するものとする。

2　前条第４項の規定により、学位を請求する者は、学位に付記する専攻分野の名称を指定して、学位論文に所定の書類を添えて、学長に提出するものとする。

3　前項の提出にあたっては、本学の教授又は研究科委員会の構成員である准教授の推薦を必要とする。

4　提出する学位論文は、自著一編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

5　いったん受理した学位論文（参考として添付された論文を含む。）は、返付しない。

（審査料）

第５条　第３条第４項の規定により学位を請求する者は、審査料を納付しなければならない。

2　前項の審査料の額は、別に定める。

3　既納の審査料は還付しない。

（学位論文の審査）

第６条　研究科等の長は、第４条第１項の規定により学位論文の審査の申請を受理したときは、研究科委員会等に審査を付託する。

2　学長は、第４条第２項の規定により、学位請求の申請を受理したときは、学位に付記する専攻分野の名称に応じ、関係の研究科委員会等に学位論文の審査を付託する。

第７条　前条の規定により学位論文の審査を付託された研究科委員会等は、学位論文ごとに本学の専任教員３名以上により構成される審査委員会を設けて審査を行う。

2　前項の審査委員会の委員のうち、修士に係る審査については１名以上を、博士に係る審査については２名以上を教授としなければならない。

3　研究科委員会等は、学位論文の審査（最終試験及び試験を含む。）に当たって必要と認めたときは、第１項に定める者のほか、他の大学院、研究所又は高度の水準を有する病院の教員等を審査委員会の委員に委嘱することができる。

4　審査委員会は、審査上必要があるときは、学位論文（参考として添付された論文を含む。）の訳文又は標本等の提出を求めることができる。

（最終試験又は試験等）

第８条　審査委員会は、学位論文の審査が終わった後に、当該論文を中心として、これに関連のある科目について最終試験又は試験を行う。

2　前項の最終試験又は試験の方法は、口頭又は筆答とする。

3　審査委員会は、第３条第４項の規定により学位を請求する者については、専攻学術に関し、本学大学院の博士課程又は博士（後期）課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認するため、口頭又は

筆答による試問（外国語を含む。）を行う。

4　本学大学院の博士課程に４年以上在学し、大学院学則第21条第３項に規定する博士課程における所定の単位を修得して退学した者が、本学大学院博士課程入学後10年以内に、第３条第４項の規定により学位を請求するときは、前項の試問を免除する。

5　本学大学院の博士（後期）課程に３年以上在学し、大学院学則第21条第４項に規定する博士（後期）課程における所定の単位を修得して退学した者が、本学大学院博士（後期）課程入学後８年以内に、第３条第４項の規定により学位を請求するときは、第３項の諮問を免除する。

（審査期間）

第９条　審査委員会は、その設置後、修士の学位にあっては３月以内、博士の学位にあっては１年以内に、学位論文の審査並びに最終試験又は試験及び試問を終了しなければならない。ただし、特別の事情があるときは、研究科委員会の議決によりその期間を延長することができる。

（審査委員会の報告）

第10条　審査委員会は、学位論文の審査並びに最終試験又は試験及び試問を終了したときは、すみやかにその結果を研究科委員会に報告しなければならない。

（研究科委員会等の審議）

第11条　研究科委員会は、前条の報告に基づいて、学位授与の可否について審議する。

2　前項の審議を行うには、研究科委員会委員構成員（海外渡航中の者及び休職中の者を除く。）の３分の２以上の出席を必要とする。

3　学位を授与できるものと議決するには、出席者の３分の２以上の賛成を必要とする。

（学長への報告）

第12条　研究科委員会等が、学位を授与できるものと議決したとき（第６条第２項の規定により学位論文の審査を付託された者については、学位を授与できるものと議決されなかったときを含む。）は、研究科等の長は、学位論文に学位論文の内容の要旨及び学位論文の審査の要旨並びに最終試験又は試験及び試問の成績を添えて、学長に報告しなければならない。

2　研究科委員会等が、第６条第１項の規定により、学位論文の審査を付託された者について、学位を授与できるものと議決したときは、研究科等の長は、前項に定めるもののほか、論文目録及び履歴書を添えて学長に報告しなければならない。

（学位記の授与）

第13条　学長は、第３条第１項の規定により、学士の学位を授与すべき者に学士の学位記を授与する。

2　学長は、前条の報告に基づいて、修士又は博士の学位の授与の可否について認定のうえ、学位を授与すべき者には、当該学位の学位記を授与し、学位を授与できない者には、その旨通知する。

（学位記の様式）

第14条　学位記の様式は、別紙様式第１、別紙様式第２、別紙様式第３、別紙様式第４、別紙様式第５、別紙様式第６、別紙様式第７及び別紙様式第８のとおりとする。

（博士論文要旨等の公表）

第15条　大学は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から３月以内に、その学位論文の内容の要旨及び学位論文の審査の結果の要旨を公表するものとする。

（博士論文の公表）

第16条　博士の学位を授与された者は、当該学位を授与された日から１年以内に、学位論文を印刷公表するものとする。ただし、当該学位を授与される前に既に印刷公表したときは、この限りでない。

２　前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該学位論文の全文に代えて、その内容を要約したものを印刷公表することができる。この場合、本学は、その学位論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

（学位の名称の使用）

第17条　学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、東京医科歯科大学名を付記するものとする。

（学位授与の取消）

第18条　学位を授与された者が次の各号の一に該当するときは、学長は関係の学部教授会又は研究科委員会の議決を経て、学位の授与を取り消し、学位記を返還させるものとする。

⑴　不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき

⑵　その名誉を汚す行為があったとき

２　学部教授会において前項の議決を行う場合は、教授会構成員（海外渡航中及び休職中の者を除く。）の３分の２以上の出席を必要とし、かつ無記名投票により出席者の３分の２以上の賛成を必要とする。

３　研究科委員会において第１項の議決を行う場合は、第11条第２項及び第３項の規定を準用する。

（学位授与の報告）

第19条　本学において博士の学位を授与したときは、学長は、文部科学大臣に報告するものとする。

（その他）

第20条　本規則に定めるもののほか、修士及び博士の学位論文の審査及び試験に関し必要な事項は、各研究科委員会が別に定める。

附　則

１　この規則は、平成16年４月１日から施行する。

２　この規則の施行前に廃止前の東京医科歯科大学学位規則（昭和50年学規第33号）の規定によりなされた手続その他の行為は、この規則の相当規定によりなされた手続その他の行為とみなす。

附　則（平成19年３月６日規則第３号）抄

（施行期日）

１　この規則は、平成19年４月１日から施行する。

附　則（平成22年12月22日規則第80号）

この規則は、平成22年12月22日から施行し、平成22年10月１日から適用する。

附　則（平成24年３月31日規則第43号）

１　この規則は、平成24年４月１日から施行する。

２　平成24年３月31日において現に本学大学院に在学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科委員会
修士（医科学・歯科学・口腔保健学・理学・工学）に係る学位論文審査及び試験内規

（趣旨）

第１条　この内規は、東京医科歯科大学学位規則第 20 条に基づき、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科（以下「本研究科」という。）における修士（医科学・歯科学・口腔保健学・理学・工学）の学位審査に関し必要な事項を定める。

（学位論文提出の資格）

第２条　学位論文提出の資格を有する者は、本研究科に在学する学生で、大学院学則第２条第１項第１号に規定する修士課程に１年６月以上在学し、原則として、大学院学則第２０条第１項に規定する所定の単位中２６単位以上を修得した者とする。

（学位論文）

第３条　学位論文は、単独の著作１編とし、参考論文の添付は認めない。

（学位論文に添付する書類）

第４条　学位論文に添付する書類は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1)　申請書（別紙様式 1）
(2)　履歴書（別紙様式 2）
(3)　学位論文要旨（1 千字以内）（別紙様式 3）
(4)　審査委員候補者記入表（別紙様式 4）

（学位論文の審議）

第５条　本研究科における学位論文の審議は、医歯理工学専攻修士課程総務委員会（以下「総務委員会」という。）で行い、研究科委員会の承認を得るものとする。

（審査委員会）

第６条　審査委員会は、主査１名及び副査２名により構成する。

2　主査は、本研究科の教授の中から選出する。ただし、指導教員は主査となることができない。

3　副査は、本学の教授、准教授及び講師の中から選出するものとする。
ただし、原則として指導教員及び指導教員の所属する分野の教員は副査となることができない。

4　必要があるときは、前項に定める者のほか、副査２名以内を加えることができる。

5　総務委員会は、指導教員から推薦された審査委員候補者について審議し、審査委員会を設置する。

6　審査委員会は、学位論文の審査を行う。

7　審査は、学位申請者と審査委員会委員が一堂に会して、公開で行う。

8　審査委員会が必要と認めた場合には、学位論文の訳文及び標本等の提出を求めることができるほか、その他の者の出席を求め質疑を行うことができる。

（最終試験）

第７条　審査委員会は、学位論文の審査を終了した後、学位論文を中心として、これに関連ある科目について、口頭又は筆答による最終試験を行う。

2　最終試験の期日、科目及び問題等最終試験の方法は、審査委員会が決定する。

（審査委員会の報告）

第８条　審査委員会は、第６条第５項により審査委員会が設置された後３月以内に、学位論文の審査並びに最終試験を行い、総務委員会が定める日までに学位論文審査結果・最終試験結果報告書を研究科長に提出するものとする。

2　審査結果の報告は、次の各号に掲げる書類をもって行うものとする。

(1) 学位論文の内容の要旨（1 千字以内）
(2) 学位論文の審査の要旨（4 百字以内）

(3) 最終試験の結果の要旨

3　前項第 3 号の最終試験の結果の要旨には、最終試験の方法と結論の要旨を記載するものとする。

（総務委員会の審議）

第９条　研究科長は、前条の報告を受けた後、総務委員会を開催し、学位授与の可否について審議するものとする。

2　研究科長は、総務委員会開催日の 7 日以前に、次の各号に掲げる書類を総務委員会委員に配付するものとする。

(1)　学位論文要旨

(2)　学位論文の審査の要旨（担当者名を記載したもの）

(3)　最終試験の結果の要旨（担当者名を記載したもの）

(4)　履歴書

(5)　学位論文

3　第 1 項の審議を行うには、総務委員会委員（海外渡航中の委員及び休職中の委員を除く。）の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。

4　学位を授与できるものと議決するには、出席者の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

（1 年次修了）

第 10 条　大学院学則第２０条第 1 項ただし書きについての取り扱いは、別に定める。

（学位論文提出の時期）

第 11 条　学位論文は、各年度において総務委員会が定める日までに、所定の書類を添えて提出するものとする。

（適宜の処置）

第 12 条　学位の審査に関し、この内規を適用し得ない場合は、研究科委員会の議を経て、適宜の処置をとるものとする。

附　則

この内規は、平成 15 年 3 月 27 日から施行し、平成 14 年 4 月 1 日から適用する。

附　則（平成２４年３月５日制定）

１　この内規は、平成２４年４月１日から施行する。

２　平成２４年３月３１日において現に在学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による

東京医科歯科大学大学院ＧＰＡ制度に関する要項

（平成２４年３月１２日制定）

（目的）

第１条　この要項は、東京医科歯科大学大学院におけるＧＰＡ（Grade Point Average）制度の運用について必要な事項を定める。

（定義）

第２条　この要項において、ＧＰＡとは、個々の学生の学習到達度をはかる数値で、大学院学則第２１条に基づく成績を点数化（秀＝４、優＝３、良＝２、可＝１、不可＝０）したうえで、履修した科目１単位あたりの成績平均点を求めたものをいう。

２　ＧＰＡ対象授業科目は、次の各号を除く授業科目とする。

(1) ５段階評価を行わない科目

(2) 修了要件に算入しない科目

(3) ＧＰＡへの算入が適当でないと認められる科目

（成績評価及びＧＰ）

第３条　成績評価及びGrade Point（ＧＰ）並びに英文表記は、次のとおりとする。

評　　価		ＧＰ	１００点方式との対応
秀	Ｓ（Superior）	４	９０以上
優	Ａ（Excellent）	３	８９～８０
良	Ｂ（Good）	２	７９～７０
可	Ｃ（Fair）	１	６９～６０
不可	Ｄ（Failing）	０	５９以下

（ＧＰＡの種類及び計算方法）

第４条　ＧＰＡは、当該学年に履修した第２条第２項に定めるＧＰＡ対象授業科目について、「当該年度のＧＰＡ」、「累積ＧＰＡ」に区分し、各区分は次に定める方法により計算するものとする。

＊　ＧＰＡの計算式

$$\text{当該年度のＧＰＡ} = \frac{(4\times\text{秀取得単位数}+3\times\text{優取得単位数}+2\times\text{良取得単位数}+1\times\text{可取得単位数}+0\times\text{不可取得単位数})}{\text{当該年度の総履修登録単位数}}$$

累　積　　（４×秀取得単位数＋３×優取得単位数＋２×良取得単位数＋１×可取得単位数＋０×不可取得単位数）
ＧＰＡ＝　　総履修登録単位数

２　前項の計算式において、総履修登録単位数には不可となった科目の単位を含むが、履修取消とした科目の単位は含まない。
３　計算値は小数点第３位以下を切り捨てて表記するものとする。

（ＧＰＡ計算期日）
第５条　ＧＰＡの計算は、学年ごとに所定の期日までに確定した成績に基づいて行う。

（成績証明書への記載）
第６条　成績証明書への記載は、累積ＧＰＡを使用する。

（その他）
第７条　この要項に定めるもののほか、ＧＰＡ制度の実施に関して必要な事項は、各研究科において、別に定める。

附　則
１　この要項は、平成２４年３月１２日から施行し、平成２３年４月１日から適用する。
２　東京医科歯科大学大学院に平成２３年３月３１日に在学し，引き続き本学大学院の在学者となったものについては，この内規の規定にかかわらず，なお従前の例による。

7．学生周知事項

1）連絡・通知

学生へのすべての告示、通知、連絡事項（奨学金関係、健康診断、授業料の納付等）は、掲示により行いますので、見落としがないよう十分注意して下さい。(6 号館前大学院掲示板)

掲示板には、逐次、新しい掲示をするので、不利益を被らないよう心がけて下さい。

2）学生証

学生証は、本学の学生である旨を証明するとともに、学内での名札として、入学時に交付したものを在学中使用しますので、紛失・破損等のないよう大切に取り扱って下さい。

また、通学定期券の購入時等に提示を求められたときに提示できるよう、常に携帯するようにして下さい。

(1) 再交付

学生証を紛失又は破損等した場合は、速やかに学務企画課に申し出て、再交付の手続きをとって下さい。また、再交付を行う場合は、再交付にかかる費用を負担することとなりますので注意して下さい。

(2) 返却

修了、退学、除籍となった場合は、直ちに学生証を学務企画課に返却して下さい。なお、返却ができない場合は、再交付にかかる費用と同額を負担することとなりますので注意して下さい。

(3) 有効期限の更新

在学期間延長や長期履修により有効期間が経過した場合は、学生証の有効期限の更新が必要となりますので、学務企画課に申し出てください。

（問い合わせ先）学務企画課（TEL 5803－5074）

3）証明書等

証明書等は、教務課で発行するものと、自動発行機で発行するものがあります。

発行場所	種類	受付時間	問い合わせ先
自動発行機 5 号館 3 階 学生談話室	在学証明書　（和文）	8:30-21:00 （発行には学生証が必要）	学務企画課 TEL：5803-5074
	学生旅客運賃割引証（学割）		
教務課※ 1 号館西 1 階	在学証明書　（英文）	8:30-17:15	教務課 TEL：5803-4676
	成績証明書　（和文・英文）		
	修了見込証明書（和文・英文）		
	その他諸証明書（和文・英文）		

※教務課発行の証明書の手続きについて

教務課発行の証明書を希望する場合は、「証明書交付願」を教務課窓口に提出して請求すること。なお、交付には数日間を要する。

※修了生の証明書発行は、学務企画課で行っている。発行している証明書の種類は上記のものとほぼ同様だが、修了見込証明書に関しては、「修了証明書」となる。

郵送での申込みについて

自動発行機以外で発行している証明書に関しては、郵送で申込むことができる。その際は、「証明書交付願」と返信用封筒（切手貼付）のうえ、請求すること。なお、郵送料が不足する場合は、郵便局からの請求に基づき支払うこと。

申込み先

（在学生）
〒113-8510　東京都文京区湯島 1-5-45
東京医科歯科大学学務部教務課　宛

（修了生）
〒113-8510　東京都文京区湯島 1-5-45
東京医科歯科大学学務部学務企画課　宛

４）学生旅客運賃割引証（学割証）

(1)　学生が課外活動又は帰省などで JR 線を利用する場合、乗車区間が片道 100km を超えるときに旅客運賃の割引（２割）を受けることができます。

この制度は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的とするものなので、計画的に使用して下さい。（年間使用限度：10 枚／人、有効期間：発行日から２ヶ月間）

(2)　次に掲げる行為があったときは、普通運賃の２倍の追徴金を取られるばかりでなく、本学の全学生に対する学割証の発行が停止されることがありますので、乱用又は不正に使用することのないよう注意して下さい。

①　他人名義の学割証を使って乗車券を購入したとき
②　名義人が乗車券を購入し、これを他人に使用させたとき
③　使用有効期間を経過したものを使用したとき

(3)　学割証は、学生談話室（５号館３階）に設置されている「自動発行機」にて発行します。（利用時間：平日 8:30～21:00）

（問い合わせ先）学務企画課（TEL 5803－5074）

５）住所・氏名等の変更

本人又は保証人の住所・本籍又は氏名等（電話番号を含む）に変更が生じた場合は、速やかに教務課大学院室に申し出て所定の手続きをとって下さい。

この手続きを怠った場合、大学から本人又は保証人に緊急に連絡する必要が生じても連絡が取れないので注意して下さい。

提出・問い合わせ窓口

学務部教務課大学院室（１号館西１階）

届出用紙

	届出用紙	添付、提示書類
改姓した場合	改姓（名）届 学生証記載事項変更	改姓（名）を証明する書類を添付
本人・保証人が住所・本籍地を変更した場合	住所・本籍地変更届	住所・本籍地を変更したことを証明する書類を添付または提示
保証人を変更した場合	保証人変更届	なし

６）研修・研究依頼

外部の研究機関等に研修（実習）又は研究を希望する場合は、教務課大学院室に研修・研究依頼書を提出してください。

7）遺失物及び拾得物

学内での遺失物又は拾得物の届出は以下のとおりとなります。

(1) 医学部内・・・・・・・・・・医学部総務課（A 棟 1 階：TEL 5803－5096）

(2) 歯学部内・・・・・・・・・・歯学部総務課（歯科棟南 2 階：TEL 5803－5406）

(3) その他・・・・・・・・・・・紛失及び拾得場所（建物）を管理する各事務部

8）進路調査

大学院を修了（見込みを含む）する場合は、修了日（見込み日）までに必ず進路調査票を学生支援課に提出して下さい。

（問い合わせ先）学生支援課（TEL 5803－5077）

9）健康相談・メンタル相談

（保健管理センター：TEL 5803 － 5081、http://www.tmd.ac.jp/cmn/hsc/hsc.htm）

保健管理センターは本学の学生・職員が心身共に健康な生活を送り、所期の目的を達成することができるよう、助言・助力することを目的としている施設です。医学部・歯学部付属病院への紹介状の発行も行っています。

(1) 健康相談・メンタル相談

① 健康相談は午前 10 時～12 時、午後 1 時～3 時まで受け付けます。

② 医師の担当時間は、保健管理センターホームページ（http://www.tmd.ac.jp/cmn/hsc/hsc.htm）で確認してください。

③ 時間外でも医師・看護師がいる場合は相談に応じます。

④ センターには自分で測定できる身長計、体重計、血圧計などが設置してあります。

(2) 健康診断

健康管理は自己責任ですので、必ず受けるようにしてください。詳しい日程・検査の種類等は保健管理センターホームページを確認してください。

① 一般定期健康診断、B 型肝炎抗原抗体検査　　5 月

② 放射線業務従事者健康診断　　4 月、10 月

③ その他　B 型肝炎の予防接種、インフルエンザの予防接種、ツベルクリン反応　等

(3) 健康診断書の発行

各種資格試験受験、病院研修申請、就職・進学などを目的として必要な健康診断書を発行しています。ただし、診断書の発行は定期検診を受検している方に限ります。

10）その他

(1) 個人宛の郵便物等には、必ず分野名の記載を相手方に周知してください。

(2) 本学では、構内での交通規制が行われており、学生の車での通学は認められていませんので、注意して下さい。ただし、電車、バス等で通学することが困難な者については、申請に基づき許可することがあります。

(3) 担当課

① 教務事務・・・・・・・学務部教務課大学院室
（1 号館西 1 階：TEL 5803－4676、4679、4534）

② 授業料の納入・・・・・財務部資金課収入管理掛
（1 号館西 3 階：TEL 5803－5048）

③ 奨学金・授業料免除・・学生支援課
（1 号館西 1 階：TEL 5803－5077）

8．諸手続きについて

各手続きに必要な本学指定の様式については、教務課大学院室（1号館西1階）もしくは本学ホームページより取得することができる。

本学ホームページ（http://www.tmd.ac.jp）→　学部・大学院をクリック　→
大学院医歯学総合研究科をクリック　→　学務部教務課大学院室をクリック　→諸手続
URL：http://www.tmd.ac.jp/faculties/medical-dental/kyoumuka/index.html#anchor16

1）休学

病気その他の事由により、引き続き3ヶ月以上就学できない場合は下記の手続きにより休学もしくは休学延長することができる。なお、休学期間は通算して2年を超えることはできない。また、休学期間は在学期間に算入しないものとする。

提出・問い合わせ窓口

学務部教務課大学院室（1号館西1階）

提出書類

・休学願または休学延長願（本学指定様式）
※病気療養を理由とする場合は、医師の診断書を添付すること

提出期限

休学を希望する1ヶ月前まで

2）復学

休学している学生が、休学期間途中もしくは休学期間満了時に復学を希望する場合は、下記の手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

学務部教務課大学院室（1号館西1階）

提出書類

・復学願（本学指定様式）
※病気療養を理由に休学した場合は、医師の診断書を添付すること

提出期限

復学を希望する1ヶ月前まで

3）退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、下記の手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

学務部教務課大学院室（1号館西1階）

提出書類

・退学願（本学指定様式）

提出期限

退学を希望する1ヶ月前まで

4）研究指導委託

他の大学院、研究所又は高度の水準を有する病院（以下「他機関」という。）において研究指導を受けたい場合は、先方とあらかじめ協議したうえで下記の手続きを行わなければならない。なお、申請期間は年度を超えることができない。翌年度も引き続き研究指導を受ける場合は、2月末までに再度申請をすること。
修士課程在学者が研究指導委託できるのは最大1年間である。

提出・問い合わせ窓口

学務部教務課大学院室（1号館西1階）

提出書類

・研究指導委託申請書（本学指定様式）

提出期限

研究指導委託希望日の2ヶ月前まで

※研究指導委託に伴う実習用定期の申請について

研究指導委託申請の承認後、他機関に通学することになった場合は、申請により実習用定期を購入することができる。

提出・問い合わせ窓口

学務部教務課大学院室（１号館西１階）

提出書類

実習用通学定期乗車券申込書（本学指定様式）

提出期限

２ヶ月前まで（鉄道会社の許可を得るのに１ヶ月程度要する）

５）留学

外国の大学院又はこれに相当する高等教育機関において修学する場合は、先方とあらかじめ協議のうえで下記の手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

学務部教務課大学院室（１号館西１階）

提出書類

・留学願（本学指定様式）
・指導教員の理由書（書式自由）
・相手先の受入承諾書等の書類

提出期限

留学希望日の２ヶ月前まで

【留学期間を変更したい場合】

提出・問い合わせ窓口

学務部教務課大学院室（１号館西１階）

提出書類

・留学期間変更願（本学指定様式）

提出期限

留学期間変更希望日の２ヶ月前まで

６）在学期間延長

標準修業年限を超えて在学（休学期間を除く）しようとする者は、下記の手続きを行わなければならない。なお、在学期間は標準修業年限の２倍（医歯学系専攻：８年、生命理工学系専攻：６年、修士課程：４年（ただし、医療管理学コース：２年）まで延長することができる。なお、在学期間に休学期間は含めない。

提出・問い合わせ窓口

学務部教務課大学院室（１号館西１階）

提出書類

・在学期間延長願（本学指定様式）

提出期限

在学期間満了日の１ヶ月前まで

７）専攻分野変更

在学中に研究内容に変更が生じた等の理由で、所属研究分野の変更を希望する場合は、下記の手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

学務部教務課大学院室（１号館西１階）

提出書類

・専攻分野変更願（本学指定様式）

提出期限

変更希望日の１ヶ月前まで

８）在学コース変更

在学中に職に就いた場合、もしくは社会人コースで入学したがその事由が消滅した場合は下記の手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

学務部教務課大学院室（１号館西１階）

提出書類

・在学コース変更願（本学指定様式）

※「一般コース」から「社会人コース」への変更を希望する場合は下記も添付すること

・勤務先の承諾書

・指導教員の変更理由書（書式自由）

提出期限

変更希望日の１ヶ月前まで

９）転学

他大学への転学するための転入学試験を受験する場合は下記の手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

学務部教務課大学院室（１号館西１階）

提出書類

・転入学試験受験諸請求願（本学指定様式）

提出期限

受験日の２ヶ月前まで

転入学試験受験の結果、合格した場合は下記の手続きを行わなければならない。

提出書類

・転学願（本学指定様式）

・合格通知書の写し

提出期限

転入学日の２ヶ月前まで

１０）死亡

学生本人が死亡した場合、保証人は速やかに下記手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

学務部教務課大学院室（１号館西１階）

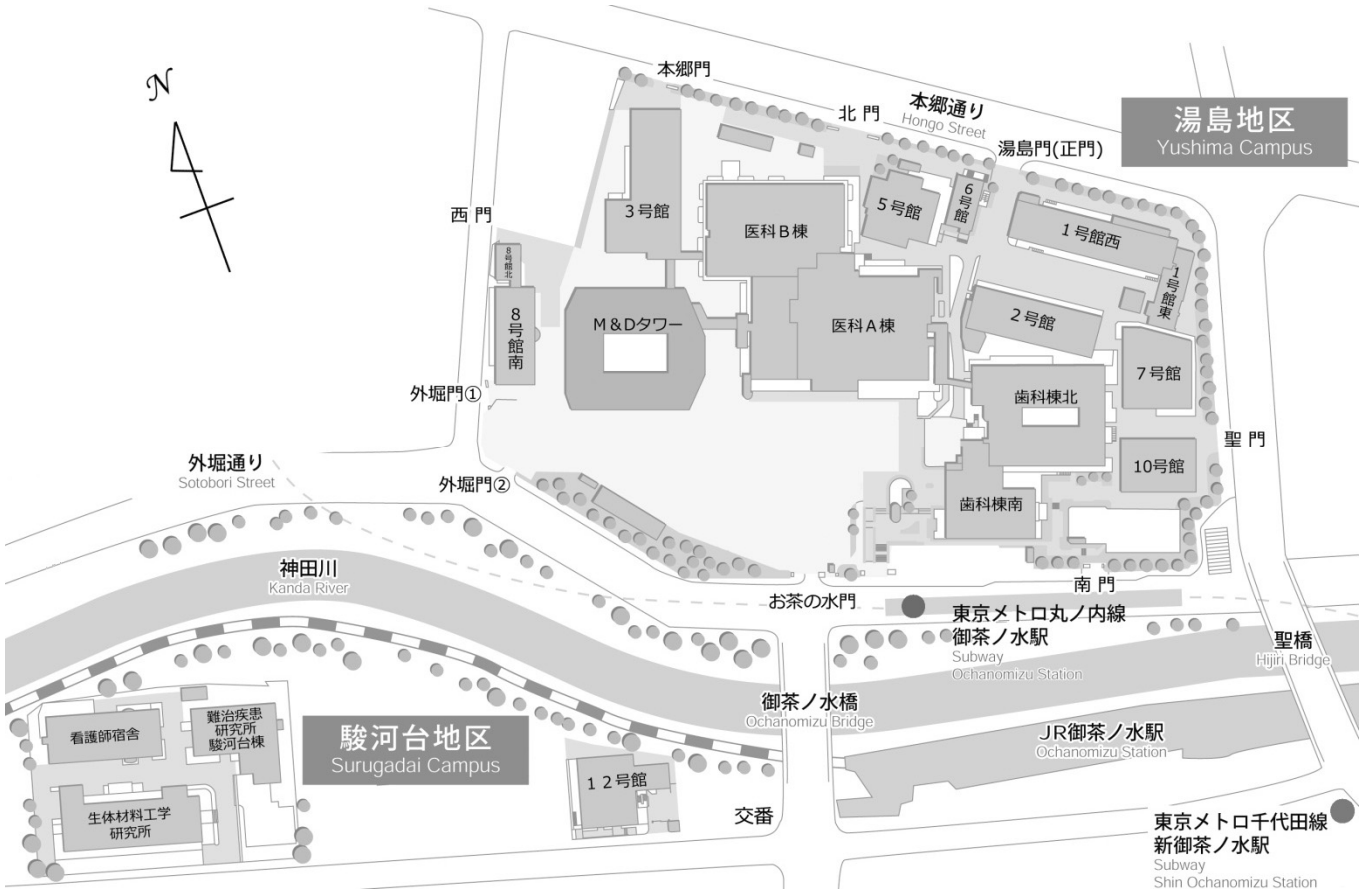
提出書類

・死亡届（本学指定様式）

【注意】

上記の諸手続きは研究科運営委員会付議事項のため、提出期限は厳守のこと。
期限を過ぎての提出は、希望日以降の許可となる。
８月は研究科運営委員会が開催されないため、９月から希望する学生は、上記の提出期限の更に１ヶ月前までに届け出ること。

9．学内主要施設

施設名	所在地	内線番号
教務課大学院室	1号館西1階	4676, 4679, 4534
学生支援課	1号館西1階	5077
学務企画課	1号館西1階	5074
入試課	1号館西1階	4924
財務部資金課収入管理掛	1号館西3階	5042
図書館	M&Dタワー3階	5592
保健管理センター	5号館2階	5081
談話室（証明書自動発行機）	5号館3階	—
生活協同組合　食堂・売店	5号館1階・地下1階	—
医歯学研究支援センター	8号館北・南	5788

10. 校内案内図